

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部・学科の設置							
設置者		カ ^ホ ッコウホウシ ^ン チハ ^ク コウキ ^ョ ウタ ^イ カ ^ク 学校法人千葉工業大学							
フリガナ		チバコウギョウダイガク 千葉工業大学 (chiba institute of technology)							
大学の位置		千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号							
大学の目的		本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的		汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解のもとに、機械及び機械要素の設計や製作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、電子技術や計測制御に関する知識と技術を習得させ、新たな機械電子システムを創り出すための応用的な能力を身に付けて、次世代の機械電子システムを創成する人材を養成する							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	工学部 [Faculty of Engineering] 機械電子創成工学科 [Department of Innovative Mechanical and Electronic Engineering]	年	人	年次人	人	学士（工学）	年 月 第 年次 平成28年4月 第1年次	第1・2年次 新習志野校舎 千葉県習志野市芝園2丁目1番1号 第3・4年次 津田沼校舎 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号	
	計		110	-	440				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		工学部 機械サイエンス学科（廃止） (△315) 電気電子情報工学科（廃止） (△300) 生命環境科学科（廃止） (△230) 建築都市環境学科（廃止） (△300) デザイン科学科（廃止） (△180) 未来ロボティクス学科（廃止） (△110) ※平成28年4月学生募集停止 工学部 機械工学科 (140) (平成27年4月届出) 電気電子工学科 (140) (平成27年4月届出) 情報通信システム工学科 (110) (平成27年4月届出) 先端材料工学科 (110) (平成27年4月届出) 応用化学科 (110) (平成27年4月届出) 創造工学部 建築学科 (140) (平成27年4月届出) 都市環境工学科 (110) (平成27年4月届出) デザイン科学科 (120) (平成27年4月届出) 先進工学部 未来ロボティクス学科 (120) (平成27年4月届出) 生命科学科 (110) (平成27年4月届出) 知能メディア工学科 (110) (平成27年4月届出)							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	工学部 機械電子創成工学科		70科目	31科目	9科目	110科目	124単位			

教員組織概要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	工学部 機械工学科		5人 (5)	4人 (4)	0人 (0)	3人 (3)	12人 (12)	0人 (0)	118人 (118)	平成27年4月設置届出
		工学部 電気電子工学科		9人 (9)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	125人 (125)	平成27年4月設置届出
		工学部 機械電子創成工学科		6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	1人 (1)	11人 (11)	0人 (0)	113人 (113)	平成27年4月設置届出
		工学部 情報通信システム工学科		7人 (7)	1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)	9人 (9)	0人 (0)	112人 (112)	平成27年4月設置届出
		工学部 先端材料工学科		5人 (5)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	116人 (116)	平成27年4月設置届出
		工学部 応用化学科		5人 (5)	4人 (4)	0人 (0)	1人 (1)	10人 (10)	0人 (0)	115人 (115)	平成27年4月設置届出
		創造工学部 建築学科		7人 (7)	5人 (5)	0人 (0)	1人 (1)	13人 (13)	0人 (0)	131人 (131)	平成27年4月設置届出
		創造工学部 都市環境工学科		8人 (8)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	124人 (124)	平成27年4月設置届出
		創造工学部 デザイン科学科		8人 (8)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	117人 (117)	平成27年4月設置届出
		先進工学部 未来ロボティクス学科		7人 (7)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	113人 (113)	平成27年4月設置届出
		先進工学部 生命科学科		7人 (7)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	108人 (108)	平成27年4月設置届出
		先進工学部 知能メディア工学科		8人 (8)	1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)	10人 (10)	0人 (0)	111人 (111)	平成27年4月設置届出
		計		82人 (82)	37人 (37)	0人 (0)	8人 (8)	127人 (127)	0人 (0)	-人 (-)	
	既存	情報科学部 情報工学科		9人 (9)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	14人 (14)	1人 (1)	213人 (213)	
		情報ネットワーク学科		9人 (9)	5人 (5)	0人 (0)	1人 (1)	15人 (15)	0人 (0)	211人 (211)	
		計		18人 (18)	10人 (10)	0人 (0)	1人 (1)	29人 (29)	1人 (1)	-人 (-)	
		社会システム科学部 経営情報科学科		9人 (9)	2人 (2)	0人 (0)	2人 (2)	13人 (13)	0人 (0)	222人 (222)	
		プロジェクトマネジメント学科		10人 (10)	3人 (3)	0人 (0)	1人 (1)	14人 (14)	0人 (0)	220人 (220)	
		金融・経営リスク科学科		5人 (5)	2人 (2)	0人 (0)	1人 (1)	8人 (8)	0人 (0)	213人 (213)	
		計		24人 (24)	7人 (7)	0人 (0)	4人 (4)	35人 (35)	0人 (0)	-人 (-)	
		教育センター		29人 (29)	28人 (28)	0人 (0)	13人 (13)	70人 (70)	0人 (0)	139人 (139)	
		計		29人 (29)	28人 (28)	0人 (0)	13人 (13)	70人 (70)	0人 (0)	-人 (-)	
		合 計		153人 (153)	82人 (82)	0人 (0)	26人 (26)	261人 (261)	1人 (1)	-人 (-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		136人 (136)		61人 (61)		197人 (197)		
	技 術 職 員		10人 (10)		6人 (6)		16人 (16)		
	図 書 館 専 門 職 員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)		
	そ の 他 の 職 員		32人 (32)		15人 (15)		47人 (47)		
	計		178人 (178)		82人 (82)		260人 (260)		

校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	
	校 舎 敷 地		157,062.46㎡	0㎡	0㎡	157,062.46㎡	
	運 動 場 用 地		253,310.00㎡	0㎡	0㎡	253,310.00㎡	
	小 計		410,372.46㎡	0㎡	0㎡	410,372.46㎡	
	そ の 他		77,190.40㎡	0㎡	0㎡	77,190.40㎡	
	合 計		487,562.86㎡	0㎡	0㎡	487,562.86㎡	

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		142,602.53 m ² (142,602.53m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	142,602.53 m ² (142,602.53m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	96 室	48 室	306 室	5 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		工学部機械電子創成工学科			11 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
		冊	種		点	点	点			
	工学部 機械電子創成工学科	244,922 [31,637] (212,530 [25,153])	3,953 [1,697] (3,953 [1,697])	3,463 [3,450] (3,463 [3,450])	2,760 (2,600)	0 (0)	0 (0)			
	計	244,922 [31,637] (212,530 [25,153])	3,953 [1,697] (3,953 [1,697])	3,463 [3,450] (3,463 [3,450])	2,760 (2,600)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数					
		4,707m ²	1,028		316,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,674.79 m ²	武 道 館 ・ 屋 内 練 習 場 ・ 野 球 場 陸 上 競 技 場 ・ ラ ク ィ ッ ャ ー 場							
経費の見積り 及び維持方法 の 概 要	経費の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費（運 用コスト含む）を含 む。
		教員1人当り研究費等		1,100千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	- 千円	- 千円	
		共 同 研 究 費 等		5,300千円	5,300千円	5,300千円	5,300千円	- 千円	- 千円	
		図 書 購 入 費	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	- 千円	- 千円	
	学生1人当り 納付金	設 備 購 入 費	11,100千円	11,100千円	11,100千円	11,100千円	11,100千円	- 千円	- 千円	
			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等により維持する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	千葉工業大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年 限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	工学部	-	-	-	-	-	1.15	-	第1・2年次 新習志野校舎 千葉県習志野市芝園2丁目1 番1号	
	機械サイエンス学科	4	315	-	1,260	学士（工学）	1.15	平成15年度	第3・4年次 津田沼校舎 千葉県習志野市津田沼2丁目 17番1号	
	電気電子情報工学科	4	300	-	1,200	学士（工学）	1.16	平成15年度		
	生命環境科学科	4	230	-	920	学士（工学）	1.15	平成15年度		
	建築都市環境学科	4	300	-	1,200	学士（工学）	1.15	平成15年度		
	デザイン科学科	4	180	-	720	学士（工学）	1.15	平成15年度		
	未来ロボティクス学科	4	110	-	440	学士（工学）	1.16	平成18年度		
	情報科学部	-	-	-	-	-	1.16	-		
	情報工学科	4	140	-	560	学士（情報科学）	1.15	平成13年度		
	情報ネットワーク学科	4	140	-	560	学士（情報科学）	1.16	平成13年度		
	社会システム科学部	-	-	-	-	-	1.17	-		
	経営情報科学科	4	110	-	440	学士（経営情報科学）	1.16	平成13年度		
	プロジェクトマネジメント学科	4	110	-	440	学士（プロジェクトマネジメント）	1.16	平成13年度		
	金融・経営リスク科学科	4	60	-	240	学士（リスク科学）	1.20	平成21年度		
	工学研究科	-	-	-	-	-	0.49	-		
	機械サイエンス専攻 博士前期課程	2	80	-	160	修士（工学）	0.42	平成16年度		
	電気電子情報工学専攻 博士前期課程	2	70	-	140	修士（工学）	0.57	平成16年度		
	生命環境科学専攻 博士前期課程	2	80	-	160	修士（工学）	0.50	平成16年度		
	建築都市環境学専攻 博士前期課程	2	80	-	160	修士（工学）	0.40	平成16年度		
	デザイン科学専攻 博士前期課程	2	40	-	80	修士（工学）	0.54	平成16年度		
	未来ロボティクス専攻 修士課程	2	30	-	60	修士（工学）	0.71	平成16年度		
	工学専攻 博士後期課程	3	24	-	72	博士（工学）	0.38	平成16年度		
情報科学研究科	-	-	-	-	-	0.32	-			
情報科学専攻 博士前期課程	2	70	-	140	修士（工学）	0.32	平成16年度			
情報科学専攻 博士後期課程	3	4	-	12	博士（工学）	0.25	平成16年度			
社会システム科学研究科	-	-	-	-	-	0.33	-			
マネジメント工学専攻 博士前期課程	2	40	-	140	修士（工学）	0.28	平成16年度			
マネジメント工学専攻 博士後期課程	3	2	-	6	博士（工学）	1.25	平成16年度			
附属施設の概要		名称：千葉工業大学附属研究所								
		目的：知識の総合化・融合化を図るとともに、研究倫理を確立し、以って基盤的研究と時代に先駆する課題の学理とその応用に関する研究の推進を通し、学術文化の発展・充実に寄与することを目的とする。								
		所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号								
		設置年月：平成16年4月								
		規模等：2,025 m ²								
		名称：千葉工業大学未来ロボット技術研究センター								
		目的：ロボットに関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。								
		所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号								
		設置年月：平成15年4月								
		規模等：686 m ²								
		名称：千葉工業大学惑星探査研究センター								
		目的：宇宙及び惑星に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。								
		所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号								
		設置年月：平成21年4月								
		規模等：1,255 m ²								
		名称：千葉工業大学人工知能・ソフトウェア技術研究センター								
		目的：ステアラボは、人工知能及びソフトウェア技術に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。								
		所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号								
		設置年月：平成27年4月								
		規模等：245 m ²								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 機械電子創成工学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養 科目	基礎 科目	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
		英語コミュニケーション A 1	1前		1			○							兼7
		ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
		英語コミュニケーション A 2	1後		1			○							兼7
		英語コンプリヘンション A 1	2前		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション A 1	2前		1			○							兼3
		英語コンプリヘンション A 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション A 2	2後		1			○							兼3
		センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
		英語コミュニケーション B 1	1前		1			○							兼4
		センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
		英語コミュニケーション B 2	1後		1			○							兼4
		アドバンスト・コンプリヘンション B 1	2前		1			○							兼9
		アドバンスト・コミュニケーション B 1	2前		1			○							兼5
		アドバンスト・コンプリヘンション B 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション B 2	2後		1			○							兼7
		英語コンプリヘンション C 1	1前		1			○							兼7
		英語コミュニケーション C 1	1前		1			○							兼9
		英語コンプリヘンション C 2	1後		1			○							兼7
		英語コミュニケーション C 2	1後		1			○							兼9
		アドバンスト・コンプリヘンション C 1	2前		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション C 1	2前		1			○							兼3
		アドバンスト・コンプリヘンション C 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション C 2	2後		1			○							兼3
		日本語表現法	1前	1				○							兼10
	教養 共通 科目	情報リテラシー	1前・後	2				○							兼3
		スポーツ科学	1前・後	2				○							兼9
		初年次教育	1前	1				○			1				
		キャリアデザイン 1	1前	1				○		1					
		キャリアデザイン 2	1後	1				○		1					
		キャリアデザイン 3	3前	1				○		1					
		小計 (31科目)	—	9	24	0				1	1	0	0	0	兼55
	教養 特別 科目	異文化理解	1前・後, 2前	2				○							兼6
		言語と文化 1	1前・後, 2前	2				○							兼9
		言語と文化 2	1前・後, 2前	2				○							兼9
		グローバル時代の法	3前・後, 4前		2			○							兼3
		国際社会論	3前・後, 4前		2			○							兼3
		哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
		倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
		文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
		歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
		心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
		身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
		憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
		政治と社会	3前・後, 4前		2			○							兼2
		経済学	3前・後, 4前		2			○							兼3
		現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
		科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
		環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
		生命科学	3前・後, 4前		2			○							兼2
		地球科学	3前・後, 4前		2			○							兼3
		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前		2			○							兼8
		物質科学	3前・後, 4前		2			○							兼3
	総合	課題探究セミナー	2後		2			○							兼19
		総合学際科目	2後		2			○							兼17
		小計 (23科目)	—	6	40	0				0	0	0	0	0	兼60
	教養 特別 科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○							兼2
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○							兼2
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○							兼2
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2			○							兼5
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
		国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
		国内インターン	1・2・3・4		1				○	1					兼1
	教養 特別 科目	ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
		総合科学特論	4前・後		2			○							兼5
		小計 (9科目)	—	0	11	0				1	0	0	0	0	兼13

専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○									兼2	
	微分積分	1後	2			○									兼2	
	微分方程式	2前		2		○									兼2	
	応用数学	2後		2		○				1						
	線形代数基礎	1前	2			○									兼2	
	線形代数応用	1後		2		○									兼2	
	基礎統計学	2前		2		○									兼2	
	物理学基礎	1前	2			○									兼2	
	物理学実験	1後		2				○							兼5	
	化学基礎	2前		2		○									兼2	
小計（10科目）		—	8	12	0	—			0	1	0	0	0	兼17	—	
専門基幹科目	デジタルものづくり	1前		2		○					1				オムニバス 共同（一部） 共同	
	機構学	1後		2		○				1						
	力学	1後		2		○				1						
	材料力学	2前		2		○					1					
	電気磁気学	1後		2		○				1						
	電気回路	2前		2		○						1				
	電子デバイス	2前		2		○				1						
	機械電子創成概論	1前	2			○				6	4		1			
	機械電子創成基礎実験・実習	2前	2					○		2	2					
	小計（9科目）		—	4	14	0	—			6	4	0	1	0		0
専門科目	専門展開科目	機械設計製図学	2後	2		○				1					オムニバス	
		機械力学	3前	2							1					
		機械加工法	2後	2			○				1					
		材料とその性質	2後	2			○				1					
		シミュレーション工学	3後	2			○					1				
		トライボロジー	3前	2			○				1					
		熱・流体工学	3後	2			○					1				
		精密加工	3後	2			○				1					
		アナログ回路	2後	2			○				1					
		デジタル回路	2後	2								1				
	専門基礎科目	半導体電力変換工学	3前	2			○				1					オムニバス オムニバス 共同 共同 共同
		電気機器学	3後	2			○				1					
		プログラミング言語	2後	2			○				1	1				
		組込みシステム	3前	2			○					1				
		ネットワークプログラミング	3後	2			○					1				
		システム制御理論	3前	2			○				1					
		センサ工学	3前	2			○					1				
		システム制御工学	3後	2			○				1					
		計測工学	3後	2			○						1			
		機械電子創成発展講義1	4前	2			○				1	2				
		機械電子創成発展講義2	4前	2			○				2	1				
		技術者倫理	4前	2			○				1					
		機械電子創成基盤実験・実習	2後	2					○		3	2				
		機械電子創成応用実験・実習	3前	2					○		1			1		
		機械電子創成発展実験・実習	3後	2					○		6	4		1		
		ゼミナール1	4前	2					○		6	4		1		
		ゼミナール2	4後	2					○		6	4		1		
		卒業研究	4通	5					○		6	4		1		
小計（28科目）		—	15	44	0	—			6	4	0	1	0	0		
合計（110科目）		—	42	145	0	—			6	4	0	1	0	兼113	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
以下の条件を満たし、総単位124単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目15単位を含み、36単位以上 （専門科目） 必修科目27単位を含み、専門基礎科目8単位以上、専門基幹科目4単位以上、専門展開科目15単位以上を満たし専門科目の選択科目から50単位以上 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））									1学年の学期区分				2学期			
									1学期の授業期間				15週			
									1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

津田沼キャンパス

(工学部 機械電子創成工学科)

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル																
		情報リテラシー																
		人間力養成																
		キャリアデザイン 3	3前	1			○			1								
	小計（1科目）		—	1	0	0				1	0	0	0	0	兼0			
	教養共通科目	国際理解	グローバル時代の法 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前		2 2		○ ○									兼3 兼3	
		人間・社会・自然の理解	政治と社会 経済学	3前・後, 4前 3前・後, 4前		2 2		○ ○									兼2 兼3	
			生命科学	3前・後, 4前		2		○									兼2	
			地球科学	3前・後, 4前		2		○									兼3	
			物理の世界と先端技術	3前・後, 4前		2		○									兼8	
			物質科学	3前・後, 4前		2		○									兼3	
		総合																
		小計（8科目）		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼25	—	
	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○								兼2	集中 集中	
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○								兼2		
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○								兼2		
スポーツアクティブラーニング		3前・後, 4前・後		2		○									兼5			
ソーシャルアクティブラーニング		1・2・3・4		1					○						兼1			
国際インターン		1・2・3・4		1					○						兼1			
国内インターン		1・2・3・4		1					○						兼1			
ボランティア		1・2・3・4		1					○						兼1			
総合科学特論		4前・後		2		○									兼5			
小計（9科目）		—	0	11	0	—			1	0	0	0	0	兼13	—			

専門科目	専門基礎科目																		
	小計（0科目）	—	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	兼0	—					
	専門基幹科目																		
	小計（0科目）	—	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	兼0	—					
	専門展開科目	機械力学	3前	2	○			1											
		シミュレーション工学	3後	2	○			1											
		トライボロジー	3前	2	○			1											
		熱・流体工学	3後	2	○			1											
		精密加工	3後	2	○			1											
		半導体電力変換工学	3前	2	○			1											
		電気機器学	3後	2	○			1											
		組込みシステム	3前	2	○				1										
		ネットワークプログラミング	3後	2	○				1										
		システム制御理論	3前	2	○			1											
		センサ工学	3前	2	○				1										
		システム制御工学	3後	2	○			1											
		計測工学	3後	2	○						1								
		機械電子創成発展講義 1	4前	2	○			1	2										
		機械電子創成発展講義 2	4前	2	○			2	1										
		技術者倫理	4前	2	○			1											
		機械電子創成応用実験・実習	3前	2		○		1				1							
		機械電子創成発展実験・実習	3後	2		○		6	4		1								
		ゼミナール 1	4前	2		○		6	4		1								
		ゼミナール 2	4後	2		○		6	4		1								
		卒業研究	4通	5		○		6	4		1								
	小計（21科目）	—	13	32	0	—	6	4	0	1	0	兼0	—						
合計（39科目）		—	14	59	0	—	6	4	0	1	0	兼35	—						
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等												
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 5 単位を含み、3 6 単位以上 （専門科目） 必修科目 2 7 単位を含み、専門基礎科目 8 単位以上、専門基幹科目 4 単位以上、専門展開科目 1 5 単位以上を満たし専門科目の選択科目から 5 0 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））							1 学年の学期区分			2 学期									
							1 学期の授業期間			1 5 週									
							1 時限の授業時間			9 0 分									

教 育 課 程 等 の 概 要

新習志野キャンパス

(工学部 機械電子創成工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養基礎科目	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
	英語コミュニケーションA 1	1前		1			○							兼7
	ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
	英語コミュニケーションA 2	1後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンションA 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションA 1	2前		1			○							兼3
	英語コンプリヘンションA 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションA 2	2後		1			○							兼3
	センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
	英語コミュニケーションB 1	1前		1			○							兼4
	センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
	英語コミュニケーションB 2	1後		1			○							兼4
	アドバンスト・コンプリヘンションB 1	2前		1			○							兼9
	アドバンスト・コミュニケーションB 1	2前		1			○							兼5
	アドバンスト・コンプリヘンションB 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションB 2	2後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンションC 1	1前		1			○							兼7
	英語コミュニケーションC 1	1前		1			○							兼9
	英語コンプリヘンションC 2	1後		1			○							兼7
	英語コミュニケーションC 2	1後		1			○							兼9
	アドバンスト・コンプリヘンションC 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションC 1	2前		1			○							兼3
	アドバンスト・コンプリヘンションC 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションC 2	2後		1			○							兼3
	日本語表現法	1前	1				○							兼10
	情報リテラシー	1前・後	2				○							兼3
	スポーツ科学	1前・後	2				○							兼9
	初年次教育	1前	1				○			1				
	キャリアデザイン 1	1前	1				○		1					
	キャリアデザイン 2	1後	1				○		1					
	小計 (30科目)	—	8	24	0				1	1	0	0	0	兼55
	異文化理解	1前・後, 2前	2				○							兼6
	言語と文化 1	1前・後, 2前	2				○							兼9
	言語と文化 2	1前・後, 2前	2				○							兼9
	哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
	歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
	心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
	身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
	憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
	現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
	科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
	環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
	課題探究セミナー	2後		2			○							兼19
	総合学際科目	2後		2			○							兼17
	小計 (15科目)	—	6	24	0				0	0	0	0	0	兼43
教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
	国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
	国内インターン	1・2・3・4		1				○	1					
	ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
	小計 (4科目)	—	0	4	0				1	0	0	0	0	兼3

専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○									兼2		
		微分積分	1後	2			○									兼2		
		微分方程式	2前		2		○									兼2		
		応用数学	2後		2		○				1							
		線形代数基礎	1前	2			○									兼2		
		線形代数応用	1後		2		○									兼2		
		基礎統計学	2前		2		○									兼2		
		物理学基礎	1前	2			○									兼2		
		物理学実験	1後		2				○							兼5		
		化学基礎	2前		2		○									兼2		
	小計（10科目）	—	8	12	0	—			0	1	0	0	0	0	兼17	—		
	専門基幹科目	デジタルものづくり	1前		2		○				1						オムニバス 共同（一部） 共同	
		機構学	1後		2		○				1							
		力学	1後		2		○				1							
		材料力学	2前		2		○					1						
		電気磁気学	1後		2		○				1							
		電気回路	2前		2		○						1					
		電子デバイス	2前		2		○				1							
		機械電子創成概論	1前	2			○				6	4		1				
		機械電子創成基礎実験・実習	2前	2					○		2	2						
		小計（9科目）	—	4	14	0	—			6	4	0	1	0	0	0		—
専門展開科目	機械設計製図学	2後		2		○				1						オムニバス		
	機械加工法	2後		2		○				1								
	材料とその性質	2後		2		○				1								
	アナログ回路	2後		2		○				1								
	デジタル回路	2後		2		○					1							
	プログラミング言語	2後		2		○				1	1							
	機械電子創成基盤実験・実習	2後	2					○		3	2						共同	
	小計（7科目）	—	2	12	0	—			6	4	0	1	0	0	0		—	
合計（75科目）			—	28	90	0	—		6	4	0	1	0	0	兼98	—		
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係										
卒業要件及び履修方法									授業期間等									
以下の条件を満たし、総単位124単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目15単位を含み、36単位以上 （専門科目） 必修科目27単位を含み、専門基礎科目8単位以上、専門基幹科目4単位以上、専門展開科目15単位以上を満たし専門科目の選択科目から50単位以上 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））									1学年の学期区分			2学期						
									1学期の授業期間			15週						
									1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 機械電子創成工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 基礎科目 コミュニケーションスキル	ステップアップ・イングリッシュ1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
	英語コミュニケーションA1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	
	ステップアップ・イングリッシュ2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行うことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
	英語コミュニケーションA2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
	英語コンプリヘンションA1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
	アドバンスト・コミュニケーションA1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の修得を目指す。2～3名のグループワークを中心にした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
	英語コンプリヘンションA2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
	アドバンスト・コミュニケーションA2	本授業では、4技能（読解、聴解、会話、作文）を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2～3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題（大学生活や学習内容）についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
	センテンス・ストラクチャ1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
	英語コミュニケーションB1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の修得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2～3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語コミュニケーションB2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2-3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			アドバンス・コンプリヘンションB1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			アドバンス・コミュニケーションB1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員对学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンス・コンプリヘンションB2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンス・コミュニケーションB2	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとめたスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語コミュニケーションC1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語コミュニケーションC2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	アドバンスト・コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンスト・コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC2	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
			日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
		情報リテラシー	情報処理	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での研究を進めるために、情報処理・活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識の複眼的かつ論理的な分析・表現ができる能力を身につける。とくに、情報処理・通信技術(ICT)を用いた様々な方法の中から適切に選択し、モラルやセキュリティに配慮して有効に組合せることで、多様なデータを検索・収集・整理し、データの論理的な分析や効果的な加工を経て、客観的かつ適切に判断し、その結果を伝達するため資料の作成や公開をする、といった各段階で効果的に活用できる能力を培う。	
		人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
		人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。 授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
			キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？ 大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で修得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民事法と、犯罪と刑罰について定める刑事法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力とを養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
		人間・社会・自然の理解	哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、15回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとする。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
			歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなか位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
			心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
			身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
			憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
			政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
			経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
			現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等を取りあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
			科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進的展開および社会との関係なども分析する。	
			環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範をも考える。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
			地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
			物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
			物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を修得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることが出来る正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
	総合	教養特別科目	課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
			総合学際科目	本科目では、教員からの一方向的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を修得する。	
	教養特別科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500-2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指す作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
			イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
			イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
			スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を発展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人者をいただいている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（工学部 機械電子創成工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	数学基礎	本講義は、各専門課程で必要とされる初等関数と微分積分の基本的な知識・計算力の習得を目標とする。各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質を論じる。また、微分係数、導関数の定義を説明して、初等関数の微分公式を詳述し、和・差、定数倍、積、商、合成関数の微分の計算に習熟させる。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述し、また、定積分の基本的な計算にも触れる。	
	微分積分	本講義では「数学基礎」から更に進んだ内容の微分積分を学ぶ。講義の前半では微分の応用として、関数の近似の一つであるテイラー近似について述べ、これを用いて関数の極値や変曲点を調べる。微分の考えの基には近似の考えがあるが、微分を現実の問題に適用する際にも、近似は重要である。また、偏微分の定義、計算についても述べる。後半ではまず定積分の意味について述べる。力学や電磁気学に現れる物理量や法則の多くが積分により記述されるが、これらを学ぶ際に必要となる積分の知識を講義する。さらに、重積分について述べる。	
	微分方程式	本講義では、工学や自然科学の分野にあらわれる様々な現象や法則を数学的に定式化する際に用いられる、微分方程式の解の存在および挙動を調べる手法に習熟することを目指す。まずは常微分方程式で表される簡単に具体的な例の学習から始め、初期値問題を含めて、変数分離型及び線形の1階常微分方程式の古典的解法を学習する。さらに、さまざまな種類の2階定数係数線形常微分方程式の解法を学び、解の振舞いを追跡できるようになることを目標とする。	
	応用数学	ベクトル解析とフーリエ変換を学ぶ。ベクトル解析では、演算子ナブラを用いた微分演算である勾配、発散、回転の演算定義と種々の関数に対する適用を学び、続いてガウスの定理とストークスの定理という二つの積分に関する定理を学ぶ。フーリエ変換では、まず周期関数を正弦・余弦関数の級数に展開するフーリエ級数展開を学び、次にこれを一般の孤立関数に拡張したフーリエ変換を学ぶ。	
	線形代数基礎	本講義では、線形代数に関するエンジニアとしての最低限の素養を身につけさせることを目指す。具体的には、行列の演算(和・差、実数倍、積)の定義と性質を詳述する。連立1次方程式の解法として掃き出し法を取り上げて、行基本変形の計算に習熟させ、連立1次方程式の解の構造を様々な例を通じて理解させる。逆行列の定義と、掃き出し法を利用した逆行列の求め方を学ぶ。行列式について、種々の基本的性質を利用した計算に慣れさせ、余因子展開を詳述し、また、連立1次方程式と行列式の関連についても触れる。	
	線形代数応用	本講義では、線形代数基礎で身につけた計算技法を土台として、更に進んだ内容の線形代数を学ぶ。前半では、ベクトルの1次独立性・1次従属性、ベクトル空間の基底と次元を論じ、ベクトルの内積とその応用、線形写像について説明する。後半では、固有値・固有ベクトルの概念と、行列の対角化とその計算手順について理解させ、対角化の応用についても触れる。また、例と演習を通じて、1次独立性の判定をはじめとする各種の計算に習熟させる。	
	基礎統計学	本講義では、身の周りにあふれるさまざまな情報やデータを整理し、その奥底に見え隠れする興味深い特徴を抜き出すための知識と方法を習得することを目指す。コンピュータによる大量のデータに関する処理結果を正しく解釈するため、データの分布から平均や標準偏差などデータの性質や傾向を把握するための記述統計とよばれる分野について学習し、さまざまな統計量の意味を正確に判断する能力を養う。さらに、代表的な分布である正規分布について解説し、その応用についても触れる。	
	物理学基礎	物理学の基本分野である力学の講義と演習を行う。基本法則および物理的概念の習得を通じて科学的思考力を養い、更に工学に関する知識・技能に結びつけて考える能力を身につけることを目標とする。また、問題演習を通じて、講義で習得した基本事項を具体的に理解させるとともに、計算・数式処理能力を養う。主な内容として、速度・加速度の微分による定義や座標系による運動の表し方、運動の基本法則、力のつり合い、一定の力の下での物体の運動の記述、単振動、等速円運動、仕事とエネルギー、運動量と力積の概念に基づく運動の記述などを取りあげる。	

専門科目	専門基礎科目	物理学実験	力学、熱力学、振動・波動と光学、電磁気の分野にわたる内容の物理基礎実験を行う。実験装置の取り扱い、測定値の整理、実験結果の解析を通じてレポートにまとめるまでの一連の作業能力を養うことを目標とする。初めの2回の授業で測定器具(ノギス、マイクロメータ)の使い方を習得した後、受講者を少人数のグループに分け、グループ毎に個別のテーマの実験を行う。主な実験題目として、ボルダの振り子による重力加速度の測定、種々の弾性定数の測定(力学)、固体の比熱、気柱の共鳴(波動、熱学)、レーザーによる光の干渉(光学)、電子の比電荷、放射線の測定(電磁気)などの基本的内容を取りあげる。	
		化学基礎	本科目では、現代化学の基礎となっている主要な原理・概念の意義と考え方を学び、物質の構造とその性質を、微視的な原子、分子の電子構造から理解する事を目的とする。微視的粒子の運動状態を記述するのに必要な量子論を解説した上で、物質構造、原子・分子の電子状態、結合の電子構造、物性の電子論的理解について平易に解説し、現代化学の物質観を涵養する。加えて、高分子、無機固体材料についての構造や組成、重合度などの性質や電気化学に関する知識を深め、工業材料について化学的知識から理解することを目的とする。	
		デジタルものづくり	近代のものづくりにおけるCADとCAEの有用性について学ぶ。機械設計用3次元CADを用いて代表的な操作法を習得する。具体的には2次元の作図法を学習し、様々な幾何学的属性を有する形状の生成法を習得する。次に立体の生成と複数の立体に対し相互の位置関係や自由度の考慮、干渉解析をしつつコンピュータ画面上で組み立てる方法や不具合の修正法を学ぶ。また、完成したパーツや組み立てた立体モデルから機械図面を作図する。最後に応力解析、組み立てた機械装置の動きの解析、組み立て手順の動画化などCAEの手法を習得する。	
	専門科目	機構学	機械を構成する機素(例えばカムや歯車など)の形と各機素相互間の運動を支配する法則について学ぶ。機械の運動を論ずるために必要な基本的な考え方として、各機素間の変位、速度、加速度の関係を導く手法について講義した後、演習により習得する。具体的な機構として、リンク機構、カム、歯車を取り上げ、機械の動きを解析する基礎について理解する。	
		力学	古典力学の諸原理を機械工学に活用できる形で身に付けることを目的とする。静力学として、力・モーメント・釣合い・重心・摩擦力などを学ぶ。質点の力学として、速度と加速度・座標系と運動方程式・相対運動などを学んだ後、運動量と角運動量・仕事とエネルギーなどを学ぶ。剛体の力学として、並進および回転運動・運動方程式・慣性モーメント・角運動量・運動エネルギーについて学ぶ。これらを機械工学に関係する具体的な事例の中で理解する。	
		材料力学	材料力学では、機械や構造物が安全に機能を果たすような構造設計に必須となる部材の変形と応力の解析法について学ぶ。まず、応力とひずみの概念を学び、部材の強度評価について学習する。また、棒部材の引張・圧縮問題を学習し、棒の伸縮量の算出法や基本的な強度設計について理解する。また、はり部材の曲げ問題を学習し、はりの曲げ応力やたわみに関して理解する。また、せん断応力とせん断変形について学習し、軸のねじり問題と伝動軸の強度設計について理解する。	
		電気磁気学	電気磁気現象の諸法則を電気・電子工学に利用できる形で理解することを目指す。特に電気回路基本素子である抵抗、コイル、コンデンサにおいて、それらがエネルギーの消費、蓄積、放出の作用を発現することを学ぶ。電気磁気学の問題は、電荷や電流が空間に分布している際、それらの間にいかなる力が働くかという観点から、物理学の1つとして体系化されており、それぞれの物理単位を常に意識することで習得する。	
		電気回路	電気回路は電磁気現象を電圧、電流の立場で学ぶ科目である。その際、時間的な変化がない場合(直流回路)、時間的な変化がある場合(交流回路)を大別して解析していく。回路の動作解析に際しては、微小の概念に基づく微分・積分、正弦波交流回路の現象を扱いやすくする複素数を使うため、それらの解説にも重点を置いている。また本講義を受講するにあたっては電気磁気学の基礎知識は既に習得しているものとする。	
		電子デバイス	本講義では、情報機器やロボット、自動車、飛行機等の制御システムに組み込まれている電子回路に不可欠であるダイオードやトランジスタ、FETなどの重要な電子デバイスの動作原理について、半導体の基礎的事項(不純物半導体やキャリアなど)から始め、デバイスの基本構成、キャリアの動作原理、デバイスの電圧電流特性などについて十分に理解していくことを目的とする。	

専門科目	専門基礎科目	機械電子創成概論	本科目では毎週1名、全教員から各専門分野の内容、社会との関わりについてわかりやすい説明を受けるとともに、研究室を見学する日を設ける。高度に専門化された技術の概要を学ぶとともに、プロの技術者にできると、社会に貢献できることを知り、学生一人ひとりが大学で学ぶことの確固とした意義を意識できることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (1 関 弘和／1回) 計測制御技術に基づく福祉応用システム・生活支援機器の開発に関する研究を紹介する。 (2 手嶋 吉法／1回) 形と機能の研究から新しい技術を生み出す研究、デジタルものづくり技術の活用により精巧な立体模型を開発する研究について紹介する。 (3 長瀬 亮／2回) 本科目の目的、専門家になることの意義について講義した後、光ファイバによるセンシングや接続・実装に関する最新技術について紹介する。 (4 平塚 健一／1回) 身の回りに存在する摩擦・摩耗現象を指摘し、それらを抑制する潤滑の役割を講じる。省資源、省エネルギーの鍵となるトライボロジーの科学・技術を紹介する。 (5 松井 伸介／1回) 世の中の最先端技術を支える加工技術の研究についてその事例を示しながら紹介する。 (7 秋田 剛／1回) 宇宙機構造の設計に必要なコンピュータシミュレーション技術の概要と、具体的な設計事例について紹介する。 (8 新井 浩志／1回) IoT(Internet of Things)の技術に基づいた最新の組込みシステムの具体例について、ハードウェアとソフトウェアの両面から紹介する。 (9 大野 正弘／1回) 超音波を用いて工業製品や人体の内部を検査・画像化する技術や、生体組織の3次元物理モデルを製作する技術について紹介する。 (6 佐藤 宣夫／1回) 半導体技術とそのデバイス応用として、電気エネルギーを制御し活用することについて、具体的な適用事例を含めて紹介する。 (10 徳永 剛／1回) レーザ加工現象の解明と新しい加工法の提案・レーザで金属材料から立体を作る方法・新しい機能を付加したレンズ・装着型パワーアシスト機構などの分野のトピックを紹介する。 (11 菅 洋志／1回) ナノ・マイクロ機構から新しい技術を生み出す研究、先進的な機械を創造するための微細機械要素や機械電気変換技術の研究について紹介する。 (1 関 弘和・2 手嶋 吉法・3 長瀬 亮・4 平塚 健一・5 松井 伸介・7 秋田 剛・8 新井 浩志・9 大野 正弘・6 佐藤 宣夫・10 徳永 剛・11 菅 洋志／3回) (共同) 津田沼校舎において研究室の見学を実施する。	オムニバス方式 共同(一部)
		機械電子創成基礎実験・実習	本科目ではまず、機械工学で用いる設計製図装置・製造装置・計測機器と、電気電子工学で用いる各種電子回路・計測機器の基礎的な利用法を実習により身に付ける。その後与えられた課題について機械装置と電子回路の組み立てと調整をおこない、さらに実験を通して性能測定と評価に関する技術を身に付け、結果をレポートにまとめる。最終的には課題解決型実習(PBL:Problem Based Learning)により、グループ単位でメカトロニクス装置を設計・開発することの一連の流れを体験させ、自主的な課題解決能力を養うとともに、後続の専門展開科目への導入を図る。課題としては機械技術と電気電子技術の両方を必要とする簡易的な装置とする。最終的には開発した装置の機能と性能についてグループ単位で簡易的なコンテストとプレゼンテーションをおこなう。	共同
	専門展開科目	機械設計製図学	本科目では、工学言語たる図面の国際性をふまえ、図面の作成に必要な設計学および製図学の講義を行なう。設計学では、機械要素、材料、機械力学、機構学などの知識に加え、加工法や検証方法の理解も重要である。本科目では、設計が基本的にどのようなプロセスからなり、設計を進めるための基礎知識がどのようなものかを、平易に示す。製図学では、グローバル化する国際社会で通用する最新製図として、幾何公差や表面性状などについても理解も深める。	
		機械力学	機械力学では、機械や構造物の動的な設計を行うための基礎的な項目について学習する。まず、複素数や三角関数、微分方程式の解き方、運動方程式について復習し、機械力学の基本事項に関する準備を行う。また、ばねや質量からなる振動系の説明を行い、自由度について理解する。また、1自由度系の自由振動について学習し、固有振動数や減衰比の考え方について理解する。また、1自由度系の強制振動について学習し、共振について理解する。また、多自由度系の振動について学習し、振動モードの考え方を理解する。	
		機械加工法	本科目では、モノづくりの根幹である加工法について、広く体系的に学ぶ。最も大きな分類である3大加工法の付加工、変形加工、除去加工についてそれぞれの定義、概要、特徴を学ぶ。その後、それぞれの加工の中で重要な技術である溶接、接合、3Dプリンタ、成型加工、鍛造、塑性加工、切削加工、特殊加工等について学ぶ。それぞれの技術についてその原理、コンセプト、適用例のみならず、具体的な加工装置についても学ぶ。多くの加工法を学ぶことにより、工業製品がどのように作られてきたか理解できるようになるばかりでなく、新たな製品を企画する際、その加工法も考えた最適な設計が可能となる。	
		材料とその性質	本講義は、工業的に使われる材料の巨視的なふるまいを、材料の微視的な性質から理解することを目指す。まず材料のミクロな観点から、構造とそれに伴う物理的、化学的、機械的性質を概観し、強度、変形、破壊など、組織としての性質を講じる。次に電氣的、磁氣的、光学的性質などを紹介し、機能性発現の基礎となる諸原理について解説する。最後に金属材料、有機材料、無機材料、さらには複合材料などが持つマクロな性質について各論を展開する。	

専 門 展 開 目 録	専 門 展 開 目 録	シミュレーション工学	本講義では、コンピュータを用いたシミュレーションによって物理現象を解析する方法の基礎について学ぶ。まず、コンピュータによる物理シミュレーションが現代の科学技術文明に果たす役割を紹介する。また、機械設計で重要となる、外力の作用する構造物の変形・応力解析や振動解析をコンピュータを用いて行う方法について、理論的な説明をするとともに、数値的な解法について説明する。また、熱入力を受ける構造物の熱解析に関しても同様に、理論的な説明をするとともに、数値的な解法について説明する。	
		トライボロジー	二つの機械部品が相対的にすべるあるいは転がる運動をした時に発生する「摩擦」、また、それによって表面が損傷を受け減量する「摩耗」、さらにそれらを抑制する作用である「潤滑」、の科学と技術について講じる。表面の性質、吸着の特性などの表面・界面科学の基礎の後、接触の種類、摩擦の起源、摩耗の機構、潤滑の技術などについて詳細に論じる。最後に、耐摩耗性材料、コーティング手法などを紹介し、さらには応用としてバイオトライボロジーなど様々なトライボロジーについて解説してまとめとする。	
		熱・流体工学	熱と流体が関わる諸現象を理解するための原理と手法を学ぶ。まず、熱と機械の仕事の変換を支配する熱力学の原理を学ぶ。次に、伝導・対流・放射による熱の移動のしかたの分析とその工学的応用(伝熱工学)について学ぶ。最後に、流体(液体または気体)の運動法則である流体力学を学び、機械の受ける抵抗や液体による動力伝達について理解する。	
		精密加工	本科目では、3大加工法の中で、最も加工精度が期待できなおかつ汎用性が高い切削、研削、研磨について学ぶ。まず、切りくずの排出等の切削理論から始まり、工具材料、加工装置、加工システム、超精密加工と進む、そして切れ刃として砥粒を用いる研削では、砥石、砥粒材料、装置と実際の加工形態学び、最後に砥粒を遊離砥粒として用いる研磨加工に触れる。切れ刃がミリ、マイクロ、ナノへと小さくなっていくトレンドの中で、最新のエッセンスを体系的に学ぶ。これによって最適な設計への指針、開発における試作への導入、生産における加工システムの構築等の基本的知識を得ることができる。	
		アナログ回路	本講義では、情報機器やロボット、自動車、飛行機等の制御システムの実現に欠かせない電子回路設計技術の基礎を学ぶことを目的とし、最初にキルヒホッフの法則やデブナンの定理などの回路解析の基礎を確認し、次にアナログ電子回路を構成するダイオードやトランジスタ、FETなどの基本素子の動作原理を理解し、さらにこれらの素子を含むアナログ電子回路において、等価回路解析や電流・電圧増幅度の計算などを行い、回路全体の特性を解析し設計するための基礎的技術を習得する。	
		デジタル回路	本科目では、現代の電子機器、産業用機械器具の制御に必要なデジタル回路の基礎について学ぶ。まず、離散数学とブール代数などの理論と、各種ゲートを用いた2値論理回路について学習する。また、MOSTランジスタと各種ゲート回路の関係について学んだ後、組合せ論理回路と順序回路の解析と設計手法を学習し、電子機器・産業用機械器具の制御に必要な状態遷移機械を設計できることを目標とする。また、シーケンス制御で用いられるプログラマブルロジックコントローラとの関係について概説する。	
		半導体電力変換工学	本科目では、モータ駆動制御や電化製品動作のための電源回路に照準を合わせ、半導体素子の種別と性能を理解するために必要となる電気磁気学、熱統計力学、量子力学を概説した後、受動素子の組み合わせによる回路構成および過渡現象解析により、整流回路、コンバータ回路、インバータ回路の動作特性を理解していく。これらによって電力変換と制御を中心とした応用システム全般の技術を習得する。	
		電気機器学	日本だけでなく世界各国の電力事情、そして我が国では総消費電力の半分以上が電動機に利用されている実情を踏まえて、電気電子技術の応用としてのモータ(直流機、交流機)における電気-機械エネルギー変換の基礎原理のほか、送配電技術として重要な発電機や変圧器に至る電気機器全般の構造と基本的な動作特性、さらにそれらの制御手法についての要点を修得させることを目的とする。また回転機と静止器、電力変換と電力制御、世界各国における標準仕様の比較、空気圧システムなどの多角的な理解も涵養する。	
		プログラミング言語	本科目は、ものづくりで必要となるプログラミング言語の基礎を学び、基本的なプログラムを作成できるようにする。(オムニバス方式／全15回) (1 関弘和／7回) まず、プログラミングの基本的な考え方とコンピュータでの情報の表現(2進数、16進数、固定小数点数、浮動小数点数)について学ぶ。そして手続き型言語の基礎となる代入文、制御構造(条件文、繰返し文)について学んだのち、基本的なデータ構造である配列と、関数の基本について理解する。 (8 新井浩志／8回) ポインタについて学んだのち、構造体、リンクリスト、木構造などの複雑なデータ構造と、関数の再帰呼出しについて学ぶ。さらに整列や探索などを例題としてアルゴリズムについての理解を深める。	オムニバス

専門科目	専門展開科目	組込みシステム	本講義では、各種機器をコンピュータで制御するために必要な組込みシステム技術について学ぶ。前半ではハードウェアの側面から、制御の中心となるマイクロコンピュータとメモリ、そしてマイクロコンピュータと外部回路をつなぐインターフェースについて学び、後半ではソフトウェアの側面からアセンブリ言語、OS、各種割り込み、プロセス管理、リアルタイム処理について学ぶ。これにより、機電機能体を制御する組込みシステムを設計・開発するために必要な基礎知識を身に付ける。	
		ネットワークプログラミング	本講義では、ネットワークを介して各種機器の観測・制御をおこなうための技術について学ぶ。まずTCP/IPに代表される各種通信プロトコルとインターネットの技術について学ぶ。さらにWebサーバやサーバ上で動作するCGI、Webアプリケーションを開発するために必要なスクリプト言語について学ぶ。そして情報端末上で動作するオペレーティングシステムとGUIアプリケーションの開発などに必要な技術を学ぶ。本講義を通して、情報端末を用いて直接、またはWebサーバを介して、各種機器を観測・制御する技術を理解できる。	
		システム制御理論	本講義では、ロボットや自動車などの機械運動システムや電気回路システム等の動的システムを制御するために必要なシステムモデリングや解析の方法について学ぶ。例えば、ラプラス変換を利用した伝達関数モデリング、ステップ応答、インパルス応答、ブロック線図表現、周波数応答特性、安定性解析など、様々なシステムを制御するために不可欠な基礎的理論を十分に理解することを目指すとする。	
		センサ工学	物理量の変化に対して引き起こされる物理現象を電氣的に検出し目的の情報を取得する手法を学ぶ。工業的な情報検出には様々なセンサが開発されているが、それらの基本となる原理と関係する物理現象の関わりを系統立てて該当するセンサを整理する。また情報は最終的にコンピュータで読み込んで使われることがほとんどであるので、それに至るまでの様々な過程について学ぶ。具体的には代表的な電圧変換、アナログーデジタル変換、量子化とサンプリング等である。	
		システム制御工学	機械の動きの制御に不可欠な機械要素、センサ、アクチュエータとこれらを結びつける電子回路と制御方法について講義する。具体的な機構を構成する軸受、継手、歯車等の機械要素、動きに関係する変位、速度、加速度や熱、光、磁気等のセンサ、サーボモータ、ステッピングモータや圧電素子等のアクチュエータに関する知識を得るとともに、これらを司る電子回路の基本について学び、機械の運動と制御に関する基礎知識を得ることを目的とする。	
		計測工学	本科目では、誤差や不確かさの概念、データを検証するために必要となる最小二乗法などの数学、機械部品を造る場合に必要計測器の校正やトレーサビリティなどの仕組み、また、設計上で必要な表面粗さ、幾何公差、応力の計測方法などを学ぶ。また、技術発展とともに複雑化・高度化する計測システムを理解できるようになるべく、増幅や周波数変換など信号処理部、制御部で行われる電気信号処理についても学ぶ。	
		機械電子創成発展講義1	本科目では、機械技術と電気電子技術を基幹とした先端技術の概要とその社会に対する影響をオムニバス方式で学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (2 手嶋 吉法／5回) アディティブ・マニファクチャリング (AM) 技術について概説する。AM技術の定義および分類について説明し、歴史とくに光造形のバイオニアについて紹介する。材料・装置・活用方法を説明し、最先端のAM技術の紹介と今後の課題について講義する。 (7 秋田 剛／5回) 人類の宇宙開発の歴史を紹介し、社会に与えた影響について考える。また、ロケットの推進原理を説明し、現在の世界のロケット開発について紹介する。さらに宇宙環境として真空環境、放射線環境、熱環境、微小重力環境の特性を説明し、宇宙機設計の概要を示す。 (10 徳永 剛／5回) 様々な特色を有するレーザ加工を紹介する。従来の機械加工では実現できなかった加工速度で材料を除去・付加・熱処理加工できるレーザ加工が使われている。この授業ではレーザの発振原理から金属加工に至るまでの概略を紹介する。	オムニバス

専 門 展 開 科 目	機 械 電 子 創 成 発 展 講 義 2	本講義では、機械工学と電気電子工学が融合した機電機能体の代表的な例として、人間の生活や暮らしを支える最先端技術、例えば、医療機器・福祉機器、電気自動車等のパーソナルモビリティ技術、ホームエレクトロニクスなどに焦点をあてて発展的な講義を行う。本講義を受講するまでに学んできた機械工学や電気電子工学がこれらの機電機能体の実現にどのように利用され、人間社会のどのような場面で生かされるのかを理解し考察することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (1 関 弘和／5回) 高齢者や障害者の生活を支援するための様々な機器、例えば福祉車両、電動車いす、能動義手・義足、見守りシステムなど、多くの事例を紹介するとともに、それらの中で利用されている機械工学、電気電子工学技術について解説する。 (9 大野 正弘／5回) 現代医療で用いられているX線、核磁気共鳴、光、超音波などを用いた診断・治療技術、人工臓器や人工骨などの医用材料技術、およびこの分野における法律的、社会的要請について説明する。 (6 佐藤 宜夫／5回) パワー半導体を活用することで機械・電気エネルギーを制御し、電化製品に含まれる電源回路の基本から、応用としてのパーソナルモビリティやホームエレクトロニクスを具体的な適用事例として解説する。	オムニバス
		本科目では、機械電子技術領域における創成・ものづくりにおいて基盤的な実験、実習を行う。具体的には、機械加工(数値制御(NC)を含む)、計測、電子制御、オペアンプ等を用いたメカトロニクス、材料力学、熱・流体のそれぞれの技術でおおよそ6から8項目である。各々が実際に手を動かしながら考えることを重視した進め方をする。また、行った実験はレポートという形で記録に残すとともに、他へ報告発表するということも学習目標の一つである。10～40名程度の少人数単位でそれぞれの実験・実習を行い、教員との密度の高い対話の中で、自分の持てる技術として身につけることができる。	共同
		本科目では、簡単な製品の設計をおこない、機械製作図すなわち図面の作成により、他者に設計内容を正確に伝達する能力を養うことを目的とする。製図用具を用いての従来の製図、およびコンピュータを用いてのCAD製図の両方を実習課題に取り組むことにより習得する。製図においてもCAD製図においても、単なる作図にとどまらず、与えられた仕様を満足する形状を各自が計算で求められる様、設計法について学ぶ。簡単な製品の設計・製図を修得することにより、設計内容につき他者に説明・説得ができるようになる。	共同
		研究室または研究室群を単位として、機械工学ならびに電気電子工学において必要な基礎的な実験と共に、課題解決型の学習(Problem-Based Learning in Laboratory)を行う。興味や関心に応じて学生を研究室(群)に配属させ、学習内容を重点化する。座学において学習した内容の理解を実験によって深めると共に、各研究室(群)の特徴を生かしたup-to-dateな課題をこなすことにより、研究や開発へのモチベーションを高め、かつ、実践的な課題解決手法を身につけさせる。グループでの実際の作業を通じて、主体的に対応する能力やチームで仕事をする態度を涵養する。	共同
		本科目では技術者にとって必要な倫理観とは何かについて考える。人為的過失あるいは組織的な問題により生じた過去の事故について経緯と共に解説し、なぜそのような事故に至ったか、事故が社会に広げた波紋、そこから学ぶ教訓と再発防止に向けた施策について、討論しながら考える場を設ける。また、企業が利潤より安全を優先させる根拠は何か、製造者が環境負荷について考えるべきこと(考えなかった時代に何が起きたか)、製造業にとってエネルギー問題の重要性は何かについて共に考える。倫理的側面だけでなく、安全、環境、エネルギーに関し論理的に判断できる力を養うことを目的とする。	
		本科目は、卒業研究と連動して実施する。数人のグループに分かれ、各自の研究テーマに関連する文献を探す方法、参考文献の読み方とその引用方法、自分の実験結果に対する考察方法など、研究を進める際の様々な技術を習得する。各自の研究テーマの進捗状況をプレゼンテーションの形で報告し合い、他人の発表を聞いて理解する能力、および質問する能力を高める。これまでに修得した科目や技術を駆使し、各自の研究課題を解決するための独自の構想を涵養する。	全教員
		ゼミナール1	
専 門 展 開 科 目	機 械 電 子 創 成 発 展 講 義 2	ゼミナール1に続き、本科目も卒業研究と連動して実施する。各自の研究テーマの進捗状況をプレゼンテーションの形で報告し合い、プレゼンテーションの能力、他人の発表を聞いて理解する能力、および質問やコメントを発する能力を高める。プレゼンテーションに慣れ、他者からの質問やコメントへの適切な対処を繰り返す中で、研究内容の質およびプレゼンテーションの質を向上させていく。これまでに修得した科目や技術を基に研究課題を解決するための構想を自ら打ち出し、研究内容を向上させる。	全教員
		卒業研究	全教員

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

8 校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



■津田沼校舎

- ・JR総武線 津田沼駅前（南口）
- ・新京成線 新津田沼駅から
徒歩3分
- ・京成線 京成津田沼駅から
徒歩10分

津田沼校舎～新習志野校舎間は
スクールバスも運行
(約15分 3.5km)

■新習志野校舎

- ・JR京葉線 新習志野駅南口から
徒歩6分
- ・JR総武線 津田沼駅南口バスターミナルから
京成バス新習志野駅行(約15分)で
「千葉工業大学入口」下車 徒歩3分



■茜浜運動施設

茜浜運動施設

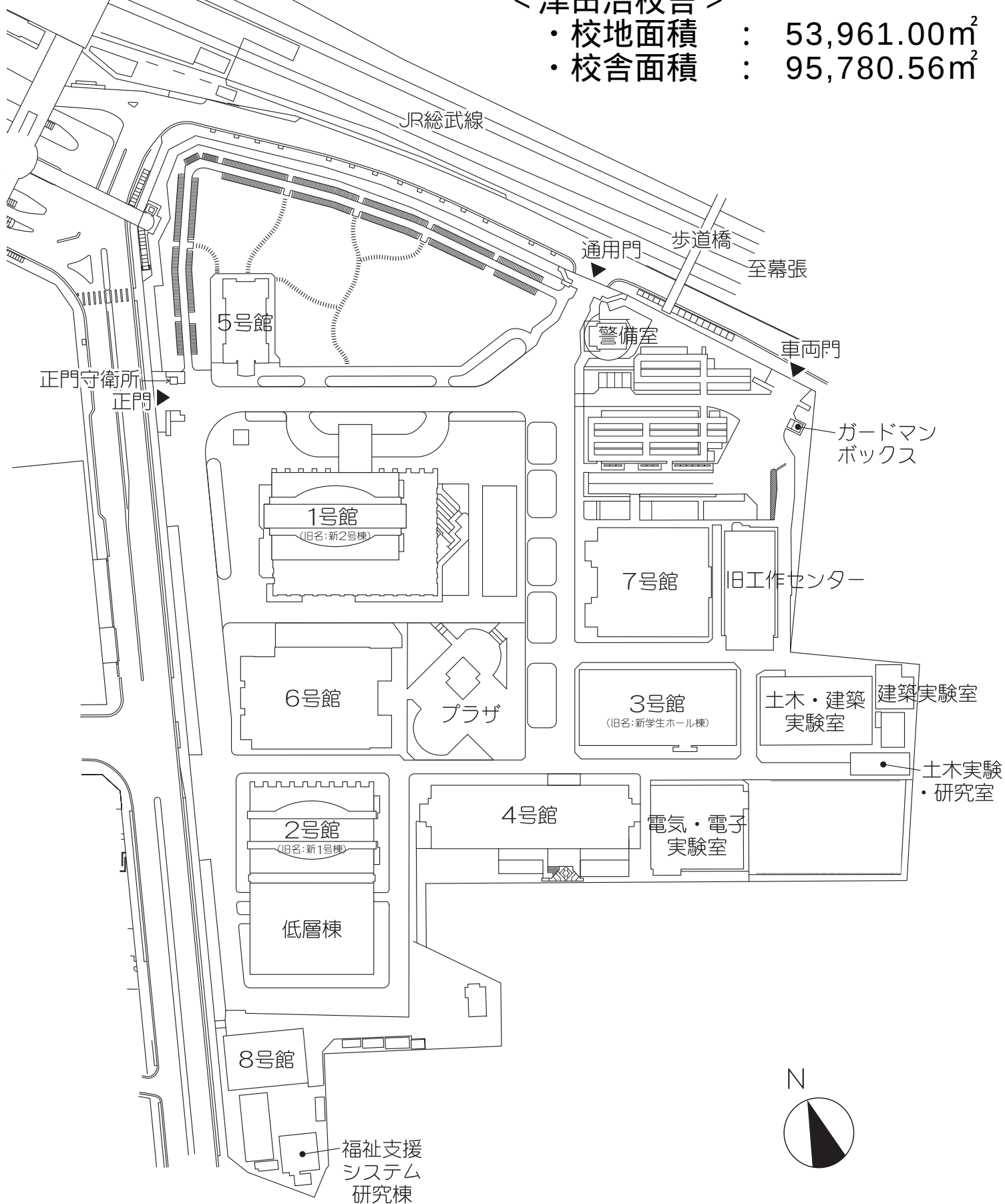
■新習志野校舎

新習志野校舎～茜浜運動施設
(約0.5km 徒歩約5分)

(3)校舎、運動場等の配置図

< 津田沼校舎 >

- ・校地面積 : 53,961.00m²
- ・校舎面積 : 95,780.56m²



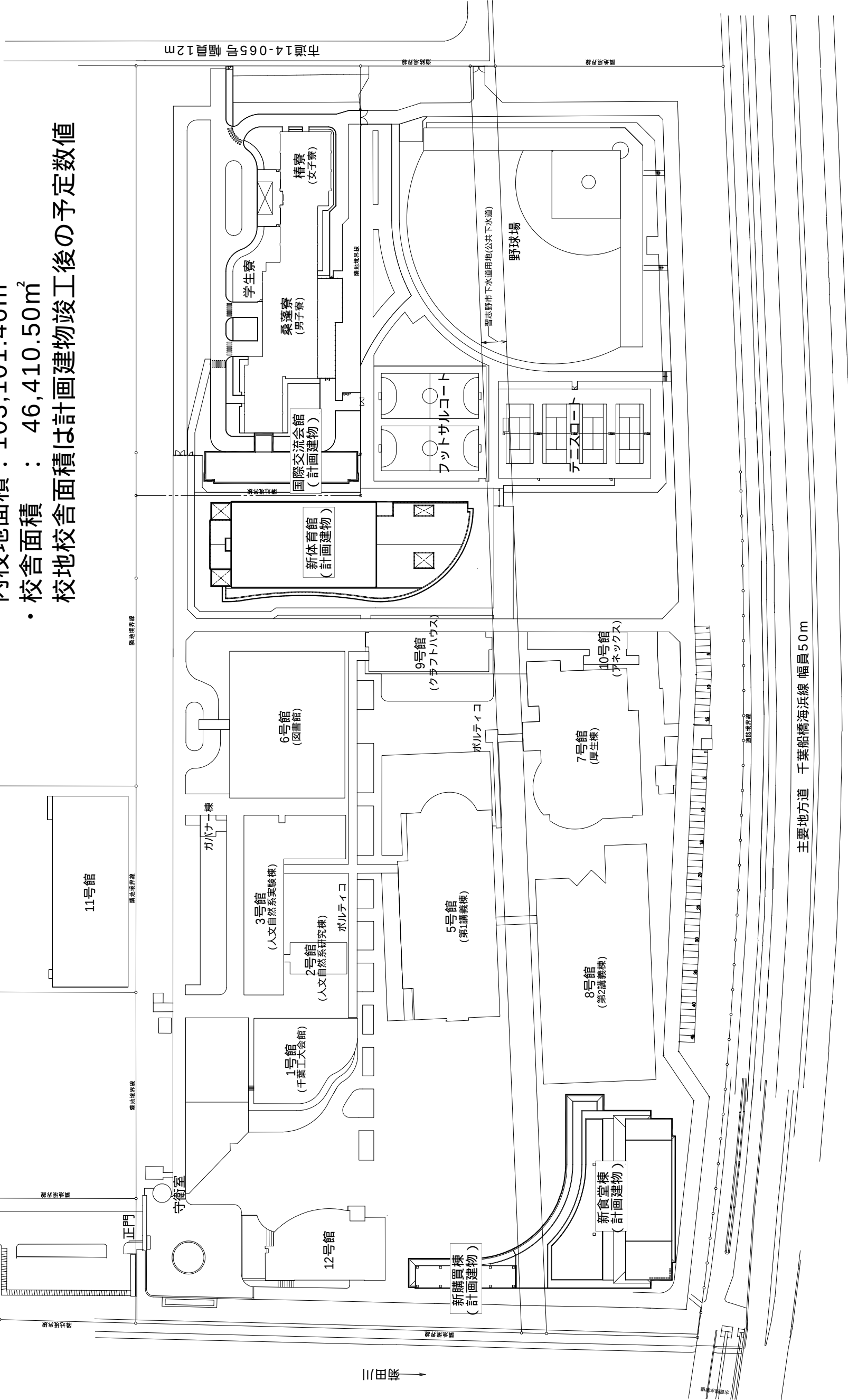
※ N: 35度39分38秒
E: 140度01分02秒
129°53'04" 39.884444

市道14-064号 幅員28.5m

<新習志野校舎>

- 敷地面積 : 123,574.00㎡
- 内校地面積 : 103,101.46㎡
- 校舎面積 : 46,410.50㎡

校地校舎面積は計画建物竣工後の予定数値



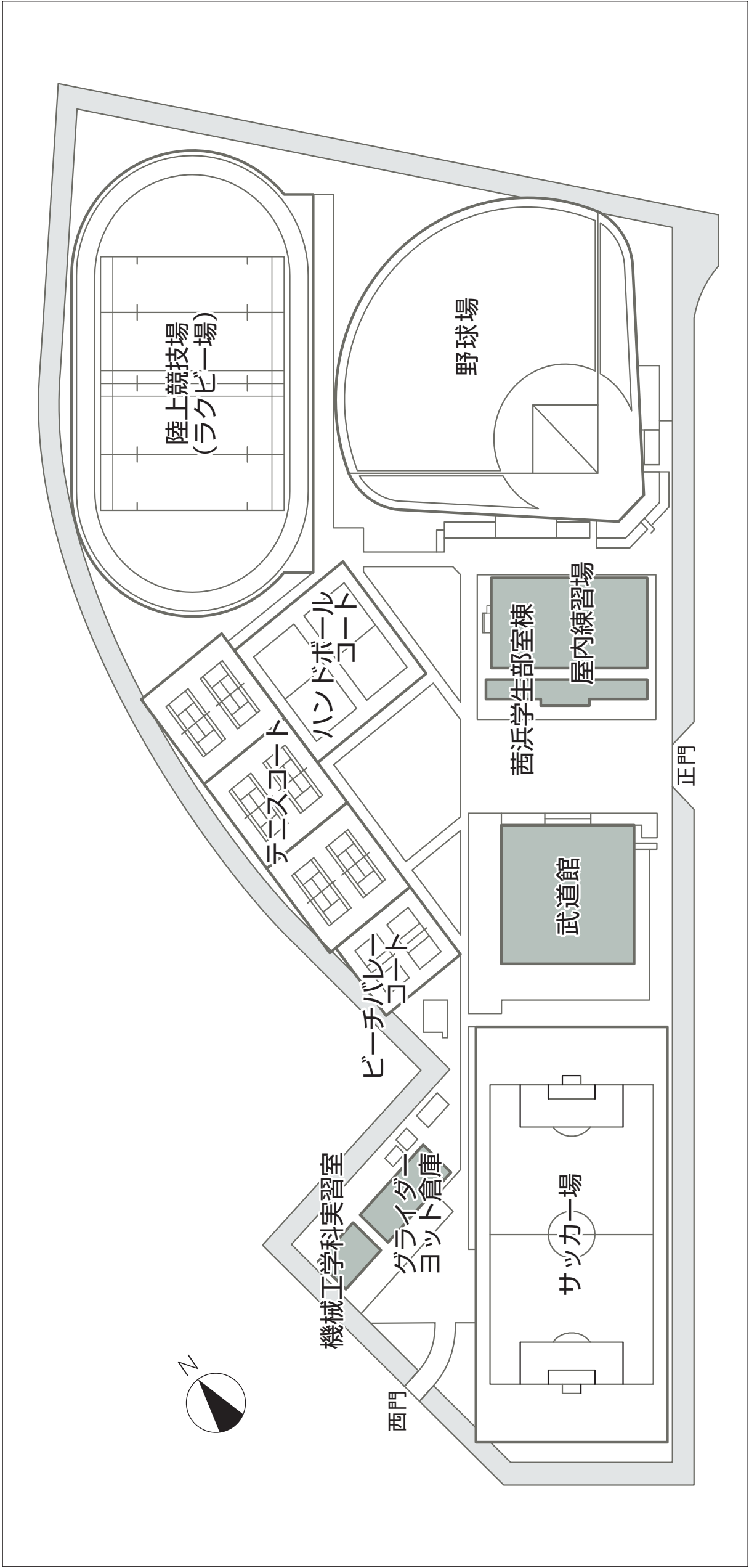
主要地方道 千葉船橋海浜線 幅員50m

計画配置図



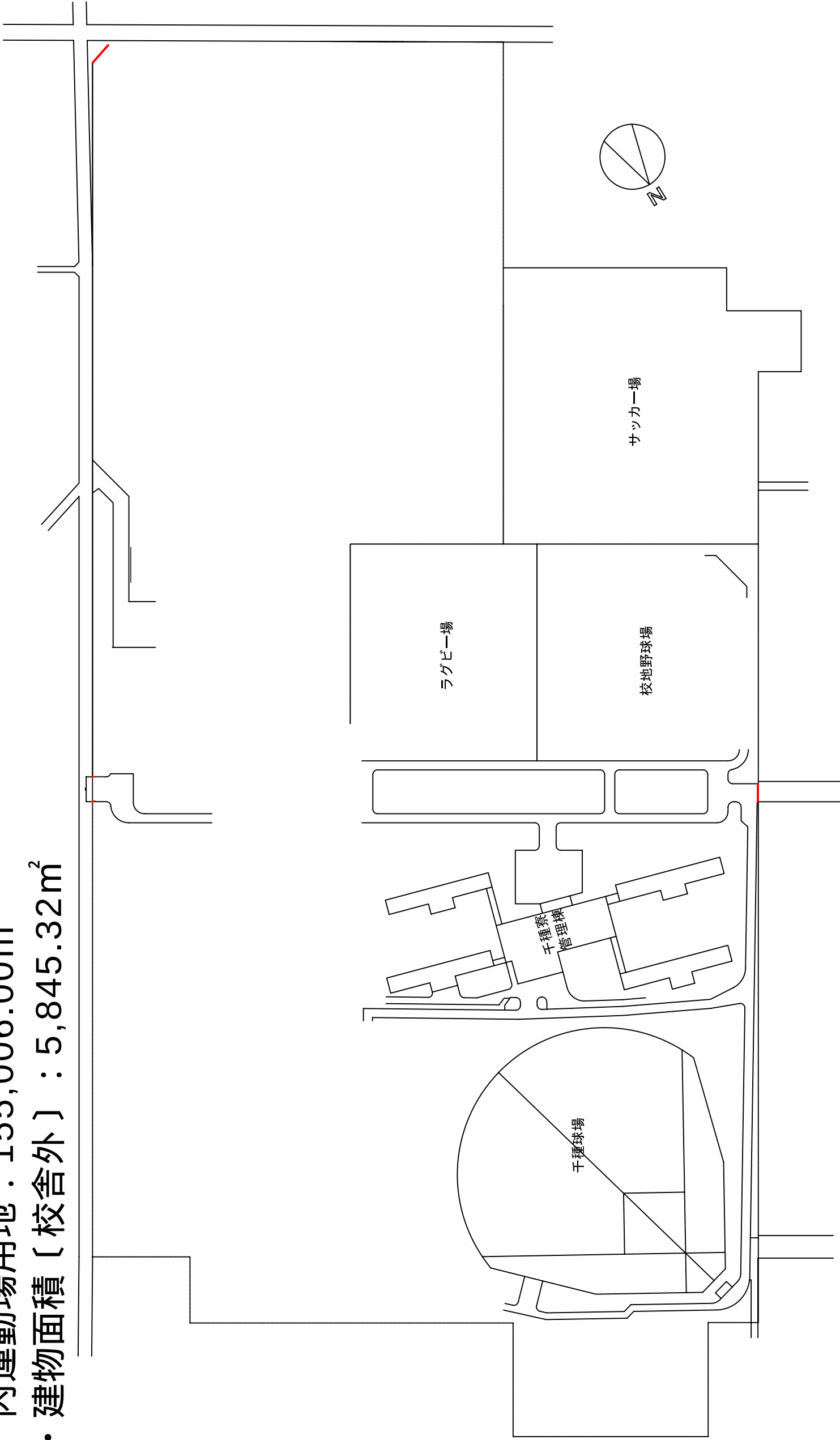
< 茜浜運動施設 >

- ・敷地面積〔運動場用地〕：98,304.00㎡
- ・建物面積　：6,812.88㎡
内校舎面積：　411.47㎡



<千種校地>

- 敷地面積 : 169,898.00㎡
- 内運動場用地 : 155,006.00㎡
- 建物面積〔校舎外〕 : 5,845.32㎡



千葉工業大学学則

第1章 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 本学は、その教育・研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

第2章 組織

(学部)

第2条 本学に工学部、創造工学部、先進工学部、情報科学部及び社会システム科学部を置く。

2 前項の学部には置く学科並びにその入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	学 科	入学定員	収容定員
工 学 部	機械工学科	140名	560名
	機械電子創成工学科	110名	440名
	先端材料工学科	110名	440名
	電気電子工学科	140名	560名
	情報通信システム工学科	110名	440名
	応用化学科	110名	440名
	小 計	720名	2,880名
創 造 工 学 部	建築学科	140名	560名
	都市環境工学科	110名	440名
	デザイン科学科	120名	480名
	小計	370名	1,480名
先 進 工 学 部	未来ロボティクス学科	120名	480名
	生命科学科	110名	440名
	知能メディア工学科	110名	440名
	小計	340名	1,360名

情報科学部	情報工学科	140名	560名
	情報ネットワーク学科	140名	560名
	小 計	280名	1,120名
社会システム科学部	経営情報科学科	110名	440名
	プロジェクトマネジメント学科	110名	440名
	金融・経営リスク科学科	60名	240名
	小 計	280名	1,120名
合 計		1,990名	7,960名

(学部教育・研究上の目的)

第2条の2 工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、専門知識を応用する工学分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

2 創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

3 先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

4 情報科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として社会の変化と進展に対応し、また、守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報処理分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

5 社会システム科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、分野横断的な学問領域を基礎とし、社会システムやマネジメント手法の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

(大学院)

第3条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別に定める。

(附属図書館)

第4条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する事項は別に定める。

(研究所)

第4条の2 本学に次の研究機関を置く。

- (1) 附属研究所
- (2) 未来ロボット技術研究センター
- (3) 惑星探査研究センター
- (4) 人工知能・ソフトウェア技術研究センター

2 研究機関に関する事項は別に定める。

(施設)

第4条の3 本学に次の施設を置く。

- (1) 学生寮
- (2) 軽井沢研修センター
- (3) 御宿研修センター

2 前項の各号に関する必要な事項は別に定める。

(事務局)

第5条 本学に事務局を置く。

2 事務局に関する必要な事項は別に定める。

第3章 職員組織

(学長)

第6条 本学に学長を置く。

- 2 学長は、校務をつかさどり、所属教育職員を統督する。
- 3 必要があるときは副学長を置くことができる。
- 4 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第6条の2 学部 to 学部長を置く。

- 2 学部長は、学部に関する学務をつかさどる。
- 3 学部長に関する事項は別に定める。

(職員)

第7条 本学に教育職員及び一般職員を置く。

2 教育職員として、教授、准教授、助教及び助手を置く。

- (1) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (2) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (3) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (4) 助手は、その所属する組織における教育・研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

- 3 一般職員として、事務職員、技術職員、労務職員及びその他必要な職員を置く。
- 4 職員に関する規則は別に定める。

第4章 学部長会及び教授会

(学部長会)

第8条 本学に、大学の教育・運営に関する重要事項を協議及び審議するため学部長会を置く。

- 2 学部長会は、学長が招集し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 教育・研究に関する基本方針等、その運営における全学的な事項
- (2) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
- (3) その他、本学の教育・研究の運営に必要と認められる事項

- 3 学部長会に関する規則は、別に定める。

(教授会)

第8条の2 学部に教授会を置く。

- 2 教授会は、学部の専任教授をもって組織する。
- 3 教授会は、学部長が招集し議長となる。
- 4 学部長は、必要あると認めた場合に、教授会の承認を得て教授会に准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。
- 5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育・研究に関する事項について審議し、及び学長又は学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営に関する規則は別に定める。

第8条の3 学部に共通する事項について意見を聴くため、学長は、必要により合同教授会を招集することができる。

- 2 合同教授会は、次に掲げる事項について学長に意見を述べるものとする。
 - (1) 学則の改正に関する事項
 - (2) 前号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 合同教授会に関する規則は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2学期に分ける。

(1) 前期 4月1日から9月17日まで

(2) 後期 9月18日から翌年3月31日まで

2 必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて前項の期間を変更することができる。

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 開学記念日 5月15日

(4) 春期休業日 3月1日から3月31日まで

(5) 夏期休業日 7月28日から9月17日まで

(6) 冬期休業日 12月21日から1月7日まで

2 必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は学部長会の意見を聴いて臨時の休業日を定めることができる。

4 特別の必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて休業日に授業を行うことができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第12条 修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第13条 学生は、8年を超えて在学することができない。

2 第20条、第21条及び第22条の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

3 第1項及び第2項の規定にかかわらず、工学部、創造工学部、先進工学部及び情報科学部においては、同一学年に3年を超えて在学することができない。

第7章 入学

(入学時期)

第14条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第15条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学者選考)

第16条 本学に入学を志願する者は、入学願書と別に定める入学検定料及び所定の書類を添えて、期日までに提出するものとする。

- 2 前項の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第17条 前条の選考の結果に基づき合格した者は、所定の期日までに、別に定める学生納付金を納入し、保証人の連署する誓約書その他所定の書類を提出するものとする。

- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第18条 学生は、在学中、保証人を置くものとする。

- 2 保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で、学生の在学中の身上に関し責任を負いうる者とする。

(変更届)

第19条 学生は、氏名、現住所の変更及び保証人の変更若しくはその現住所に変更があったときは、速やかに届け出るものとする。

(転部、転科)

第19条の2 本学に在籍する学生で、転学部、転学科を願い出た者については、欠員のある場合に限る、学長はこれを許可することができる。

- 2 転学部、転学科に関する規則は別に定める。

(編入学)

第20条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 他の大学の2年次を修了した者
- (2) 短期大学を卒業した者又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 学校教育法施行規則附則第7条に規定する者

2 編入学に関する規則は別に定める。

(学士入学)

第21条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 本学を卒業した者
- (2) 他の大学を卒業した者

2 学士入学に関する規則は別に定める。

(再入学)

第22条 本学を退学した者又は除籍された者で、再入学を志願する者があるときは、学長は事情を考慮した上、相当年次に入学を許可することができる。ただし、懲戒による退学者及び第41条第1項第2号及び第4号並びに第5号の規定により除籍された者の再入学は許可しない。

2 再入学に関する規則は別に定める。

第8章 教育課程及び履修方法等

(授業科目区分)

第23条 授業科目を分けて、教養科目及び専門科目及び教職課程に関する科目とする。

(教育課程編成方法)

第24条 教育課程は、各授業科目を必修科目、指定科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(授業科目及び履修方法)

第25条 授業科目及びその単位数は、別表第1、別表第2、別表第3、別表第4、別表第5、別表第6及び別表第7のとおりとする。

2 授業科目の履修方法は別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第25条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価並びに卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(単位計算方法)

第26条 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準による。

(1) 講義は、15時間をもって1単位とする。ただし、外国語の授業は、30時間をもって1単位とする。

(2) 演習、実技、実験、実習及び製図は、30時間をもって1単位とする。

(授業期間)

第27条 一年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別に必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位授与)

第28条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第29条 授業科目の成績は、A、B、C、Dの4段階により表示し、A、B、Cを合格としDは不合格とする。

(他大学等における授業科目履修等)

第30条 教育上有益と認めるときは、他大学等との協議に基づき、学生に当該他大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修し修得した授業科目の単位を、60単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。

(入学前の既修得単位取扱)

第31条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において修得した単位を、本学において修得したものとして認定することができる。

2 前項の単位の認定は、編入学の場合を除き、前条により認める単位数と合せて60単位を超えない範囲で行うことができる。ただし、修業年限の短縮は行うことができない。

(進級)

第32条 上級年次に進級するための条件を定めることができる。

(卒業必要単位数)

第33条 卒業に必要な単位数は、別に定める所定の単位を含め、124単位以上とする。

(教育職員免許状)

第34条 本学において、取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

工学部

機械工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
機械電子創成工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
先端材料工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
電気電子工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
応用化学科	理科	高等学校教諭一種免許状

		中学校教諭一種免許状	
創造工学部			
都市環境工学科	工業	高等学校教諭一種免許状	
情報科学部			
情報工学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	情報	高等学校教諭一種免許状	
情報ネットワーク学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	情報	高等学校教諭一種免許状	
社会システム科学部			
経営情報科学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	工業	高等学校教諭一種免許状	
	商業	高等学校教諭一種免許状	
プロジェクトマネジメント学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	情報	高等学校教諭一種免許状	

- 2 前項の教育職員免許状を取得するために履修する授業科目の種類及びその単位数は別に定める。
- 3 第1項に規定する教育職員免許状を取得するための受講手続料は別に定める。

第9章 休学，復学，外国留学，退学及び除籍

(休学)

第35条 疾病その他やむを得ない理由により、年度内に6か月以上修学することができない者は、所定の休学願を学長に提出するものとする。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第36条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- 3 休学期間は在学期間には算入しない。

(復学)

第37条 休学した者は、休学期間が満了し、又は休学の理由が解消したときは、遅滞なく所定の復学願を学長に提出するものとする。

(外国留学)

第38条 本学の学生が外国の大学等の授業科目を履修するため、留学を志願し学長に願い出た場合、学長は、教育上有益と認めるときはこれを許可することができる。

- 2 留学した期間は、第13条に定める在学期間に含める。
- 3 留学して履修した授業科目について修得した単位については、第30条第2項に準じて卒業の要件となる単位として含めることができる。
- 4 留学に関する規則は別に定める。

(退学)

第39条 退学しようとする者は、所定の退学願を学長に提出するものとする。

(休学、復学、及び退学許可)

第40条 休学、復学及び退学については、学長がこれを許可することができる。

(除籍)

第41条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 所定の学生納付金を滞納し、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間の限度を超過した者
- (3) 休学期間の限度を超過した者
- (4) 長期間行方不明の者
- (5) 工学部、創造工学部、先進工学部及び情報科学部においては、休学による場合を除き、同一学年に3年在学してなお進級できない者

第10章 卒業及び学位

(卒業)

第42条 本学に4年（第20条、第21条及び第22条により入学した者は、在学すべき年数）以上在学し、第33条に定める単位数を取得したものは、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

- 2 前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、学部の定める卒業要件を優秀な成績で修得したと認める場合、3年以上の在学で卒業を認めることができる。

(学位)

第43条 本学を卒業した者に授与する学位は次のとおりとする。

工学部	学士（工学）
創造工学部	学士（工学）
先進工学部	学士（工学）
情報科学部	学士（情報科学）
社会システム科学部	
経営情報科学科	学士（経営情報科学）
プロジェクトマネジメント学科	学士（プロジェクトマネジメント）
金融・経営リスク科学科	学士（リスク科学）

第11章 賞罰

(表彰)

第44条 学業優秀な者及び課外活動等において顕著な功績のあった者は、選考の上、表彰することができる。

2 前項の選考に関する取り扱いは別に定める。

(懲戒)

第45条 本学則に違反し又は学生としての本分に反する行為のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 懲戒は、訓告、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生等

(研究生)

第46条 本学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者があるときは、学部の教育・研究に支障のない場合に限り、学長は研究生として許可することができる。

2 研究生に関する規則は別に定める。

(科目等履修生)

第47条 本学の授業科目の履修又は受講のみを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、学長は科目等履修生として許可することができる。

2 科目等履修生に関する規則は別に定める。

(特別聴講学生)

第48条 他の大学又は短期大学との協定に基づき、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、学長は特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生に関する規則は別に定める。

(外国人留学生等)

第49条 日本国以外の国籍を有する者で、第15条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては、第25条に定めるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

日本語科目及び日本事情に関する科目については、別表第4のとおりとする。

3 日本国籍を有し、外国において相当の中等教育を受けた者で、第15条に定める入学資格がある者については前項を準用する。

4 外国人留学生等に関する規則は別に定める。

第13章 入学検定料及び学生納付金等

(入学検定料, 学生納付金)

第50条 入学検定料は, 別表第8の1のとおりとする。

2 学生納付金は, 別表第8の2のとおりとする。

(学生納付金の納入)

第51条 学生納付金は, 所定の期日までに納入するものとする。

2 学生納付金の納入に関する規則は, 別に定める。

(研究生及び科目等履修生申込手数料等)

第52条 研究生の審査料及び科目等履修生の申込手数料等は別に定める。

(納付金不還付)

第53条 既納の入学検定料, 学生納付金, 審査料等は返還しない。

第14章 公開講座

(公開講座)

第54条 社会人の教養を高め, 文化の向上に資するため, 本学に公開講座を開設することができる。

第15章 学則の変更

(学則変更)

第55条 本学則の変更は, 理事会の議決を経るものとする。

附則

本学則は昭和43年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和61年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和62年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和63年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成元年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成2年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第2項の規定にかかわらず, 平成3年度から平成11年度までの間, 入学定員は次のとお

りとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部第一部	機 械 工 学 科	1 2 0 名
	工 業 経 営 学 科	1 2 0 名
	電 気 工 学 科	1 2 0 名
	電 子 工 学 科	1 2 0 名
	工 業 化 学 科	1 0 0 名
	土 木 工 学 科	1 1 0 名
	建 築 学 科	1 2 0 名
	精密機械工学科	1 1 0 名
	情 報 工 学 科	1 2 0 名
	工業デザイン学科	9 0 名

附則

本学則は平成3年9月10日から施行する。

附則

本学則は平成4年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成5年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成5年7月22日から施行する。

附則

本学則は平成6年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成7年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成8年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成9年4月1日から施行する。

2 第2条第2項及び附則（平成3年4月1日施行）の規定にかかわらず、平成9年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部第一部	工 業 経 営 学 科	1 0 0 名
	情 報 工 学 科	1 0 0 名

附則

本学則は平成10年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成11年4月1日から施行する。

2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成11年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部	機械工学科 昼間主コース	120名
	工業経営学科 昼間主コース	100名
	電気工学科 昼間主コース	120名
	電子工学科 昼間主コース	120名
	工業化学科 昼間主コース	100名
	土木工学科 昼間主コース	110名
	建築学科 昼間主コース	120名
	精密機械工学科 昼間主コース	110名
	情報工学科 昼間主コース	100名
	工業デザイン学科 昼間主コース	90名

- 3 千葉工業大学工学部第二部は、平成11年4月から募集を停止し、平成11年3月31日現在当該学部在学する者が当該学部在学しなくなった時点で廃止する。

なお、第二部学生の取り扱いについては、従前のとおりとする。

附則

- 1 本学則は平成12年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 科		入 学 定 員				
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
機械工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
工業経営学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
電気工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
電子工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
工業化学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
土木工学科	昼間主コース	109名	108名	107名	106名	105名
建築学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
精密機械工学科	昼間主コース	109名	108名	107名	106名	105名
情報工学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
工業デザイン学科	昼間主コース	89名	88名	87名	86名	85名

附則

- 1 本学則は平成13年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 部・学 科		入 学 定 員			
		13年度	14年度	15年度	16年度
工学部					
機械工学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
電気工学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
電子工学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
工業化学科	昼間主コース	94名	90名	86名	80名
土木工学科	昼間主コース	105名	103名	101名	100名
建築学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
精密機械工学科	昼間主コース	105名	103名	101名	100名
工業デザイン学科	昼間主コース	88名	87名	86名	85名

- 3 千葉工業大学工学部工業経営学科、情報工学科、情報ネットワーク学科及びプロジェクトマネ

ジメント学科は、平成13年4月から募集を停止し、平成13年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該4学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおりとする。

附則

本学則は平成14年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成15年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部機械工学科、金属工学科、電気工学科、電子工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科、精密機械工学科及び工業デザイン学科は、平成15年4月から募集を停止し、平成15年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該9学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおりとする。

附則

本学則は平成16年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成17年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成18年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部第二部は当該学部中に在学する者がなくなったため、平成18年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成19年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部情報ネットワーク学科及びプロジェクトマネジメント学科は、当該学科中に在籍する者がなくなったため、平成19年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成20年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部情報工学科及び工業経営学科は、当該学科中に在学する者がなくなったため、平成20年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成21年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部金属工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科及び工業デザイン学科は、当該学科中に在学する者がなくなったため、平成21年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成22年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部電子工学科及び精密機械工学科は、当該学科中に在学する者がなくなったため、平成22年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成23年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械工学科及び電気工学科は、当該学科に在学する者がなくなったため、平成23年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成24年4月1日から施行する。
- 2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第8条の2第5項第5号を審議する教授会及び第8条の3第2項第1号を審議する合同教授会の構成員とはならない。

附則

本学則は平成25年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成26年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科、建築都市環境学科、デザイン科学科及び未来ロボティクス学科は、平成28年4月から募集を停止し、平成28年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。
なお、募集を停止する当該6学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のとおりとする。

別表第1(第25条関係)

工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

機械工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
物理学基礎	2	
化学基礎	2	
線形代数	2	
微分積分学		2
物理学応用		2
化学実験	2	
物理学実験	2	
確率統計		2
ものづくり基礎演習	2	
ものづくり演習	2	
機械工学概論	2	
工業力学	2	
機械材料		2
機構学		2
工業数学	2	
基礎材料力学	2	
基礎機械設計	2	
基礎機械製図	2	
力学総合演習	1	
基礎機械力学	2	
生産加工学	2	
材料力学	2	
応用材料力学		2
構造力学		2
材料強度学		2
機械力学		2
振動工学		2
制御工学		2
自動制御		2
熱力学	2	
応用熱力学		2
熱機関		2
伝熱工学		2
流れ学	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
応用流れ学		2
流体力学		2
機械設計	2	
機械製図	2	
CAD演習	2	
応用機械設計製図	2	
計測工学		2
技術英語		2
機械の技術史		2
工作機械		2
数値解析		2
環境工学		2
技術者倫理	2	
先端機械工学	2	
機械工学実験1	2	
機械工学実験2	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

機械電子創成工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
微分積分	2	
微分方程式		2
応用数学		2
線形代数基礎	2	
線形代数応用		2
基礎統計学		2
物理学基礎	2	
物理学実験		2
化学基礎		2
デジタルものづくり		2
機構学		2
力学		2
材料力学		2
電気磁気学		2
電気回路		2
電子デバイス		2
機械電子創成概論	2	
機械電子創成基礎実験・実習	2	
機械設計製図学		2
機械力学		2
機械加工法		2
材料とその性質		2
シミュレーション工学		2
トライボロジー		2
熱・流体工学		2
精密加工		2
アナログ回路		2
デジタル回路		2
半導体電力変換工学		2
電気機器学		2
プログラミング言語		2
組込みシステム		2
ネットワークプログラミング		2
システム制御理論		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
センサ工学		2
システム制御工学		2
計測工学		2
機械電子創成発展講義1		2
機械電子創成発展講義2		2
技術者倫理		2
機械電子創成基盤実験・実習	2	
機械電子創成応用実験・実習	2	
機械電子創成発展実験・実習	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

先端材料工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
確率統計		2
微分方程式		2
工業数学		2
物理学基礎	2	
物理学応用		2
化学基礎	2	
物理化学	2	
物理学実験	2	
化学実験	2	
先端材料工学概論	2	
エネルギー工学概論	2	
リサイクル概論	2	
基礎材料工学	2	
工業英語	2	
工学基礎	2	
基礎製図		2
材料物理学	2	
材料熱化学	2	
固体物理学	2	
材料組織学	2	
材料電気化学	2	
材料力学及び演習	2	
創造工学及び演習	2	
構造材料1		2
構造材料2		2
半導体材料		2
磁性材料		2
電池材料		2
光機能材料		2
セラミックス・ポリマー材料		2
エネルギー材料		2
材料化学プロセス工学1		2
材料化学プロセス工学2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
化学反応工学		2
リサイクル工学		2
材料強度学1		2
材料強度学2		2
材料加工法及び演習		2
材料評価法及び演習		2
材料シミュレーション		2
塑性加工学		2
融体成形工学		2
接合工学		2
表面工学		2
粉体材料工学		2
技術者倫理	2	
先端材料工学実験1	2	
先端材料工学実験2	2	
先端材料ゼミナール	1	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

電気電子工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
物理学基礎	2	
複素数とベクトル	2	
線形代数応用	2	
微分積分	2	
化学基礎	2	
微分方程式	2	
物理学応用	2	
確率統計		2
量子力学基礎		2
物理学実験	2	
化学実験		2
電気電子工学入門	2	
電気電子基礎数学及び演習	2	
電気磁気学及び演習1	2	
電気磁気学及び演習2	2	
電気回路及び演習1	2	
計測工学	2	
電子物性	2	
プログラミング言語及び演習	2	
電気回路及び演習2	2	
電子回路及び演習1	2	
電子デバイス及び演習1	2	
電気回路解析学	2	
文献輪読	2	
電気電子工学実験1	2	
電気電子工学実験2	2	
電気電子工学実験3	2	
デジタル回路		2
信号処理論		2
電子回路2		2
電子デバイス2		2
電磁エネルギー変換工学		2
制御工学1		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
変電工学		2
送配電工学		2
プラズマエレクトロニクス		2
コンピュータ工学		2
電気音響工学		2
計測システム工学		2
パワーエレクトロニクス		2
制御工学2		2
発電工学		2
高電圧工学		2
電気電子材料		2
光エレクトロニクス		2
数値計算工学		2
電子回路3		2
技術者倫理	2	
ゼミナール1	2	
電気機器設計・製図		2
電気法規		2
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

情報通信システム工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
物理学基礎	2	
物理学実験	2	
微分積分	2	
物理学応用	2	
情報通信基礎数学及び演習	3	
線形代数応用		2
確率統計		2
微分方程式	2	
フレッシュマンセミナー	2	
情報通信応用数学及び演習	3	
電気回路及び演習1	3	
情報基礎論	2	
電気磁気学及び演習1	3	
電気回路及び演習2	3	
プログラミング言語及び演習	3	
計測工学		2
電気磁気学及び演習2	3	
情報通信工学基礎実験	2	
電子回路及び演習1	3	
電子デバイス		2
電子回路及び演習2	3	
文献輪読	2	
プログラミング応用演習	1	
情報理論		2
アルゴリズムとデータ構造		2
ディジタル回路		2
情報通信工学実験1	2	
数値計算工学		2
通信理論		2
無線通信工学		2
電気回路解析学		2
ソフトウェア工学		2
コンピュータ工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
情報通信工学実験2	2	
ゼミナール1	2	
通信システム工学		2
光通信工学		2
信号処理論		2
制御工学		2
コンピュータネットワーク		2
データベース工学		2
技術者倫理	2	
ゼミナール2	2	
システム数理工学		2
電波法		2
卒業研究	5	

応用化学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
化学基礎		2
物理学基礎		2
数学基礎		2
線形代数基礎		2
化学実験	2	
化学応用		2
微分積分		2
線形代数応用		2
物理学実験	2	
生物学基礎		2
物理学応用		2
統計力学基礎		2
確率統計		2
有機化学1		2
応用化学概論	2	
有機化学2		2
物理化学1		2
有機化学3		2
無機化学1		2
物理化学2		2
分析化学		2
応用化学研究法		2
無機化学2		2
物理化学3		2
量子化学1		2
機器分析学1		2
技術者倫理		2
環境マネジメント		2
生化学		2
化学反応工学		2
量子化学2		2
地球環境科学		2
機器分析学2		2
特許及び情報検索法		2
高分子化学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
高分子材料		2
無機合成化学		2
結晶科学		2
界面化学		2
電気化学		2
有機合成化学		2
バイオマテリアル		2
機能性無機材料		2
錯体化学		2
エネルギー・環境化学工学		2
分子設計		2
触媒化学		2
エコマテリアル		2
サステナブル資源科学		2
応用化学実験1	2	
応用化学実験2	2	
応用化学実験3	2	
ゼミナール	2	
卒業研究	5	

別表第2(第25条関係)

創造工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

建築学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
世界の文化と建築	2	
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
建築のための人文社会	2	
建築のための英語		2
物理学基礎		2
化学基礎		2
数学基礎		2
微分積分		2
基礎統計学		2
線形代数		2
物理学実験		2
化学実験		2
日本建築史	2	
西洋建築史	2	
建築設計1	3	
温熱環境学	2	
空気環境学	2	
光環境学		2
建築音響学		2
静定梁・静定トラスの力学及び力学演習	2	
静定構造の力学及び力学演習	2	
建築の構造1	2	
建築の構造2	2	
建築構造材料	2	
建築計画1	2	
建築計画2	2	
現代建築論		2
建築デザイン論		2
建築設計2	3	
建築設計3	3	
建築設計4	3	
建築設計5		3
建築設備計画	2	
建築設備		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
不静定構造の力学		2
地盤工学		2
鉄骨構造		2
鉄筋コンクリート構造		2
建築基礎構造		2
構造・材料実験		2
建築耐震構造		2
建築仕上げ材料		2
建築生産	2	
建築法規	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

都市環境工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
微分積分	2	
基礎統計学	2	
物理学基礎	2	
物理学実験		2
化学基礎	2	
化学実験		2
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
構造力学1	2	
構造力学2	2	
建設材料工学	2	
土質力学	2	
応用力学	2	
水理学1	2	
水理学2	2	
環境アセスメント	2	
地球環境学	2	
国土・地域計画	2	
都市計画	2	
防災工学	2	
測量実習	2	
測量学	2	
技術者倫理	2	
橋梁工学		2
地盤工学		2
鉄筋コンクリート		2
河川・海岸工学		2
衛生工学		2
水圏環境学		2
大気環境学		2
まちづくり論		2
交通計画		2
交通工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
都市・地域経済学		2
景観工学		2
地理情報システム		2
建設施工		2
環境音響学		2
住宅・住宅地計画		2
建築・都市関連法規		2
空間情報工学		2
インテリアデザイン基礎		2
インテリア設計		2
都市環境工学実験	2	
都市環境工学演習	2	
専門特別講義1		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

デザイン科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎		2
基礎統計学		2
物理学基礎		2
物理学実験		2
化学基礎		2
化学実験		2
情報活用及び演習	2	
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
デザイン概論	2	
デザイン基礎1	2	
デザイン史	2	
デザイン基礎2	2	
製品デザイン基礎		2
インテリアデザイン基礎		2
人とデザイン1		2
生活とデザイン		2
インテリア計画		2
デザインスキル演習1	1	
人とデザイン2		2
空間とデザイン		2
デザインスキル演習2	1	
デザインプレゼンテーション	1	
産業とデザイン		2
情報とデザイン		2
技術とデザイン		2
材料とデザイン		2
社会とデザイン		2
環境とデザイン		2
創造デザイン基礎	2	
工学デザイン基礎	2	
創造デザイン論及び演習	4	
工学デザイン論及び演習	4	
インテリア設計		2
ソーシャルデザイン論及び演習		4

授業科目	単位数	
	必修	選択
インテリアデザイン論及び演習		4
構造力学及び演習		4
デジタルデザイン論及び演習		4
プロダクトデザイン論及び演習		4
ディスプレイデザイン論及び演習		4
インテリア施工		2
専門特別講義1		2
デザイン学外実習		1
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

別表第3(第25条関係)

先進工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

未来ロボティクス学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ロボット体験実習	2	
プログラミング基礎	2	
未来ロボティクス総合セミナー	2	
数学基礎		2
線形代数学		2
微分積分学		2
物理学基礎		2
ロボット設計製作論実習1	2	
ロボット設計製作論実習2	2	
ロボット設計製作論実習3	2	
ロボット設計製作論実習4	2	
ロボット設計製作論実習5	2	
機械製図		1
ロボット機構学		2
ロボット電子回路		4
ロボットプログラミング		2
メカニクス1		4
制御工学		4
電気電子回路論		4
信号処理論		2
ロボット制御学		2
ロボットシステム学		2
科学技術開発マネジメント		2
科学技術基礎英語		2
電磁気学		2
コミュニケーション論		2
基礎統計学		2
ロボティクスチャレンジ		1
ロボットマニピュレータ		2
センサ工学		2
数値解析学1		2
数値解析学2		2
メカニクス2		2
組込み用コンピュータ実装論		2
認識工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
ロボットビジョン		2
認知科学		2
ロボットインターフェイス設計論		2
ロボット構造力学		2
アクチュエータ工学		2
CAD/CAM/CAE		2
流体力学		2
ゼミナール1		2
ゼミナール2		2
ゼミナール3		2
ゼミナール4		2
卒業研究	5	

生命科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
生物学1	2	
数学基礎		2
化学基礎		2
生物学2	2	
微分積分		2
線形代数		2
機器分析学		2
量子化学		2
基礎統計学		2
生命科学基礎演習	1	
分子生物学1		2
生物物理学1		2
生化学1		2
基礎生態学		2
分子生物学2		2
微生物学		2
生化学2		2
遺伝子工学1		2
細胞生物学		2
生物物理学2		2
遺伝子工学2		2
生命科学のための倫理・法律	2	
生命科学基礎実験1	2	
生命科学基礎実験2	2	
構造生物学		2
環境構造学		2
ゲノム科学		2
ウイルス学		2
動物生理学1		2
植物生理学1		2
分子進化学		2
ゲノム生態学		2
分子免疫学		2
生体分子工学1		2
動物生理学2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
保全生物学		2
生体生理工学		2
公衆衛生学		2
微生物生態学		2
生命情報学		2
植物生理学2		2
生物多様性科学		2
生体分子工学2		2
細胞遺伝学		2
微生物工学		2
医薬品生産技術		2
生態系保全技術		2
生命科学応用実験	2	
卒業研究準備実験	2	
卒業研究	5	

知能メディア工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
確率統計	2	
物理学基礎	2	
物理学実験	2	
知能メディア基礎数学	2	
離散数学		2
統計解析		2
プログラミング言語基礎	2	
視覚造形基礎	2	
コンピュータ工学		2
デジタルデザイン基礎演習		2
ネットワーク基礎		2
ヒューマンインタフェース論		2
プログラミング言語応用		2
デジタルファブリケーション		2
メディアデザイン論		2
メディア史		2
人間中心設計	2	
技術者倫理		2
メディア基礎	2	
情報理論	2	
コミュニケーションデザイン演習	2	
知能メディア体験演習	2	
知能メディアプロジェクト1	2	
知能メディアプロジェクト2	2	
メディア工学実験	2	
音響工学基礎		2
画像処理基礎		2
音声工学		2
音響工学応用		2
画像処理応用		2
バーチャルリアリティ		2
人工知能基礎		2
知識工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
機械学習		2
コンピュータネットワーク		2
ネットワーク・データ工学実験	2	
データマイニング		2
データベース工学		2
ネットワーク・データ工学応用		2
情報デザイン基礎		2
情報デザイン演習	2	
情報デザイン論		2
テクノロジーアート		2
情報デザイン応用		2
情報デザイン応用演習		2
フィジカルインタフェース		2
ユーザエクスペリエンスデザイン		2
知能メディアチャレンジ		1
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
ゼミナール3	2	
卒業研究	5	

別表第4(第25条関係)

情報科学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

情報工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
微分積分基礎		2
微分積分応用		2
線形代数基礎		2
線形代数応用		2
確率統計		2
微分方程式		2
応用解析		2
現代代数		2
物理学基礎		2
物理学応用		2
現代物理学		2
物理学実験		2
情報技術		2
情報処理演習	2	
情報処理応用演習	2	
プログラミング演習	2	
プログラミング応用演習	2	
情報工学概論		2
情報基礎論		2
計算機工学		2
論理回路		2
アルゴリズム		2
エレクトロニクス		2
エレクトロニクス応用		2
離散数学基礎		2
離散数学応用		2
ソフトウェア工学		2
プログラミング言語		2
システム理論		2
システムソフトウェア		2
オペレーティングシステム		2
情報理論		2
ソフトウェア基礎演習	2	
ソフトウェア応用演習	2	
情報工学実験	3	

授業科目	単位数	
	必修	選択
計算機制御実験	3	
論理学基礎		2
数値解析		2
情報工学英語		2
データ構造		2
コンパイラ		2
データベース		2
計算機アーキテクチャ		2
デジタル通信		2
デジタル信号処理		2
コンピュータビジョン		2
コンピュータグラフィックス		2
人工知能		2
自然言語理解		2
コンピュータネットワーク		2
ロボット工学		2
音響工学		2
デジタルメディア		2
情報倫理	2	
情報工学基礎ゼミナール	2	
情報工学応用ゼミナール	2	
卒業研究	5	

情報ネットワーク学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
微分積分基礎		2
微分積分応用		2
確率統計		2
微分方程式		2
応用解析		2
線形代数基礎		2
線形代数応用		2
現代代数		2
物理学基礎		2
物理学応用		2
現代物理学		2
物理学実験		2
情報ネットワーク入門		2
情報社会とビジネス		2
情報と論理		2
情報ネットワーク概論		2
情報リテラシ演習		2
Webプログラミング演習		2
ネットワークプログラミング演習		2
ネットワークプログラミング応用演習		2
ICT基礎		2
情報数学基礎		2
情報数学応用		2
OSとシステムソフトウェア		2
アルゴリズム		2
コンピュータネットワーク基礎		2
情報理論		2
情報メディア基礎		2
デジタル回路		2
情報心理学		2
情報心理学応用		2
数値計算		2
ソフトウェア開発論		2
知識工学		2
データベース		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
デジタル信号処理		2
デジタル通信		2
LAN		2
広域ネットワーク		2
ネットワーク応用		2
分散処理		2
音響科学		2
認知科学		2
ビジュアルコンテンツデザイン		2
コンピュータグラフィックス		2
コンピュータビジョン		2
オーディオコンテンツ		2
情報ネットワーク英語		2
Webシステム基礎実験		2
Webアプリケーション構築実験		2
情報倫理		2
ネットワーク管理実習		2
情報ネットワーク基礎ゼミナール	2	
情報ネットワーク応用ゼミナール	2	
卒業研究	5	

別表第5(第25条関係)

社会システム科学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

経営情報科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
基礎数学および演習		4
線形代数入門		2
データ解析入門		2
データマイニング入門		2
オペレーションズリサーチ入門		2
コンピュータリテラシ	2	
情報リテラシ		2
ベンチャービジネス論		2
科学技術者倫理		2
環境保護と法		2
社会システム科学入門	2	
社会システムと意思決定		2
企業の法的環境		2
ビジネスコミュニケーション		2
フィールドアクティビティ		2
情報処理基礎および演習		4
コンピュータサイエンス入門		2
プログラム言語基礎		2
プログラム言語とプログラミング		2
プログラム言語応用		2
データ構造入門		2
離散数学		2
微分方程式		2
情報システム基礎		2
情報ネットワーク		2
オペレーションズリサーチ応用		2
知的財産権		2
企業と経営		2
インターンシップ概論		2
会計システムおよび演習		4
リスクマネジメント概論		2
原価管理および演習		4
経営管理論		2
システム方法論		2
環境システム科学		2
金融工学入門		2
プロジェクトマネジメント概論	2	
プロジェクトとシステム構築		2
プロジェクトとシステム運用		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
プロジェクトと表現技法		2
ナレッジマネジメント		2
コミュニケーションマネジメント		2
産官学連携ビジネス創成論		2
プロジェクト計画		2
コストマネジメント		2
プロジェクト運営と意思決定		2
プロジェクトエンジニアリング		2
人間工学概論		2
行動科学分析		2
生産システム工学		2
組織学習		2
技術経営		2
生産管理		2
品質管理		2
環境リスクマネジメント		2
マーケティングマネジメント		2
ロジスティクス		2
情報数学		2
オブジェクト指向システム設計		2
モデリング手法概論		2
問題解決システム		2
応用情報処理および演習		4
経営情報システム		2
マルチメディア情報処理		2
流通情報システム論		2
情報システム開発および演習		2
環境マネジメントおよび演習		2
多変量解析および演習		2
作業環境設計および演習		2
生産システムおよび演習		2
企業実習		2
情報システム開発		2
プロジェクトマネジメント実験		2
プロジェクトマネジメント演習		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究		2
卒業研究	5	

プロジェクトマネジメント学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
基礎数学および演習		4
線形代数入門		2
データ解析入門		2
データマイニング入門		2
オペレーションズリサーチ入門		2
コンピュータリテラシ	2	
情報リテラシ		2
ベンチャービジネス論		2
科学技術者倫理		2
環境保護と法		2
社会システム科学入門	2	
企業の法的環境		2
社会システムと意思決定		2
ビジネスコミュニケーション		2
フィールドアクティビティ		2
情報処理基礎および演習		4
コンピュータサイエンス入門		2
プログラム言語基礎		2
プログラム言語とプログラミング		2
プログラム言語応用		2
データ構造入門		2
離散数学		2
微分方程式		2
情報システム基礎		2
情報ネットワーク		2
オペレーションズリサーチ応用		2
知的財産権		2
企業と経営		2
インターンシップ概論		2
会計システムおよび演習		4
リスクマネジメント概論		2
経営管理論		2
システム方法論		2
環境システム科学		2
金融工学入門		2
プロジェクトマネジメント概論	2	
プロジェクトとシステム構築		2
プロジェクトとシステム運用		2
プロジェクトと表現技法		2
プロジェクトリスク管理		2
ナレッジマネジメント		2
コミュニケーションマネジメント		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
産官学連携ビジネス創成論		2
プロジェクト計画		2
コストマネジメント		2
プロジェクト運営と意思決定		2
品質マネジメント		2
プロジェクトエンジニアリング		2
モデリングとシミュレーション		2
情報とセキュリティ		2
マルチメディアシステム概論		2
コンピュータネットワークとアプリケーション		2
ソフトウェア開発の定量化技法		2
ソフトウェア開発管理		2
プロジェクト評価		2
情報技術社会論		2
数理計画		2
プロジェクトと企業行動		2
経営システム工学		2
創造技法		2
スケジューリング技法		2
社会技術概論		2
プロジェクト戦略と事業企画		2
研究開発技法		2
生産システムマネジメント		2
経営戦略		2
ものづくりマネジメント		2
サービスマネジメント		2
サイバーマニュファクチャリング		2
ユーザ要求とシステム設計		2
ユーザビリティエンジニアリング		2
技術経営論		2
情報システム開発		2
プロジェクトマネジメント実験		2
プロジェクトマネジメント演習		2
環境マネジメントおよび演習		2
多変量解析および演習		2
作業環境設計および演習		2
生産システムおよび演習		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究		2
卒業研究	5	

金融・経営リスク科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
基礎数学および演習		4
線形代数入門		2
データ解析入門		2
データマイニング入門		2
オペレーションズリサーチ入門		2
コンピュータリテラシ		2
情報リテラシ		2
ベンチャービジネス論		2
科学技術者倫理		2
環境保護と法		2
社会システム科学入門	2	
企業の法的環境		2
社会システムと意思決定		2
ビジネスコミュニケーション		2
フィロソフィ・アクティビティ		2
情報処理基礎および演習		4
プログラム言語基礎		2
コンピュータサイエンス入門		2
リスク科学概論	2	
経済金融入門	2	
ファイナンス概論		2
現代技術論	2	
環境リスク		2
確率論		2
安全システム工学		2
投資意思決定の数理		2
知的財産権		2
経営管理論		2
リスク対策と保険		2
会計システム		2
金融リスク論	2	
情報リスクマネジメント	2	
製品安全マネジメント	2	
環境リスク分析	2	
生活とリスク		2
安全と安心の心理		2
社会心理学		2
グローバル・スタディーズⅠ		2
グローバル・スタディーズⅡ		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
データサイエンスおよび演習		2
サービスサイエンス入門		2
組織運営のリスクマネジメント		2
金融工学		2
投資戦略と評価		2
コーポレートファイナンス		2
情報技術社会論		2
情報システム開発		2
サイバーリスクマネジメント		2
技術開発リスクマネジメント		2
資源・エネルギーリスクマネジメント		2
産業・組織心理学		2
防災および危機管理システム		2
環境リスクマネジメントおよび演習		2
ヒューマンファクタのリスクおよび演習		2
リスクコミュニケーションおよび演習		2
生産システムおよび演習		2
投資シミュレーションおよび演習		2
金融・経営リスクマネジメント実験	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究	2	
卒業研究	5	

別表第6(第25条関係)

教職課程に関する科目(学士の学位を授与するための授業科目を除く。)

1. 教職に関する科目

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
教職概論		2	※
教育原理		2	※
教育心理学		2	※
教育行政学		2	※
教育と社会		2	
教育課程論		2	※
数学科教育法1		2	中・高一種免(数学)必修
数学科教育法2		2	中・高一種免(数学)必修
数学科教育法3		2	
数学科教育法4		2	
理科教育法1		2	中・高一種免(理科)必修
理科教育法2		2	中・高一種免(理科)必修
理科教育法3		2	
理科教育法4		2	
情報科教育法1		2	高一種免(情報)必修
情報科教育法2		2	高一種免(情報)必修
工業科教育法1		2	高一種免(工業)必修
工業科教育法2		2	高一種免(工業)必修
商業科教育法1		2	高一種免(商業)必修
商業科教育法2		2	高一種免(商業)必修
道德教育の理論と実践		2	中一種免のみ履修可(必修)
特別活動論		2	※
教育工学		2	※
生徒指導・進路指導論		2	※
教育相談		2	※
教育実習事前事後指導		1	高一種免(工業)以外は必修
教育実習A		4	高一種免(工業)以外は必修
教育実習B		2	高一種免(工業)以外は必修
教職実践演習(中・高)		2	※

(注)※印の科目は、全教職課程履修者必修。

2. 教科に関する科目

工学部 機械工学科, 機械電子創成工学科, 先端材料工学科, 電気電子工学科

創造工学部 都市環境工学科

社会システム科学部 経営情報科学科

(工業)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
職業指導1		2	高一種免(工業)必修

工学部 応用化学科

(理科)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
電磁気学		2	
宇宙科学		2	
生物学実験		2	中一種免(理科)必修
地学実験		2	中一種免(理科)必修

情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科

社会システム科学部 経営情報科学科, プロジェクトマネジメント学科

(数学)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
代数学1		2	中・高一種免(数学)必修
代数学2		2	中・高一種免(数学)必修
代数学3		2	
幾何学1		2	中・高一種免(数学)必修
幾何学2		2	中・高一種免(数学)必修
幾何学3		2	
解析学1		2	中・高一種免(数学)必修
解析学2		2	中・高一種免(数学)必修
解析学3		2	
統計解析		2	※1
数学特論1		2	※2
数学特論2		2	※3

(注)※1 情報科学部のみ履修可。

※2・3 社会システム科学部のみ履修可。

情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科
 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
 (情報)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
情報と職業		2	高一種免(情報)必修

社会システム科学部 経営情報科学科
 (商業)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
職業指導2		2	高一種免(商業)必修

3. 教科又は教職に関する科目

工学部 応用化学科
 情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科
 社会システム科学部 経営情報科学科, プロジェクトマネジメント学科

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
介護体験入門		1	中一種免必修

別表第7(第49条関係)

授業科目		単位数	
		必修	選択
日本語	日本語基礎1		1
	日本語基礎2		1
	日本語初級1		3
	日本語初級2		3
	日本語中級1		2
	日本語中級2		2
	日本語表現		1
	理工系日本語		1
日本事情	日本事情1		2
	日本事情2		2
	日本事情3		2
	日本事情4		2
	日本事情5		2
	日本事情6		2
	日本事情7		2
	日本事情8		2
	日本事情ゼミナール		2

別表第8(第50条関係)

1 平成28年度入学検定料 単位:円

試験種別	1試験種の検定料
推薦・AO・特別入学試験	30,000

単位:円

試験種別	1つのタイプで出願した場合の検定料	2つのタイプで出願した場合の検定料
大学入試センター利用入学試験(前期)	15,000	20,000

※この試験には2種類のタイプがあります。

単位:円

試験種別	検定料
大学入試センター利用入学試験(中期)	15,000

単位:円

試験種別	1日分の検定料	2日目以降の追加検定料(1日あたり)
A日程入学試験	30,000	5,000
B日程入学試験	30,000	5,000
大学入試センター利用入学試験(後期)	20,000	
C日程入学試験	30,000	

2 平成28年度入学生納付金

単位:円

学部	入学金	授業料	合計
工学部 創造工学部 先進工学部 情報科学部 社会システム科学部	200,000	1,350,000	1,550,000

3 平成28年度入学生の次年度以降の授業料は、3学部共毎年3万円増とする。

なお、社会情勢により金額は変動することがある。

千葉工業大学教授会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第8条の2第7項に基づき、教授会を円滑に運営するために必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部 zu 所属する専任教授により組織する。

2 学部長は、必要あると認めた場合に、教授会の承認を得て、教授会に当該学部 zu 所属する准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学則第8条の2第5項に定められた次の事項について学長に意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(招集)

第4条 教授会は、学部長が必要と認めたときに招集する。

2 学部長は、当該学部 zu 所属する教授の3分の1以上の請求があるときは、10日以内に教授会を招集しなければならない。

3 学部長は、学長の請求があるときは、10日以内に教授会を招集しなければならない。

(成立)

第5条 当該学部 zu 所属する教授は、教授会に出席するものとする。ただし、止むを得ない理由により欠席する場合は、委任状をもって出席に代えることができる。

2 教授会は、委任状を含め2分の1以上の出席をもって成立する。

(議長)

第6条 教授会の議長は、学部長とする。

2 学部長に事故あるときは、副学部長又は教授会で互選された者が議長となる。

(議決)

第7条 教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって可決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを採決する。

(報告)

第8条 学部長は、教授会終了後、第3条に規定する事項について、当該教授会の意見をすみやかに学長に報告しなければならない。

(事務)

第9条 教授会の事務は、学務部が所管する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、理事会の議決を経なければならない。

附則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年2月22日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、第3条第1項第5号を審議する教授会の構成員とはならない。

附則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、教員の教育・研究業績に関し意見を述べる教授会の構成員とはならない。

千葉工業大学合同教授会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第8条の3第3項に基づき、合同教授会を円滑に運営するために必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 合同教授会は、学長及び専任教授により組織する。

2 学長は、必要があると認めた場合に、合同教授会の承認を得て、合同教授会に准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。

(審議事項)

第3条 合同教授会は、学則第8条の3第2項に定める次の事項について学長に意見を述べるものとする。

(1) 学則の改正に関する事項

(2) 前号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(招集)

第4条 合同教授会は、学長が必要と認めたときに招集する。

2 学長は、専任教授の3分の1以上の請求があるときは、10日以内に合同教授会を招集しなければならない。

(成立)

第5条 教授は、合同教授会に出席するものとする。ただし、止むを得ない理由により欠席する場合は、委任状をもって出席に代えることができる。

2 合同教授会は、委任状を含め2分の1以上の出席をもって成立する。

(議長)

第6条 合同教授会の議長は、学長とする。

2 学長に事故あるときは、副学長又は合同教授会で互選された者が議長となる。

(議決)

第7条 合同教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって可決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを採決する。

(事務)

第8条 合同教授会の事務は、学務部が所管する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、合同教授会の審議を経て、理事会の議決を経なければならない。

付則

この規程は、平成13年4月1日より施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、第3条第1項第1号を審議する合同教授会の構成員とはならない。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類 目次

ア 設置の趣旨及び必要性	P. 1
イ 学部・学科等の特色	P. 4
ウ 学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 4
エ 教育課程の編成の考え方及び特色	P. 5
オ 教員組織の編成の考え方及び特色	P. 9
カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P.10
キ 施設、設備等の整備計画	P.12
ク 入学者選抜の概要	P.14
ケ 取得可能な資格	P.16
コ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的な計画	P.17
サ 管理運営	P.18
シ 自己点検・評価	P.19
ス 情報の公表	P.20
セ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P.23
ソ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P.24

設置の趣旨を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

1. 大学及び学部等の沿革

千葉工業大学は、昭和 17 年に予科 3 年、学部 3 年の旧制興亜工業大学として設立されて以来、伝統的な工業系の単科大学として発展を続け、昭和 21 年には大学名称を千葉工業大学に変更、平成 13 年からは時代の変化や社会の要請を踏まえて、新たに情報科学部及び社会システム科学部を設置、平成 15 年には工学部の学科を再編するとともに、平成 18 年には工学部に未来ロボティクス学科を設置、平成 21 年には社会システム科学部に金融・経営リスク科学科を設置し、3 学部 11 学科体制により現在に至っている。

本学は、開学以来、関東圏を中心とする地域社会や地域産業を支える技術者の養成を目指して、建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」に基づき、学部教育における教育目標を達成するために、常に、教育・研究環境の整備充実に努めるとともに、当該専門分野に関する実践的な教育を展開してきたことから、8 万人余の有為な人材を輩出することにより、地域社会を中心に多大な貢献をもたらしてきた。

本学の工学部は、平成 15 年に既設の機械工学科、金属工学科、電気工学科、電子工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科、精密機械工学科、工業デザイン学科を母体として、機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科、建築都市環境学科、デザイン科学科の 5 学科体制に改編し、現在では未来ロボティクス学科を加えた 6 学科体制により、工学と工業の発展に対応しうる基礎知識及びものづくりに関する知見を有した創造性豊かな人材の養成を目指した教育・研究を展開している。

2. 設置の趣旨及び必要性

近年、社会及び産業界における科学技術の波は急速に進展しており、科学技術の高度化や多様化により、工学分野の教育研究領域は大きな広がりを見せていることから、将来における学問研究の進展も視野に入れ、複合的な分野を含めて広く工学分野の学問的な成果を取り込める教育環境を整備することにより、今後の高度技術化社会に一層貢献できる学部教育としての充実が求められている。

また、現代社会においては、工学における基幹分野に関する専門教育の重要性が認知されている一方、基幹分野の一つを中核とした学問分野の拡がり、基幹分野間の融合、基幹分野から社会的応用への展開、さらには、基幹分野全域の総合化などの多様な教育体系が求められていることから、工学における基幹分野に関する基礎教育の充実とともに、工学教育の学際化や総合化への対応にむけて、既設の工学部の教育組織を発展的に改組再編する必要性が生じてきている。

このことから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展と特色ある教育研究への取り組みにむけて、既設の工学部の機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科において展開してきた教育内容を基盤として、その教育課程及び教員組織並びに施設設備等を基礎としつつ、当該分野のさらなる教育研究の発展と充実を目指して、工学部としての教育組織の再編を行うこととした。

具体的には、既設の工学部の機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科において展開してきた教育内容を基盤として、機械工学科、電気電子工学科、機械電子創成工学科、先端材料工学科、情報通信システム工学科、応用化学科の6学科を設置することとした。(資料1)

3. 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

(1) 卒業後の進路

機械電子創成工学科の卒業後の進路としては、生活関連産業用機械製造業、業務用機械器具製造業、産業用電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業などをはじめとする機械器具製造関連産業を中心として、幅広く活躍することが期待される。

(2) 基礎となる学科の求人実績

機械電子創成工学科の基礎となる既設の工学部の機械サイエンス学科と電気電子情報工学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人件数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料2)

今般の機械電子創成工学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の生命環境科学科における卒業生の進路や卒業生を

受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

(3) 卒業生の採用意向調査

機械電子創成工学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、機械電子創成工学科において養成する人材や設置の必要性、機械電子創成工学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 71%にあたる 578 社が必要性を認めており、工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 81%にあたる 656 社がその必要性を認めており、また、機械電子創成工学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 37%にあたる 304 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、機械電子創成工学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料3)

4. 教育研究上の目的及び養成する人材並びに研究対象とする学問分野

機械電子創成工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「機械工学分野」及び「電子工学分野」として、「機械工学と電子工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、機械電子技術や機械電子システムの諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、人間生活の利便性と生活の質の向上を図る機械電子システムを創成するための創造的な能力と実践的な態度を育てることにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、機械電子創成工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解のもとに、機械及び機械要素の設計や製作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、電子技術や計測制御に関する知識と技術を習得させ、新たな機械電子システムを創り出すための応用的な能力を身に付けて、次世代の機械電子システムを創成する人材を養成する」こと

としている。

イ 学部、学科等の特色

機械電子創成工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「機械工学分野」及び「電子工学分野」として、「機械工学と電子工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、機械電子技術や機械電子システムの諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、人間生活の利便性と生活の質の向上を図る機械電子システムを創成するための創造的な能力と実践的な態度を育てることにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、機械電子創成工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解のもとに、機械及び機械要素の設計や製作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、電子技術や計測制御に関する知識と技術を習得させ、新たな機械電子システムを創り出すための応用的な能力を身に付けて、次世代の機械電子システムを創成する人材を養成する」こととしている。

さらに、機械電子創成工学科の卒業後の進路としては、生活関連産業用機械製造業、業務用機械器具製造業、産業用電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業などをはじめとする機械器具製造関連産業を中心として、幅広く活躍することが期待される。

このことから、機械電子創成工学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、機械工学分野及び電子工学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

ウ. 学部、学科等の名称及び学位の名称

機械電子創成工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「機械工学分野」及び「電子工学分野」として、「機械工学と電子工学に関する基礎的・

基本的な知識と技術を習得させ、電子機械技術や機械電子システムの諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、人間生活の利便性と生活の質の向上を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、機械電子創成工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解のもとに、機械及び機械要素の設計や製作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、電子技術や計測制御に関する知識と技術を習得させ、新たな機械電子システムを創り出すための応用的な能力を身に付けて、次世代の機械電子システムを創成する人材を養成する」こととしている。

このような、学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「機械電子創成工学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえ、学科の英訳名称を「Department of Innovative Mechanical and Electronic Engineering」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

学科の名称

機械電子創成工学科 「Department of Innovative Mechanical and Electronic Engineering」

学位の名称

学士（工学） 「Bachelor of Engineering」

エ 教育課程編成の考え方及び特色

教育課程編成の考え方については、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえ、既設の工学部の機械サイエンス学科と電気電子情報工学科において展開してきた機械工学分野と電子工学分野の教育内容を基盤として、機械及び機械要素の設計や製作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、電子技術や計測制御に関する知識と技術を習得させ、新たな電子機械を創り出すための応用的な能力を身に付けて、次世代の機械電子システムを創成

する人材の養成を目指した教育課程の編成としている。

また、機械電子創成工学科では、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成することから、教育課程を「教養科目」と「専門科目」の科目群から編成することとしており、特に、「専門科目」においては、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と技術を身につけることが可能となるように、基礎から基幹、基幹から展開へと発展させるための教育課程の編成としている。

1. 教養科目

「教養科目」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえたうえで、養成する人材で掲げている「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」を目指すことから、「教養基礎科目」と「教養共通科目」及び「教養特別科目」の科目群から編成することとしている。

(1) 教養基礎科目

「教養基礎科目」は、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から編成することとしており、「コミュニケーションスキル」では、英語による基礎的なコミュニケーション能力の習得を図るための科目として、24科目24単位を選択科目として配置し、また、日本語による文章を書くための基本的な技術やルールを習得するための科目として、「日本語表現法」1単位を必修科目として配置している。

「情報リテラシー」では、ICTを用いて情報を収集、分析、活用するための基礎的な能力を習得する科目として、「情報処理」2単位を必修科目として配置し、

「人間力養成」では、健康増進のための運動効果や健康づくり運動に関する基本的な知識と方法の理解及び生涯にわたって運動に親しむ態度を養うための科目として、「スポーツ科学」2単位を必修科目として配置している。

また、学部教育における主体的な学習のあり方やアカデミック・スキルを習得するための科目として、「初年次教育」1単位を必修科目として配置するとともに、卒業後も自律・自立して学習するとともに、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を育成するための科目として、「キャリアデザイン1」1単位、「キャリアデザイン2」1単位、「キャリアデザイン3」1単位を必修科目として配置している。

(2) 教養共通科目

「教養共通科目」は、「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から編成することとしており、「国際理解」では、世界の多様な国や地域の言語や文化と社会に関する知識を習得する科目として、「異文化理解」2単位、「言語と文化1」2単位、「言語と文化2」2単位を必修科目として配置し、「グローバル時代の法」2単位、「国際社会論」2単位を選択科目として配置している。

「人間・社会・自然の理解」では、人間や人間理解に関する知識を習得する科目として、「哲学」2単位、「倫理学」2単位、「心理学」2単位、「身体と健康の科学」2単位を選択科目として配置し、自らがよって立つ国の歴史や文化、芸術に関する知識を習得する科目として、「文学と芸術」2単位、「歴史と人間」2単位を選択科目として配置している。

また、現代社会が直面する基本的な諸課題に関する知識を習得する科目として、「憲法と社会」2単位、「政治と社会」2単位、「経済学」2単位、「現代社会論」2単位を選択科目として配置し、自然と環境や科学技術に関する基礎的な知識を習得する科目として、「科学技術史」2単位、「環境科学概論」2単位、「生命科学」2単位、「地球科学」2単位、「物理の世界と先端技術」2単位、「物質科学」2単位を選択科目として配置している。

「総合」では、問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる能力を習得する科目として、「課題探求セミナー」2単位を選択科目として配置するとともに、これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を習得する科目として、「総合学際科目」2単位を選択科目として配置している。

(3) 教養特別科目

「教養特別科目」は、英語の運用能力を高めるための科目として、「イングリッシュアクティブラーニング1」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング2」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング3」1単位を選択科目として配置し、スポーツ実践を通して、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワークを育成するための科目として、「スポーツアクティブラーニング」2単位を選択科目として配置している。

また、地域活動や社会活動などの実体験を通して、自らの社会的役割を認識する

ための科目として、「ソーシャルアクティブラーニング」1単位を選択科目として配置し、国内外における就業体験のための科目として、「国際インターン」1単位、「国内インターン」1単位を選択科目として配置している。

さらに、ボランティア活動を通じて、人間力を高めるための科目として「ボランティア」1単位を選択科目として配置するとともに、「教養共通科目」で扱った内容を発展させ、現代社会が抱える諸問題について新たな視点からとらえ直すことにより、総合的な判断力や理解力を高めるための科目として、「総合科学特論」2単位を選択科目として配置している。

2. 専門科目

機械電子創成工学科の「専門科目」は、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、教育目標を達成するために、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次生のある教育課程を編成することとしており、また、専門教育を体系的に展開することから、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」から編成している。

(1) 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、機械電子創成工学を学習するうえで必要となる基礎としての数学・物理・化学などの自然科学に関する科目として、「数学基礎」2単位、「微分積分」2単位、「線形代数基礎」2単位、「物理学基礎」2単位を必修科目として配置するとともに、「微分方程式」2単位、「応用数学」2単位、「線形代数応用」2単位、「基礎統計学」2単位、「物理学実験」2単位、「化学基礎」2単位を選択科目として配置している。

(2) 専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入、総論となる科目で、機械電子創成工学における学問体系と基本的な知識を理解する科目として、「機械電子創成概論」2単位と「機械電子創成基礎実験・実習」2単位を必修科目として配置したうえで、「デジタルものづくり」2単位、「機構学」2単位、「力学」2単位、「材料力学」2単位、「電気磁気学」2単位、「電気回路」2単位、「電子デバイス」2単位を選択科目として配置している。

(3) 専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習する機械電子創成工学の基本をより具体的に理解するための専門分野の体系全般にわたる科目として、「機械設計製図学」 2 単位、「機械力学」 2 単位、「機械加工法」 2 単位、「材料とその性質」 2 単位、「トライボロジー」 2 単位、「熱・流体力学」 2 単位、「精密加工」 2 単位、「シミュレーション工学」 2 単位を選択科目として配置している。

また、「アナログ回路」 2 単位、「デジタル回路」 2 単位、「半導体電力変換工学」 2 単位、「電気機器学」 2 単位、「プログラミング言語」 2 単位、「組込みシステム」 2 単位、「ネットワークプログラミング」 2 単位、「システム制御理論」 2 単位、「システム制御工学」 2 単位、「センサ工学」 2 単位、「計測工学」 2 単位、「機械電子創成発展講義 1」 2 単位、「機械電子創成発展講義 2」 2 単位を選択科目として配置している。また、技術者に求められる素養を身に付けるための科目として「技術者倫理」 2 単位を選択科目として配置している。

そのうえで、講義科目において習得した機械電子創成工学に関する知識や内容について、体験的な理解を促進させるための科目として、「機械電子創成基盤実験・実習」 2 単位、「機械電子創成応用実験・実習」 2 単位、「機械電子創成発展実験・実習」 2 単位を必修科目として配置するとともに、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果に関する卒業論文の作成へと結び付けるための科目として、「ゼミナール 1」 2 単位、「ゼミナール 2」 2 単位を必修科目として配置したうえで、卒業論文の作成指導のための科目として、「卒業研究」 5 単位を必修科目として配置している。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

機械電子創成工学科は、既設の工学部の機械サイエンス学科と電気電子情報工学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

具体的には、機械電子創成工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「機械工学分野」と「電子工学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「機械工学分野」と「電子工学分野」を専門とする専任教員を中心とし

た教員組織としているとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授 6 人及び准教授 4 人、助教 1 人を配置する計画としている。

また、機械電子創成工学科の教員組織の年齢構成については、30 歳代 1 人、40 歳代 4 人、50 歳代 6 人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、機械電子創成工学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、専任教員の配置計画における支障はないものと考えている。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

(1) 授業の方法

機械電子創成工学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式及び実験形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は 80 人から 110 人、実習形式及び実践形式は 1 グループを 10 人から 20 人とする。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の 4 年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室に

における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、1年間あたりの卒業要件科目の履修単位数の上限を40単位とする。

(5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

2. 履修指導方法

機械電子創成工学科における履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。(資料4)

3. 卒業要件

機械電子創成工学科における卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「教養科目」については、必修科目15単位を含む36単位以上、「専門科目」については、必修科目27単位を含む50単位以上を修得することとする。

(1) 教養科目

「教養科目」は、必修科目10科目15単位、選択科目53科目75単位としており、卒業要件については、「教養科目」全体として、必修科目15単位を含む36単位以上を修得することとする。

（２）専門科目

機械電子創成工学科における「専門科目」の「専門基礎科目」は、必修科目 4 科目 8 単位、選択科目 6 科目 12 単位、「専門基幹科目」は、必修科目 2 科目 4 単位、選択科目 7 科目 14 単位、「専門展開科目」は、必修科目 6 科目 15 単位、選択科目 22 科目 44 単位としており、卒業要件は、「専門科目」全体として、必修科目 27 単位を含む 50 単位以上を修得することとする。

キ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学は、津田沼と新習志野に各々校舎を有しており、津田沼校舎は、ＪＲ総武線津田沼駅から徒歩約 1 分の習志野市津田沼に位置し、校地面積約 54,000㎡を有している。新習志野校舎は、ＪＲ京葉線新習志野駅から徒歩約 6 分の習志野市芝園に位置し、校地面積約 103,000㎡を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地を含む十分な校地面積を確保していることから、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、ＪＲ京葉線新習志野駅から徒歩約 15 分の習志野市茜浜に位置し、約 98,000㎡の面積を有しており、新習志野校舎とも隣接した環境にある。運動用設備としては、野球場や武道館をはじめとして、陸上トラック兼ラグビー場、テニスコート、サッカー場や屋内練習場などを備えており、主に学生の課外活動を中心として利用している。

2. 校舎等施設の整備計画

津田沼校舎では、16 棟の校舎等施設を有しており、その総面積は約 96,000㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室 45 室、演習室 39 室、実験・実習室 283 室、情報処理室 3 室の他、教員研究室 221 室、講師控室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えている。

また、新習志野校舎では、15 棟の校舎等施設を有しており、その総面積は約 46,500㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室 51 室、演習室 9 室、実験・実習室 23 室、情報処理室 2 室の他、教員研究室 70 室、講師控室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えていることから、津田沼校舎及び新習志野校舎の利用計画における教育研究上の支障はないもの

と考えている。

機械電子創成工学科は、既設の工学部の学科を基礎として、現有の収容定員の範囲内において設置することから、校舎等施設の整備計画としては、既存の校舎等施設を有効的に利用することとしているが、一方で、新習志野校舎では、大学全体における学生数を踏まえ、新たな学生厚生施設等の建設計画を有している。計画概要としては、地上4階・鉄骨構造、延べ床面積約8,400㎡の食堂棟（1階・2階は合計1,700席の食堂、3階は多目的ホール）と、地上2階・鉄骨構造、延べ床面積約3,700㎡の体育館（大アリーナ；バスケットコート3面）を整備することによる教育研究環境のさらなる充実を図ることとしている。（資料5）

機械電子創成工学科の設置に伴う教員の研究室の整備計画については、教員組織として計画している専任教員数11名（教授6名、准教授4名、助教1名）に対して、1室当たり約100㎡の専任教員研究室11室を設けることとしている。

設備の整備計画については、これまで、大学全体として使用していた教具や備品を有効的に転共用することとしている。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

（1）図書等の資料の整備計画

津田沼校舎の図書館では、図書等の資料について、現在、図書63,875冊（うち外国書6,877冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌1,419誌（うち外国雑誌987誌）のほか、ビデオやDVDなどの視聴覚資料837点の整備がなされており、また、新習志野校舎の図書館では、図書等の資料について、現在、図書148,655冊（うち外国書18,276冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌2,534誌（うち外国雑誌710誌）のほか、ビデオやDVDなどの視聴覚資料1,763点の整備がなされており、加えて電子ジャーナル3,463種が両館で閲覧できることから、教育研究上の支障はないものと考えている。

工学部の設置計画に伴う図書等の資料の整備計画としては、これまで、大学全体として整備してきた専門図書35,295冊を有効的に転用するとともに、新たに工学部の教育研究を行うために必要となる図書等の資料の整備計画として、専門図書2,004冊（うち外国書292冊）、映像資料やCD-ROM等の視聴覚資料160点を整備することとしている。

（2）図書館の整備計画

図書館の機能については、津田沼校舎の図書館では、収容定員の約5%にあたる259席の閲覧座席数を整備しているとともに、サービスカウンター、レファレンスカウンター、グループ学習室、視聴覚コーナー、ブラウジングコーナー、探索用パソコン7台、コピー機2台を整備している。

また、新習志野校舎の図書館では、収容定員の約19%にあたる769席の閲覧座席数を整備しているとともに、サービスカウンター、レファレンスカウンター、グループ学習室、視聴覚コーナー、ブラウジングコーナー、グローバルラウンジ、探索用パソコン8台、コピー機2台を整備している。また、2015年3月から主として外国語学習のためのスペースとしてグローバルラウンジを開設している。

図書館システムについては、京セラ丸善システムインテグレーション株式会社製の「CARIN-i」を導入している。

また、2015年4月から導入した米国EBSCO社製の文献検索データベース「EBSCO Discovery Service」を通じて、国内はもとより海外の大学図書館等が所蔵する文献複写や相互貸借等のサービスについても可能としている。

ク 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

まず工学部の入学者受入方針（アドミッションポリシー）は以下の通りである。

【工学部のアドミッションポリシー】

本学の建学の精神及び教育目標等に示す教育基本理念を理解し、本学の教育研究に強い関心を持ち、自らを向上させ技術者としての知識を身につけようとする意欲あふれる学生、専門知識とそれに相応しい教養を兼ね備えた技術者に成長できる資質を持った学生を求めている。特にこの学部では高等学校での数学や理科の基礎的・基本的な素養を身につけ、わが国を支える工学の基盤分野に挑む意欲と工学の専門分野のもののづくりやシステムづくりに興味があり、この分野を学びたいという動機と意志を持っている人材を求める。

次に工学部機械電子創成工学科の入学者受入方針（アドミッションポリシー）は以下の通りである。

【機械電子創成工学科】

機械電子創成工学科では、機械・電子技術やそれらが融合したシステムの諸問題を主体的・合理的に、かつ倫理観を持って解決し、人間生活の利便性と生活の質の向上を図ることのできる技術者の育成を目指している。そのため本学科では次のような資質を持つ人を求める。

- (1) 数学、理科などの基礎学力を有する人
- (2) 機械工学・電子工学に強い興味を持つ人
- (3) 両者の融合技術による新しいものづくりやシステム創成を通して社会への貢献を目指す人

(2) 入学試験の概要

アドミッションポリシーに基づき以下の選抜入学試験を行い、多様な学生を受け入れる。

- ① 一般入学試験
- ② 大学入試センター試験利用入学試験
- ③ 推薦入学試験
- ④ AO創造入学試験
- ⑤ 特別入学試験（帰国生・社会人・外国人留学生）

① 一般入学試験

一般入学試験は本学独自の試験として「A日程」「B日程」「C日程」の3回実施する。A日程では3教科型入試（数学・英語を必須とし、物理・化学・生物の中から1科目を選択）により選抜する。B日程では2教科型入試（数学を必須とし、英語・物理・化学・生物の中から1科目を選択）により選抜する。C日程でも2教科入試（同一時間内に数学・英語・理科＜物理または化学＞の中から2教科を選択）により選抜する。

② 大学入試センター試験利用入学試験

大学入試センター試験の得点を利用した試験として「前期」「中期」「後期」の3回実施する。前期では受験したすべての教科の中から高得点3教科3科目を合否判定に採用する「タイプⅠ」と数学または理科の高得点科目を2倍した科目とその他の高得点2教科2科目を合否判定に採用する「タイプⅡ」により選抜する。中期では数学または理科の高得点1科目と外国語または国語の高得点1科目の2教科2科目を合否判

定に採用して選抜する。後期ではセンター試験の数学を含む高得点2科目または高得点1科目と本学独自の数学の得点を合否判定に採用する2つの採点方式で選抜する。

③ 推薦入学試験

推薦入学試験は一般入試では評価し難い能力・適正などを多面的に審査・評価する選抜として実施する。指定校制推薦入学試験、公募制推薦入学試験、専門高校推薦入学試験、帰国生徒推薦（指定校制）入学試験の区分を設けて実施する。推薦入学試験の選考は高等学校からの調査書および面接により行う。主に学習能力・志望理由・入学後の抱負・人物等を見極める。

④ A O創造入学試験

A O創造入学試験は一般入試では評価し難い能力を多面的に審査・評価する選抜として実施する。選考は自己評価・志望理由書・高等学校からの調査書等の書類および面接のほか、全学科でものづくり・デッサン・プレゼンテーション等の実技試験を行い、それらを総合的に評価して選抜する。

⑤ 特別入学試験

特別入学試験は特色ある学生の受け入れを目的として外国人留学生特別入学試験、帰国生徒特別入学試験、社会人特別入学試験の区分を設けて実施する。調査書及び面接により選考を行う。外国人留学生特別入学試験は書類審査および面接のほか、日本留学試験の結果も合否判定の基準に加える。帰国生徒特別入学試験と社会人特別入学試験は書類審査および面接のほか、小論文の内容も合否判定の基準に加えて選抜する。尚、社会人特別入学試験の出願資格は入学時に満22歳に達している者で高等学校を卒業またはそれと同等の学力を持ち、継続して一定の職業を有する者とする。

これらの入学試験を適正に実施するにあたり、学長を筆頭とした入学試験委員会を組織している。入学試験委員会では試験の方針・実施方法・運営・選抜などを審議している。また、入学試験委員会の決定事項を踏まえて入試広報部が入学試験実施業務を厳格な体制のもと適正に行っている。

ケ 資格取得を目的とする場合

1. 取得可能な資格

高等学校教諭一種免許（工業）：国家資格

2. 資格取得の条件

高等学校教諭一種免許（工業）

卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目を履修することにより、高等学校教諭一種免許（工業）を取得することができる。

コ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

機械電子創成工学科では、1年次及び2年次の学部教育を新習志野校舎にて行うこととし、3年次及び4年次の学部教育を津田沼校舎にて行うこととしており、津田沼校舎と新習志野校舎との距離は約4km、移動に要する時間はスクールバスを利用した場合、約15分程度であることから、教員及び学生の両校舎の利用上における支障が生じることはないものと考えている。

1. 専任教員の配置

機械電子創成工学科における新習志野校舎において1年次及び2年次の授業科目を担当する専任教員（共通教育科目を担当する機械電子創成工学科においては「兼担」となる専任教員を含む）の配置人数は58人、津田沼校舎において3年次及び4年次の授業科目を担当する専任教員（共通教育科目を担当する機械電子創成工学科においては「兼担」となる専任教員を含む）の配置人数は35人としていることから、教育体制上における支障はないものと考えている。

2. 教員の移動への配慮

2つの校舎の移動における教員への配慮としては、現在、既に本学が所有している6台のスクールバス（大型バス5台、マイクロバス1台）による2校舎間の定期運行を行っており、新習志野校舎と津田沼校舎間のスクールバスの1日の定期運行本数は38往復となっていることから、2つの校舎の教員の移動における支障はないものと考えている。

3. 施設設備等

施設設備等については、1年次及び2年次の授業を行う新習志野校舎は、JR京葉線新習志野駅から徒歩約6分の習志野市芝園に位置し、校地面積約103,000㎡、校舎面積約46,500㎡を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。施設は、

講義室 51 室、演習室 9 室、情報処理室 2 室の他、教員研究室 70 室、講師控室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えており、各種施設に見合う設備を有していることから、教育体制上の支障はないものと考えている。

一方、3 年次及び 4 年次の授業を行う津田沼校舎は、J R 総武線津田沼駅から徒歩約 1 分の習志野市津田沼に位置し、校地面積約 54,000 m²、校舎面積約 96,000 m²を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。施設は、講義室 45 室、演習室 39 室、情報処理室 3 室の他、教員研究室 221 室、講師室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えており、新習志野校舎と同様、各種施設に見合う十分な設備を有していることから、教育体制上の支障はないものと考えている。

4. 時間割の編成

2 つの校地において教育を行うに際しての時間割上の配慮としては、機械電子創成工学科では、1 年次及び 2 年次の授業を新習志野校舎にて行い、3 年次及び 4 年次の授業を津田沼校舎にて行うこととしており、原則として、学生が同日に新習志野校舎と津田沼校舎の両校舎で授業を受けることのないよう時間割を編成していることから、学生の負担はないものと考えている。

サ 管理運営

1. 教授会

教授会は学部ごとに設置され、原則として学部の専任教授で構成されるが、本学では専任の准教授、助教及び助手も含めた拡大教授会として「教授総会」を毎月 1 回定期的に開催するほか、必要に応じて教授のみで構成する教授会も開催している。

学長が教授会の意見を聴く事項は別途内規において定められており、学生の入学及び卒業、学位の授与、退学及び除籍等に関する事項のほか、教育課程の編成、教員の教育・研究業績に関する事項等、教育・研究に関する重要な事項について学長に意見を述べることとしている。また、学則の改正等学部に共通する事項については、全学部の教員により構成される合同教授会を開催し、学長に意見を述べるものとしている。

2. 学部長会

本学の教育・研究に関する基本方針や、教育・研究の運営に必要な重要事項を協議するため、学長が学部長会を招集し、意見を聴くこととしている。

学部長会の構成員は、学長、副学長、学部長、学長補佐、教育センター長及び副教育センター長、大学事務局長及び担当職員であり、毎月1回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催している。

学部長会において意見を聴き学長が決定した事項や、以降の教授会で意見を聴く事項は、学部連絡会議を通じて各学科及び教育センターに報告される。学部連絡会議の構成員は、学部長会構成員のほか附属研究所長、図書館長補佐、教務委員長、学生委員長、入学試験委員長、就職委員長、図書館・情報メディア委員長、FD委員長及び教育センター各教室代表者であり、各委員会からの連絡、各学科からの要望等も学部連絡会議で伝達される。

3. 教授会以外の委員会

学長及び学部長がつかさどる教育・研究に関する事項の検討や起案等のために、教務委員会、学生委員会、就職委員会、入学試験委員会、FD委員会等の各種委員会を設置している。各委員会の委員長は学長が指名し、委員は本学の専任教員及び所管事務局の部課長で構成され、各委員会の規程に基づき定期的に、必要に応じて臨時にも開催している。

シ 自己点検・評価

1. 実施方法

本学では、大学教育における教育の理念や目標に照らして、教育活動及び研究活動の状況を点検、評価することにより、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を3年に一度実施している。

自己点検・評価の実施方法については、自己点検・評価を自らの教育研究活動の改善のサイクルの中に明確に位置付け、自己点検・評価を行う責任体制を明確にしたうえで、(公財)日本高等教育評価機構の定める評価項目ごとに、全学的な自己点検評価委員会による自己点検・評価を行うこととしている。

2. 実施体制

本学では、自己点検・評価は、全教職員により全学的に取り組むことを基本としており、全体的な自己点検・評価については、学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程に基づき、理事長が最高責任者の自己点検評価改善本部を置き、改善本部のもとに自己点検評価委員会を設置し、構成員は、理事長・学長が指名する教職員で構成している。自己点検評価委員会は、各委員会・事務局による自己点検評価を統括し、各委員会・事務局の報告を評価し、自己点検評価報告書を作成する。

作成した評価報告書は改善本部に報告し、改善本部は評価報告書に基づいて、必要に応じて各機関に対し、改善を指示している。

3. 公表及び評価項目

自己点検・評価の結果については、積極的に社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育内容や方法の継続的な見直しや改善を図ることにより、自らの教育研究水準の一層の向上に努めていくとともに、これらの効果を一層確かなものとするために、自己点検・評価の結果をホームページを利用し公表している。また、大学機関別認証評価を6年に一度受審し、自己点検評価報告書とともにホームページで公表している。

評価項目は以下のとおりである。

- ① 大学の使命・目的
- ② 教育目的の適切性・有効性
- ③ 学生の受入れ
- ④ 教育課程・教授方法
- ⑤ 学修・授業支援
- ⑥ キャリア支援
- ⑦ 教育目的の達成状況の評価
- ⑧ 学生生活支援
- ⑨ 教育環境整備
- ⑩ 経営と管理
- ⑪ 自己点検・評価

ス 情報の公表

1. 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等を適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えるとともに、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしている。

2. 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/purpose.html>)

- ② 教育研究上の基本組織に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/institute/system.html>)

- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/staff.html>)

- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/faculty/policy/adm.html>)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/entrant.html>)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/student.html>)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/graduate.html>)

- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。

(<http://risyu.is.it-chiba.ac.jp/syllabus/syplss0100>)

- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関するこ

と。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/valuation.html>)

- ⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/campus.html>)

- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/support/expense/expense.html>)

- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

(http://www.it-chiba.ac.jp/entrance/edu_program/index.html)

(http://www.it-chiba.ac.jp/support/job_information.html)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/support/campuslife.html>)

3. 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行うこととする。

- ① 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- ② 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- ③ 教員組織に関する情報については、組織内の年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを積極的に明らかにする。
- ④ 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。
- ⑤ 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
- ⑥ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表

する。

- ⑦ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
- ⑧ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。
- ⑨ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。
- ⑩ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報について明らかにする。
- ⑪ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。

セ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

1. 実施体制

授業の質的向上ならびに内容・方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「FD委員会規程」を制定するとともに、当該委員会が、その計画の立案と実施の推進を図ることとする。

2. 実施内容

授業の内容及び方法の改善を図るための実施内容については、以下に掲げる項目による取り組みを行う。

- ① シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する規則を整備するとともに、個別教員に対する記載指導を実施する。
- ② 入学時に学生の基礎学力を測るための学力調査を実施し、適切な習熟度クラス運営の基礎データとして活用する。学生に対して授業アンケート調査を実施し、学生の授業に対する要望や意見を取りまとめ、授業改善に活用する。

- ③ 教員に対して授業点検書への回答を義務づけ、自らの授業運営に対する振り返りを促す。
- ④ 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。
- ⑤ 授業技術や教材開発に関する定期的な研究成果の発表会を開催する。
- ⑥ FD に関する最新の動向を周知するため、学外の有識者を招聘した研修会を定期的に開催する。

ソ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内における取り組み

「教養科目」においては、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能及び態度・志向性の習得を図るとともに、国際理解及び人間・社会・自然の理解と課題解決能力の習得を図ることから、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から構成する「教養基礎科目」と「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から構成する「教養共通科目」及び「教養特別科目」により編成することとしており、「教養科目」全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得することとしている。

特に、「教養基礎科目」の「人間力養成」に配置している「キャリアデザイン1」1単位、「キャリアデザイン2」1単位、「キャリアデザイン3」1単位の3科目を教育課程内における直接的な社会的・職業的自立に関する科目として位置付け、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしており、この教育課程内の取り組みにおける組織体制としては、社会的・職業的自立に関する指導等について検討を行う「学部教育に関する横断的ワーキンググループ」を設けることとしている。

2. 教育課程外の取り組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取り組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナー、インターンシップなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、公務員対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習

得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、各種仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、企業等採用説明会、国家試験対策講座や国家試験対策指導など就職志望者に対する取組みを行うこととしており、教育課程外の取組みにおける組織体制としては、就職委員会及び就職・進路支援部就職課が担当することとしている。（資料6）

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料 1. 組織の移行表

資料 2. 過去 5 年間の求職者（求職者数、求人件数、就職者数）実績

資料 3. 新学部・新学科に関するアンケート〈企業対象〉

資料 4. 履修モデル

資料 5. 新習志野校舎 再開発計画工程表

資料 6. 社会的・職業的自立に関する指導及び体制の概要

学校法人千葉工業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千葉工業大学				→	千葉工業大学				
工学部 機械サイエンス学科	315	-	1,260		工学部 <u>機械工学科</u>	<u>140</u>	-	<u>560</u>	学科の設置(届出)
工学部 電気電子情報工学科	300	-	1,200		工学部 <u>機械電子創成工学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学科の設置(届出)
工学部 生命環境科学科	230	-	920		工学部 <u>先端材料工学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学科の設置(届出)
工学部 建築都市環境学科	300	-	1,200		工学部 <u>電気電子工学科</u>	<u>140</u>	-	<u>560</u>	学科の設置(届出)
工学部 デザイン科学科	180	-	720		工学部 <u>情報通信システム工学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学科の設置(届出)
工学部 未来ロボティクス学科	110	-	440		工学部 <u>応用化学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学科の設置(届出)
					創造工学部 建築学科	140	-	560	学部の設置(届出)
					創造工学部 都市環境工学科	110	-	440	学部の設置(届出)
					創造工学部 デザイン科学科	120	-	480	学部の設置(届出)
					先進工学部 未来ロボティクス学科	120	-	480	学部の設置(届出)
					先進工学部 生命科学科	110	-	440	学部の設置(届出)
					先進工学部 知能メディア工学科	110	-	440	学部の設置(届出)
情報科学部 情報工学科	140	-	560		情報科学部 情報工学科	140	-	560	
情報科学部 情報ネットワーク学科	140	-	560		情報科学部 情報ネットワーク学科	140	-	560	
社会システム科学部 経営情報科学科	110	-	440		社会システム科学部 経営情報科学科	110	-	440	
社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科	110	-	440		社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科	110	-	440	
社会システム科学部 金融・経営リスク科学科	60	-	240		社会システム科学部 金融・経営リスク科学科	60	-	240	
計	1,995	-	7,980		計	1,990	-	7,960	
千葉工業大学大学院					千葉工業大学大学院				
工学研究科 機械サイエンス専攻(M)	80	-	160		工学研究科 機械サイエンス専攻(M)	80	-	160	
工学研究科 電気電子情報工学専攻(M)	70	-	140		工学研究科 電気電子情報工学専攻(M)	70	-	140	
工学研究科 生命環境科学専攻(M)	80	-	160		工学研究科 生命環境科学専攻(M)	80	-	160	
工学研究科 建築都市環境学専攻(M)	80	-	160		工学研究科 建築都市環境学専攻(M)	80	-	160	
工学研究科 デザイン科学専攻(M)	40	-	80		工学研究科 デザイン科学専攻(M)	40	-	80	
工学研究科 未来ロボティクス専攻(M)	30	-	60		工学研究科 未来ロボティクス専攻(M)	30	-	60	
工学研究科 工学専攻(D)	24	-	72		工学研究科 工学専攻(D)	24	-	72	
情報科学研究科 情報科学専攻(M)	70	-	140		情報科学研究科 情報科学専攻(M)	70	-	140	
情報科学研究科 情報科学専攻(D)	4	-	12		情報科学研究科 情報科学専攻(D)	4	-	12	
社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(M)	40	-	80		社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(M)	40	-	80	
社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(D)	2	-	6		社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(D)	2	-	6	
計	520	-	1,070		計	520	-	1,070	

過去5カ年の求職者(求職者数、求人件数、就職者数)実績

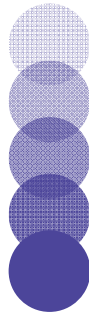
<学部>

学科名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス学科	6,328	262	214	5,730	175	152	6,698	217	195	7,099	249	226	8,092	219	201
電気電子情報工学科	6,437	195	150	5,998	154	139	6,785	194	171	7,254	188	170	8,227	209	196
生命環境科学科	5,727	139	115	5,251	116	101	6,144	155	125	6,471	149	122	7,446	156	138
建築都市環境学科	6,050	217	182	5,518	187	166	6,490	197	182	6,930	213	195	8,041	226	223
デザイン科学科	5,718	112	81	5,256	92	73	6,164	113	85	6,478	105	93	7,476	118	110
未来ロボティクス学科	5,783	43	33	5,311	56	53	6,228	68	67	6,598	67	64	7,594	79	77

<大学院>

専攻名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス専攻	4,212	56	53	3,303	47	43	4,147	35	31	4,745	42	41	5,545	26	23
電気電子情報工学専攻	4,267	38	36	3,381	33	31	4,223	53	52	4,849	44	42	5,662	28	26
生命環境科学専攻	3,859	38	34	3,077	33	33	3,818	37	32	4,383	39	34	5,196	24	22
建築都市環境学専攻	4,043	32	25	3,221	33	26	4,042	28	26	4,627	20	16	5,553	20	18
デザイン科学専攻	3,852	19	16	3,073	22	21	3,830	34	31	4,380	28	26	5,206	20	19
未来ロボティクス専攻				3,126	5	5	3,873	35	35	4,477	24	23	5,301	18	18

千葉工業大学 御中



千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート＜企業対象＞

調査結果報告書

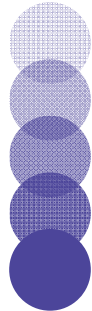
2015年1月

KOKOKUSHA
■ 廣 告 社 株 式 会 社

資料3

大学専門のマーケティング&リサーチ、コンサルティング会社
廣告タグループ

株式会 社 大 学 ソ リ ュ ー シ ョ ン パ ー ト ナ ー ス



目次

▶ 調査概要	03
▶ 回答企業プロフィール	04
【調査結果】	
▶ サマリ	10
▶ 設置計画案① : 工学部	16
▶ 設置計画案② : 創造工学部	30
▶ 設置計画案③ : 先進工学部	40
▶ 参考 : 千葉工業大学全体に対するご意見・ご要望	51
▶ 資料 : 調査票	53
▶ 資料 : 自由回答集(別紙)	57

約旦王國▲

- －千葉工業大学で設置を計画している新学部を卒業した学生について、企業に採用意向等を調査し、受容性を確認する。

象
対
査
調
▲

- 全国の干葉工業大学への求人実績のある企業・団体 —

▲ 方 套 蒸

- － 郵送配布・回収によるアンケート調査

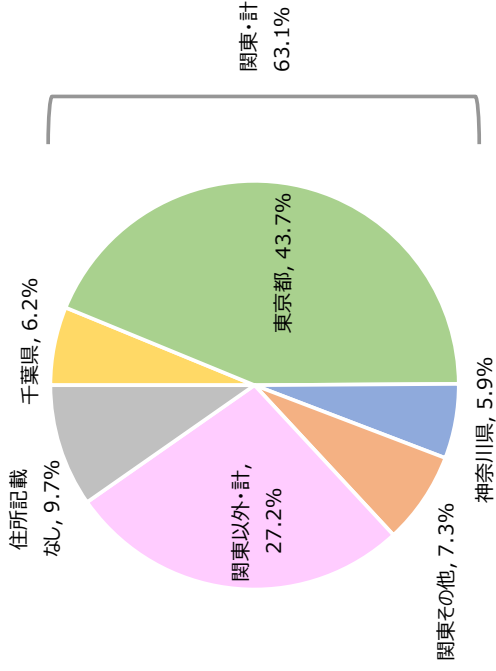
▲ 回收数

- － 808サンプル(有効回答数)

▲ 問題集

- 2014年10月22日(水)配布開始 ~ 2014年11月26日(水)回収分まで

■企業所在地（全体／単一回答）



調査数	関東・計		関東以外・計			関東以外・計			住所記載なし		
	千葉県	東京都	神奈川県	関東その他	甲信越	北陸・東海	関東以外その他				
全体	808	63.1% (510)	6.2% (50)	43.7% (353)	5.9% (48)	7.3% (59)	27.2% (220)	4.5% (36)	14.1% (114)	8.7% (70)	9.7% (78)

※下段()内の数字はn数

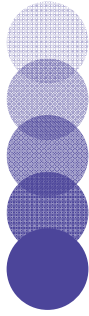
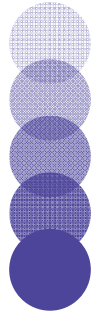
※地域名に含まれる都道府県

関東その他

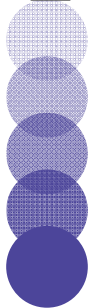
山梨県、長野県、新潟県

富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県

: 北海道・東北、近畿、中国・四国、九州・沖縄



回答企業プロフィール



回答企業プロフィール：主業種／正社員数

<主業種>

▶全体では、「製造業」が33%で最も多く、「建設業」「情報処理関連業」も20%台(主要3業種で全体の8割強を占める)。

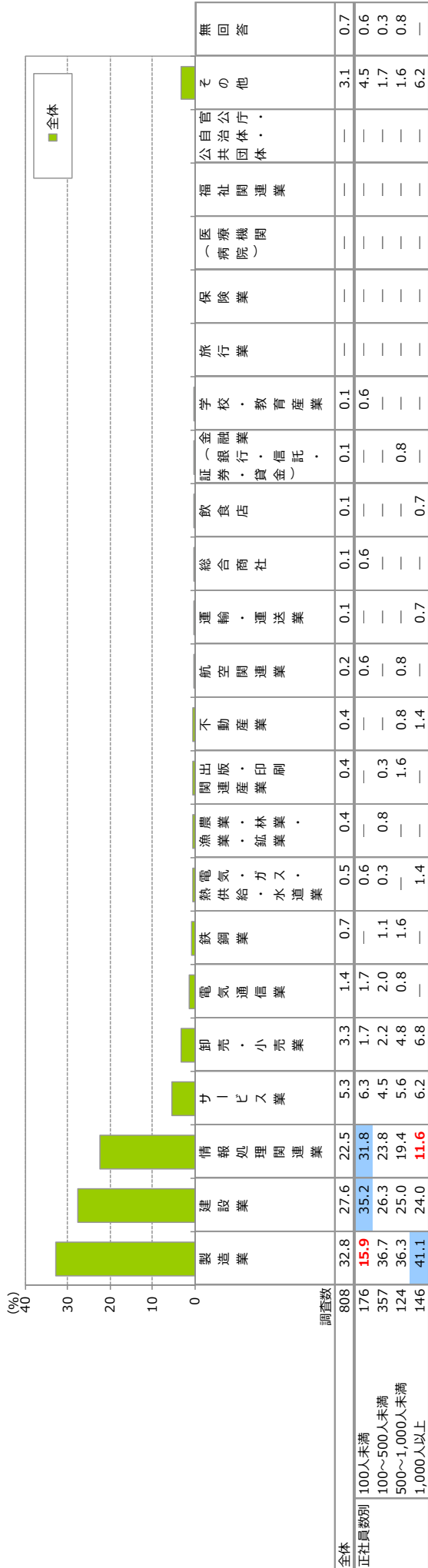
－ 主要3業種以外(以後、主業種別では「その他の業種」と表記)では、「サービス業」「卸売・小売業」が多い。

<正社員数>

▶全体では、「100～500人未満」が44%で最も多く、次に多い「100人未満」(22%)を含めると、「500人未満」の企業が約2/3。

■主業種 (全体／単一回答)

F1. 貴社の主業種をお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ■ = 5pt以上低い

※全体値の降順にソート

11001

■正社員数 (全体／単一回答)

F2. 貴社の正社員数をお選びください。

		●凡例					
		100人未満	100～500人未満	500～1,000人未満	1,000～3,000人未満	3,000人以上	無回答
全体		21.8%	21.8%	44.2	15.3	12.0	6.1
主業種別		(n= 808)	(n= 223)	(n= 265)	(n= 182)	(n= 132)	(n= 11002)
建設業		27.8	42.2	13.9	12.1	3.6	0.4
製造業		10.6	49.4	17.0	13.6	9.1	0.4
情報処理関連業		30.8	46.7	13.2	8.8	0.5	—
その他の業種		22.0	34.8	17.4	13.6	12.1	—

▲全体では、「大学卒」が97%で最も多く、次いで「大学院卒」(70%)。

- F3. 貴社で過去3年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。



主業種別	調査数	3年以内に新卒採用あり					専門学校の卒	その他の卒	新卒採用は	無回答
		高校卒	短大卒	大学卒	大学院卒	大学卒				
全体	808	43.1	22.0	96.7	70.2	47.2	9.9	0.9	0.5	
建設業	223	52.9	18.8	96.4	53.4	52.0	12.1	0.9	0.4	
製造業	265	67.9	23.4	98.9	79.6	32.1	12.1	—	—	
情報処理関連業	182	4.4	17.0	97.3	78.0	61.0	7.7	—	—	
その他の業種	132	31.8	32.6	94.7	70.5	50.0	5.3	3.8	—	
正社員数別	176	23.9	8.5	90.9	37.5	42.0	2.8	4.0	—	
100人未満	357	42.6	22.7	98.6	68.6	46.8	7.0	—	—	
100～500人未満	124	52.4	25.0	100.0	91.3	50.0	16.9	—	—	
500～1,000人未満	124	52.4	25.0	100.0	91.3	50.0	16.9	—	—	
1,000人以上	146	60.3	34.2	98.6	97.6	52.7	19.9	—	—	

- | | | 調査数 | | 大学卒 | 大学院卒 | 大学院卒 | 門学の他 | 探した用は | 合 | |
|--------------|-----|------|------|-------|------|------|------|-------|-----|-------|
| 全体 | | 808 | 43.1 | 22.0 | 96.7 | 70.2 | 47.2 | 9.9 | 0.9 | 0.5 |
| 主業種別 | | | | | | | | | | 0.4 |
| 建設業 | 223 | 52.9 | 18.8 | 96.4 | 53.4 | 70.2 | 52.0 | 12.1 | 0.9 | — |
| 製造業 | 265 | 67.9 | 23.4 | 98.9 | 79.6 | 79.6 | 32.1 | 12.1 | — | 100.0 |
| 情報処理関連産業 | 182 | 4.4 | 17.0 | 97.3 | 78.0 | 78.0 | 61.0 | 7.7 | — | 100.0 |
| その他の業種 | 132 | 31.8 | 32.6 | 94.7 | 70.5 | 70.5 | 50.0 | 5.3 | 3.8 | 96.2 |
| 正社員数別 | | | | | | | | | | — |
| 100人未満 | 176 | 23.9 | 8.5 | 90.9 | 37.5 | 42.0 | 2.8 | 4.0 | — | 96.0 |
| 100～500人未満 | 357 | 42.6 | 22.7 | 98.6 | 68.6 | 68.6 | 46.8 | 7.0 | — | 100.0 |
| 500～1,000人未満 | 124 | 52.4 | 25.0 | 100.0 | 91.3 | 91.3 | 50.0 | 16.9 | — | 100.0 |
| 1,000人以上 | 146 | 60.3 | 34.2 | 98.6 | 97.3 | 97.3 | 52.7 | 19.9 | — | 100.0 |

[illegible]

- | 業種・業態 | 従業員数 | 売上高 | 利益 | 売上高1人あたり | 利益1人あたり |
|--------------|------|------|------|----------|---------|
| 100～500人未満 | 357 | 42.6 | 22.7 | 98.6 | 64.6 |
| 500～1,000人未満 | 124 | 52.4 | 25.0 | 100.0 | 81.1 |
| 1,000人以上 | 146 | 60.3 | 34.2 | 98.6 | 97.3 |
| | | | | 52.7 | 19.9 |
| | | | | 7.0 | 7.0 |
| | | | | 100.0 | 100.0 |
| | | | | 100.0 | 100.0 |
| | | | | 100.0 | 100.0 |

F4. 貴社の2014年4月入社の新卒採用状況についてお聞きます。大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。

2014年 4月 新卒採用 あり計	96.4
	95.0
	96.2
	98.9
	95.3
	89.9
	97.8
	99.2
	97.9

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

1101

＜新卒採用数の増減(2015年4月入社)＞

▲全体では、38%が「2014年4月よりも増えると思う」、49%が「同程度」、1%が「減る」と回答。

- － 主要3業種と比較すると、情報処理関連産業の増加志向がやや強く(42%)、製造業の増加志向がやや弱い(32%)。

履歴となる最終採用対象の新卒後のV

▲全体では、「大学卒」が99%で最も多く、次いで「大学院卒」(78%)。

- 主要3業種と比較すると、製造業と情報処理関連業では、「大学院卒」を新卒採用対象と考えている割合が84～86%と高い。

■新卒採用数の増減（2015年4月入社）（全体／単一回答）

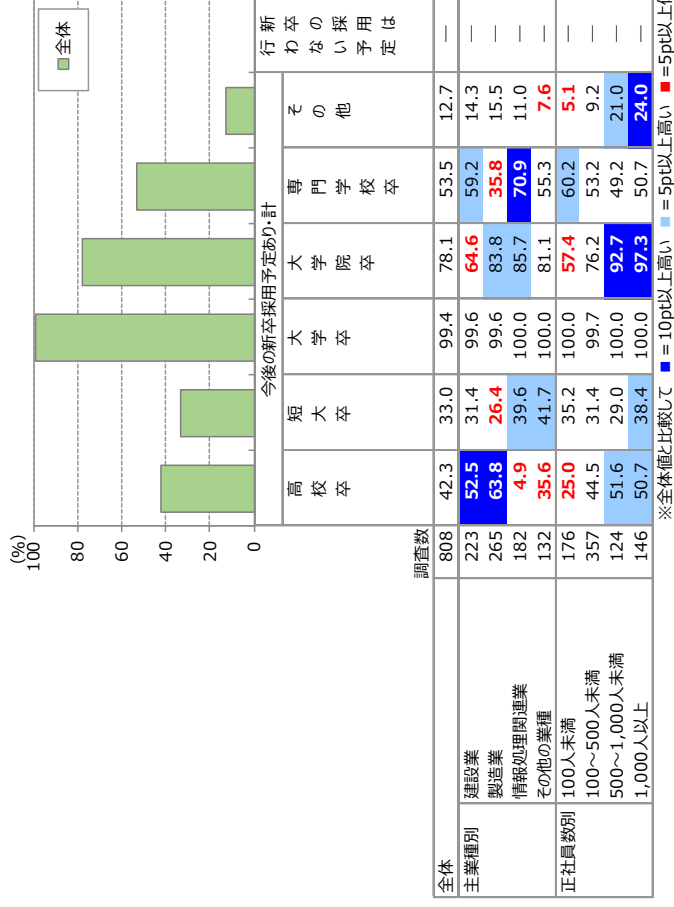
F5. 2015年4月入社の新卒採用数について、現時点でどのようにお考えですか。貴社の方針に近いものをお選び下さい。

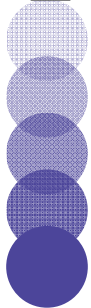
	2015年4月新卒採用予定あり・計			新卒の採用は行わない予定	未定 (わからない)	無回答	2015年 4月 新卒採用 予定あり・ 計
	2014年 よりも 増えると思う	2014年と 同程度だと 思う	2014年 よりも 減ると思う				
● 凡例							
全体	(n = 808)	37.5%		48.8		105.0	96.8
主業種別							
建設業	(n = 223)	35.9		50.7		85.0	95.1
製造業	(n = 265)	32.1		54.7		113.0	98.1
情報処理関連業	(n = 182)	42.3		48.4		88.0	99.5
その他の業種	(n = 132)	44.7		35.6		152.4	95.5
正社員数別							
100人未満	(n = 176)	36.9		45.5		114.0	93.8
100～500人未満	(n = 357)	35.9		50.4		120.0	98.3
500～1,000人未満	(n = 124)	38.7		51.6		9.7	100.0
1,000人以上	(n = 146)	42.5		47.3		68.3	96.6

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い □ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

■ 今後の新卒者採用対象となる最終学歴（全体／複数回答）

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。



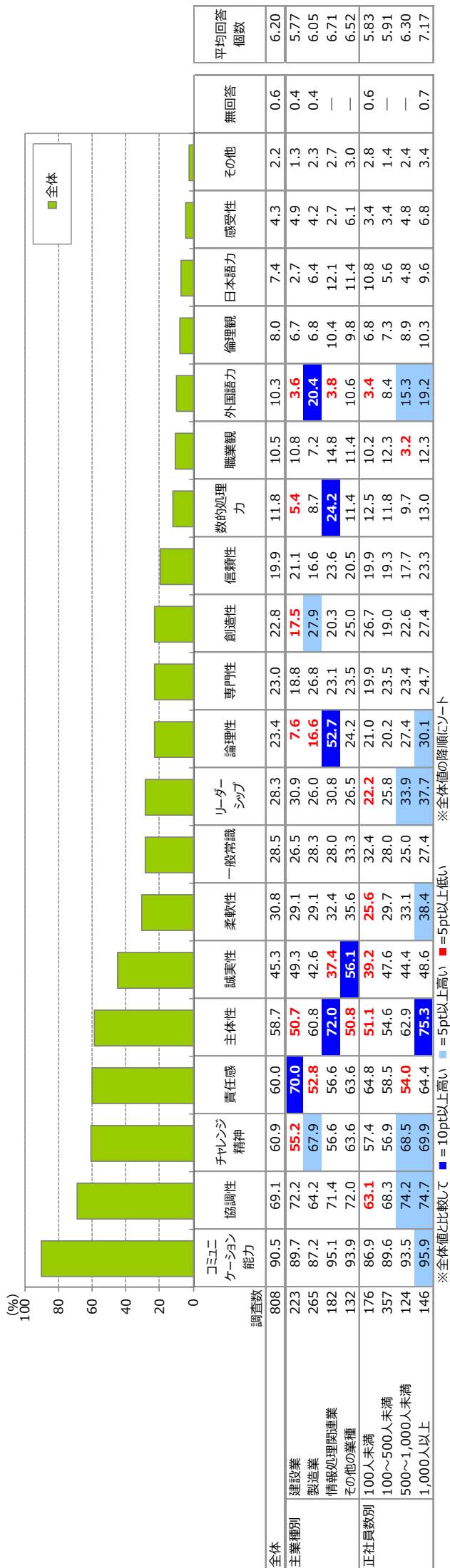


回答企業プロフィール：大学卒採用で期待する能力・素養

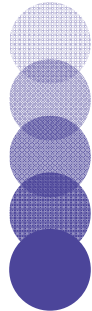
- ▶ 全体では、「コミュニケーション能力」が**91%**と最も高く、「協調性」「チャレンジ精神」「責任感」「主体性」が**50%以上**。
- 主要3業種で見ると、各業種とも「コミュニケーション能力」を最も期待している（87～95%）。建設業では、「協調性」「責任感」が70%台と高く、特に「責任感」は全体より10ポイント高い。製造業では、「外国語力」（20%）が全体よりも10ポイント高く、「チャレンジ精神」「創造性」も5～7ポイント高い。情報処理関連業では、「協調性」「主体性」が70%台と高く、全体と比べると、「論理性」が29ポイント、「主体性」が13ポイント、「数的処理力」が12ポイント高い。
 - 正社員数で見ると、全般的に人数が多いほど、期待する能力・素養の数が増えている（平均回答個数は、「100人未満」が5.8個、「1,000人以上」が7.2個）。
 - ・特に、「主体性」は、正社員数の規模によるスコア差が大きく、「1,000人以上」の企業が75%と、全体より17ポイントも高い。

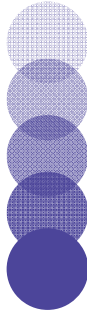
■ 大学卒採用で期待する能力・素養（全体／複数回答）

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。あてはまる能力を以下からすべてお選びください。

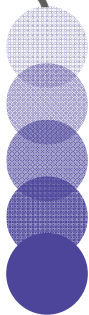


※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※ 全体値の降順にソート





【調査結果】 サマリ



1. 各学部の“設置の理念”の社会にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **81%**／「創造工学部」 **61%**／「先進工学部」 **64%**

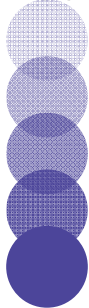
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(97%)、「創造工学部」「先進工学部」は9割前後。

■各学部の“設置の理念”の必要性（社会にとって）（全体／各単一回答）

Q1/Q5/Q9. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“設置の理念”について、社会にとっての程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計			どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計 (社数)		コメント
	必要になる	ある程度 必要になる						必要になる (社数)	必要になる (社数)	
●凡例										
工学部 (n= 808)			81.2%	16.2	0.5	0.7		656社	787社	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気・電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。
創造工学部 (n= 808)		61.0		28.8	7.7	0.5		493社	726社	従来の工学部の建築都市環境工学とデザイン科学の教育・研究領域を再構築し、新たな社会ニーズに対応させ、建築学・建設工学・都市工学・デザイン科学等の基礎的な知識・技術を確認に学べる学部を創設します。
先進工学部 (n= 808)		64.4		27.4	6.1	1.2		520社	741社	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。

12011



2. 各学部の“養成する人材像”の企業にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **72%**／「創造工学部」 **40%**／「先進工学部」 **38%**

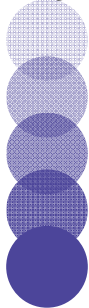
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(92%)、次いで「先進工学部」(75%)。

■各学部の“養成する人材像”の必要性（貴社にとって）（全体／各単一回答）

Q2/Q6/Q10. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計		どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計	
	必要になる	ある程度 必要になる					必要になる (社数)	必要になる・計 (社数)
●凡例								
工学部 (n= 808)			71.5%		20.0	1.9 4.3 1.4	578社	740社
創造工学部 (n= 808)		39.9		26.7	20.9	9.4 2.7	322社	538社
先進工学部 (n= 808)		38.2		36.4	16.8	5.1 2.6	309社	603社

コメント文
現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。
創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関わる調査・企画・計画・設計、維持管理・マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。
工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。



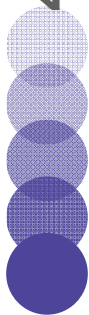
3. 学科別の新卒採用意向(「採用意向・計」の割合)

- ▶ **全学科とも三分の一以上の企業から採用意向あり**(「とても採用したい」「または「採用を検討したい」と回答)。
- ▶ 四分の三以上の企業から採用意向あったのは2学科。
「工学部・電気電子工学科」 77%／「工学部・機械工学科」 76%
- ▶ 工学部では、「機械電子創成工学科」「情報通信システム工学科」への採用意向も6割台と高い。
 - その他、「工学部・先端材料工学科」「創造工学部・建築学科」「創造工学部・都市環境工学科」「先進工学部・未来ロボティクス学科」への採用意向が5割台。

■ 学科別の新卒採用意向 (全体／各単一回答)

Q3/Q7/Q11. 「工学部」「創造工学部」「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社の考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

●凡例											
(n=808)											
工学部	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・計	採用したい(社数)	採用意向・計	採用したい(社数)
	採用したい	採用を検討したい									
工学部	49.0%			26.9	15.8	3.3	1.7	75.9	396社	613社	
	37.6			30.9	21.2	3.4	2.2	68.6	304社	554社	
	23.3			32.5	31.7	5.3	6.3	55.8	188社	451社	
	48.0			28.8	15.1	3.0	2.0	76.9	388社	621社	
	38.4			27.1	21.8	4.7	4.1	65.5	310社	529社	
創造工学部	16.8			30.7	35.0	5.3	5.2	47.5	136社	384社	
	30.9			21.0	33.9	2.6	5.3	52.0	250社	420社	
	30.9			21.0	33.9	2.6	5.7	52.0	250社	420社	
	20.8			28.3	35.1	3.0	5.9	49.1	168社	397社	
	28.8			29.3	29.8	3.1	5.4	58.2	233社	470社	
先進工学部	11.5			25.2	44.2	3.3	7.2	36.8	93社	297社	
	18.9			28.5	36.6	3.1	6.8	47.4	153社	383社	



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(1/2)

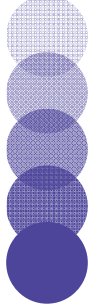
【工学部】

▶「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「応用化学学科」;
「(各学科の)専門技術者として採用したい」「業務に必要な知識だから」

▶「情報通信システム工学科」;
「情報処理知識や技術は有用で、SEとしての知識・経験に期待」「システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい」

学部	学科	新卒採用意向理由
工学部	機械工学科	■ 機械系として採用したい／技術職採用／製造工場を保有し必要な人材。 “ゼネコン業務の中で、建設設備業務従事者を確保する為”(建設業／500～1,000人未満) “機械系の50代が定年をこれから迎える為、人材を補充していきたい”(製造業／500～1,000人未満)
	機械電子創成工学科	■ 人材不足を補充するため。 “弊社にとって人材不足であり、年齢構成から若手をどんどん採用したい”(建設業／100～500人未満)
	先端材料工学科	■ 材料に知識がある人材を採用したい。 “素材メーカーの為、材料(特に鉄)の知識を有している人は採用したい。他は人物を見て評価となる”(鉄鋼業／500～1,000人未満)
	電気電子工学科	■ 電気系技術者を採用したい／電気設備事業者として必要な人材。 “マンション建設等において電気設備設計職が不足しています。電気の知識を元に設計職を志す学生を採用したいと考えます”(建設業／100～500人未満) “当社で扱う「看板」の業界においては、環境問題・省エネルギー化が進んでおり、その観点から特に電気電子工学科の学生さんへの採用意向を強く持っています”(製造業／100人未満)
	情報通信システム工学科	■ 情報処理知識や技術は有用／SEとしての基礎知識やプログラミング経験に期待。 “ITの知識がある程度あれば、入社後の研修にも入りやすく即戦力になるまでの期間も短いと考えられる為”(情報処理関連業／100人未満)
	応用化学学科	■ システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい。 “システムソリューションを事業としており、基礎技術としてシステム工学の知識が必要となる。しかし、最終的にはシステムの取りまとめ等を行なう為、システム工学に限らず社会をIGTで支える人材を求めている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
工学部	化学系の専門知識が必須の為。	■ 化学系の専門知識が必須の為。 “・技術職＝合成樹脂塗床材分野、無機系セメント系塗床材分野→研究開発、改良に理系の考え方が必要。・営業職＝文系社員より理系営業は知識や考え方として強い”(卸売・小売業／100～500人未満)

※工学部6学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(2/2)

【創造工学部】

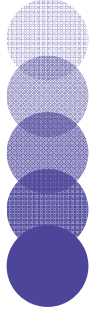
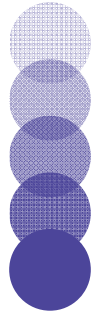
- ▶「建築学科」「都市環境工学科」：「学科の内容が事業に近いから」「(各学科の)学生は事業に必要／専門技術者として採用したい」
- ▶「デザイン工学科」：「パッケージや機械設計において、デザイナーは重要」「デザイナーを採用したい」

【先進工学部】

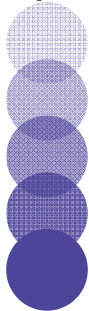
- ▶「未来ロボティクス学科」：「ロボットは今後必要とされる、研究開発領域」
- ▶「生命科学科」：「学科の内容が事業に近いから」
- ▶「知能メディア工学科」：「学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域」

学部	学科	新卒採用意向理由
創造工学部	建築学科	■ 建築系の学生は貴重・事業に必要／現場監理できる人材・施工管理者を採用したい。 － “現場監理のできる人材を採用したいと考えています。また設計の分野で空間デザイン、プレゼンテーション能力等のある人材を求めています” (建設業／100人未満)
	都市環境工学科	■ 学科の内容が事業に近いから／インフラの全てに関係する。 － “都市環境工学科は当社の環境(エネルギー)見える化ソリューションと関連性がある為”(情報処理関連業／100～500人未満)
	デザイン科学科	■ パッケージや機械設計において、デザイナー力は重要。 － “人間工学的な点から、機械を設計する事は重要な分野であり、その為のデザイナーは無視する事ができないと考えます”(製造業／100～500人未満) ■ グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい。 － “グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい”(出版・印刷関連産業／500～1,000人未満)
	未来ロボティクス学科	■ ロボットは今後必要とされる、研究開発領域。 － “今後、新たなニーズが見込まれる(未来ロボティクス)”(製造業／1,000～3,000人未満)
先進工学部	生命科学科	■ 学科の内容が事業に近いから。 － “生命科学科に期待しております(弊社は造園・緑化等にも力を入れており、社員には農学部、林学等の卒業生も多数在籍しております)” (建設業／100人未満)
	知能メディア工学科	■ 学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域。 － “「ユーザエクスペリエンス」というキーワードに興味を持った。ビッグデータ解析は事業として取り組んでいきたいと考えている分野であり、興味を持った為”(情報処理関連業／100～500人未満)

※各学部3学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



【調査結果】 設置計画案① : 工学部



1.「工学部」の“設置の理念”の社会にとつての必要性

▶「工学部」の設置の理念が社会にとつてどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の81%が「必要になる」と回答。

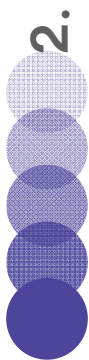
- 企業所在地別にみると、「千葉県」では「必要になる」と回答した割合がやや高い(88%)。

■「工学部」の“設置の理念”の必要性（社会にとつて）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q1.「工学部」の“設置の理念”について、社会にとつてどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い 12111



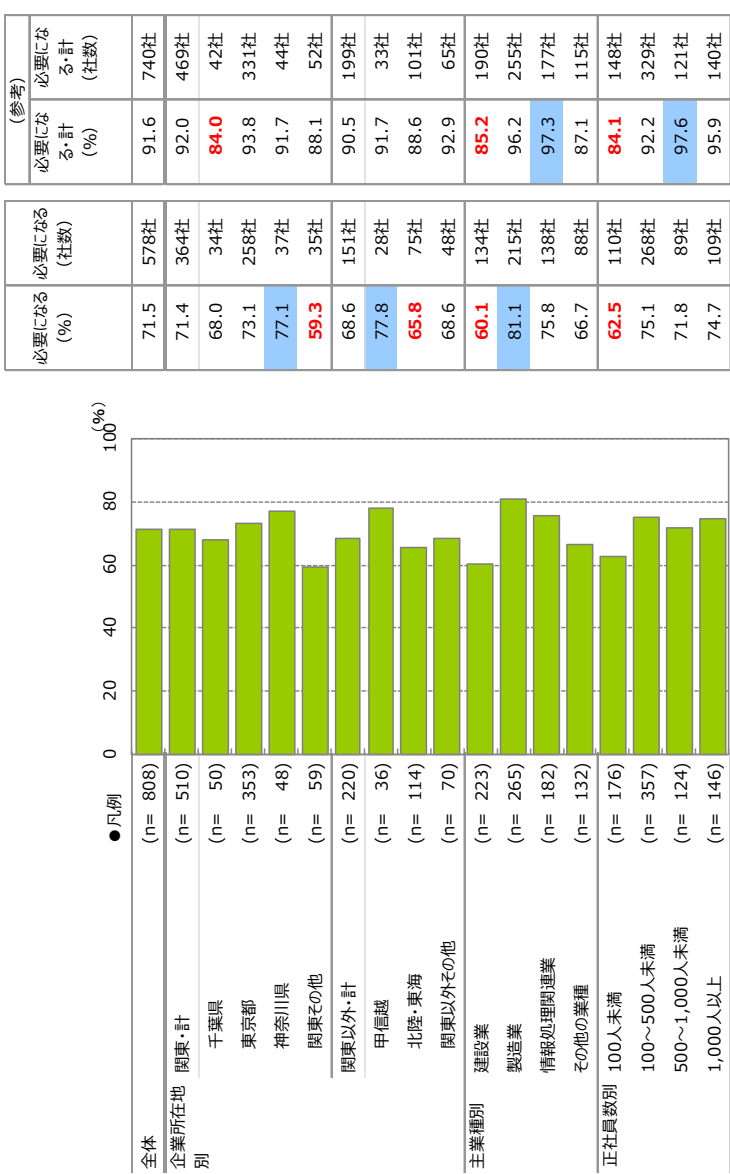
2. 「工学部」の“養成する人材像”の企業にとっての必要性

▶「工学部」の養成する人材像が企業にとってどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の72%が「必要になる」と回答。

- 主要3業種で見ると、「製造業」では「必要になる」と回答した割合が8割超。
- 企業所在地別にみると、「甲信越」「神奈川県」では「必要になる」と回答した割合が8割弱。

■「工学部」の“養成する人材像”の必要性（貴社にとって）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q2. 「工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。（%）



3. 工学部 各学科の新卒採用意向

▲主要3業種の学科別採用意向の特徴(全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い業種)。

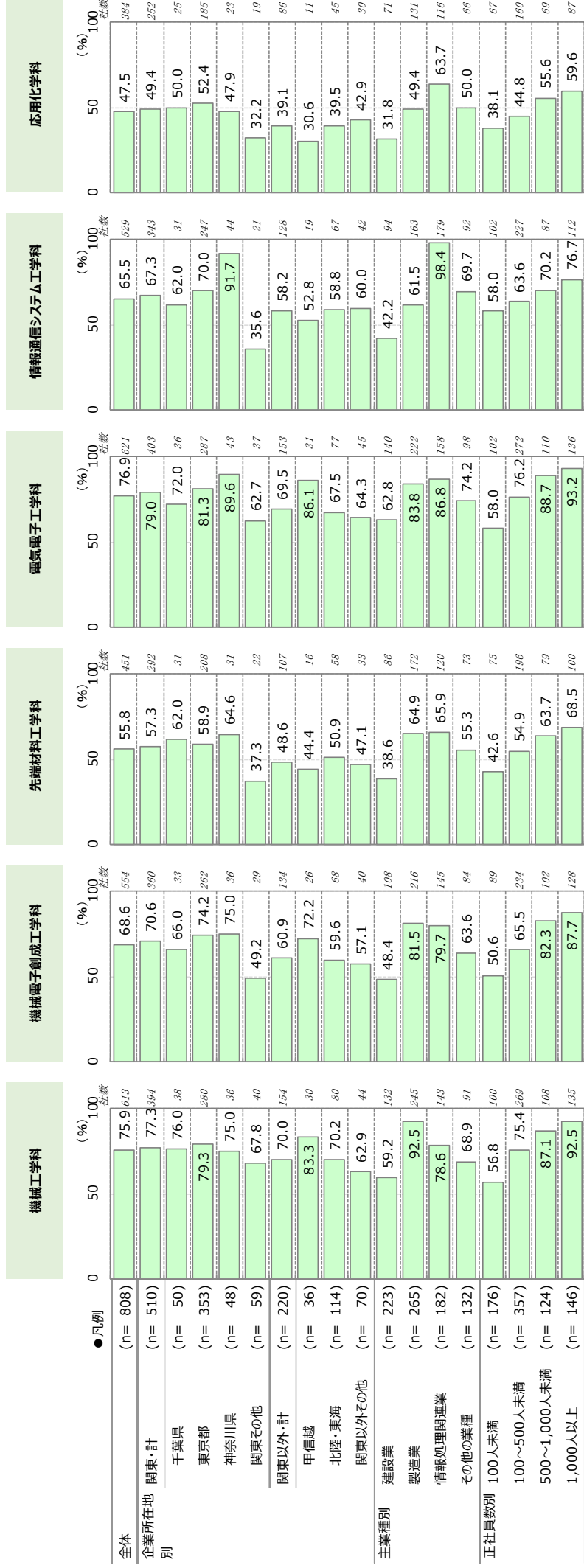
- 「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」への採用意向が、全体より10ポイント以上高い。
- 「情報通信システム工学科」への採用意向が、全体より30ポイント以上高く、「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「応用化学科」でも10ポイント以上高い。

▲正社員数規模による学科別採用意向の特色(徴)全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い企業規模)。

- －全学科とも、人数が多いほど採用意向が高く、「1,000人以上」の企業では、各学科とも全体より10ポイント以上高い。

■「工学部」各学科の新卒採用意向：「採用意向・計一覽（全体／各埠一覽）（格）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。



▲全体の採用意向: 76%(全12学科中2番目の値)

- 主要3業種で見ると、「製造業」での採用意向が9割台と高い。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人」の企業で最も高い。
- 企業所在地別にみると、「甲信越」での採用意向がやや高い。

■「工学部—機械工学科」の新卒採用意向（全体／単一／協同）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

採用意向・計								採用したい (社数)	採用意向・計	
採用意向・計		採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	あまり採用したい	採用したくない	無回答			
● 凡例										
全体	(n = 808)	49.0%			26.9	15.8	1.7	3.3	396社	613社
企業所在地	関東・計	(n = 510)	50.6		26.7	14.5	1.8	3.3	258社	394社
別	千葉県	(n = 50)	48.0		28.0	20.0	—	—	24社	38社
	東京都	(n = 353)	53.5		25.8	13.6	1.4	2.5	189社	280社
	神奈川県	(n = 48)	43.8		31.3	12.5	4.2	2.1	21社	36社
	関東その他	(n = 59)	40.7		27.1	16.9	3.4	6.8	24社	40社
	関東以外・計	(n = 220)	42.3		27.7	20.9	1.8	4.1	93社	154社
	甲信越	(n = 36)	47.2		36.1	11.1	2.8	—	17社	30社
	北陸・東海	(n = 114)	45.6		24.6	19.3	1.8	4.4	52社	80社
	関東以外その他	(n = 70)	34.3		28.6	28.6	1.4	2.9	24社	44社
主業種別	建設業	(n = 223)	38.1		21.1	25.6	3.1	7.6	85社	132社
	製造業	(n = 265)	71.3		21.1	21.1	4.9	1.5	189社	245社
	情報処理関連業	(n = 182)	34.6		44.0	17.0	1.6	0.5	63社	143社
	その他の業種	(n = 132)	44.7		24.2	20.5	3.0	3.0	59社	91社
正社員数別	100人未満	(n = 176)	26.7		30.1	26.7	4.0	7.4	47社	100社
	100～500人未満	(n = 357)	47.9		27.5	17.9	0.8	3.1	171社	269社
	500～1,000人未満	(n = 124)	64.5		22.6	8.9	2.4	1.6	80社	108社
	1,000人以上	(n = 146)	66.4		26.0	4.1	0.7	1.4	97社	135社

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12101_01

4-2. 機械電子創成工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：69%（全12学科中3番目の高さ）

- 主要3業種でみると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が8割前後と高い。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が8割台。
- 企業所在地別にみると、「東京都」「神奈川県」での採用意向がやや高い。

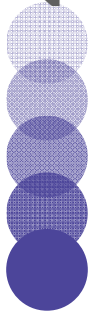
■「工学部－機械電子創成工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計				どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
	採用したい	採用を検討したい	採用意向・計					
● 凡例								
全体	(n = 808)	37.6%		30.9	21.2	22.3	68.7	
企業所在地別	(n = 510)	40.2		30.4	18.8	20.3	55.3	
千葉県	(n = 50)	34.0		32.0	26.0	20.4	52.0	
東京都	(n = 353)	43.1		31.2	17.3	14.2	45.5	
神奈川県	(n = 48)	43.8		31.3	12.5	42.2	63.3	
関東その他	(n = 59)	25.4		23.7	27.1	3.4	85.1	
関東以外・計	(n = 220)	31.4		29.5	28.2	32.4	36.6	
甲信越	(n = 36)	36.1		36.1	22.2	28.2	53.3	
北陸・東海	(n = 114)	32.5		27.2	26.3	4.4	44.5	
関東以外その他	(n = 70)	27.1		30.0	34.3	14.4	32.9	
主業種別	(n = 223)	23.3		25.1	34.5	3.6	81.5	
建設業	(n = 265)	51.3		30.2	11.7	1.9	38.8	
情報処理関連業	(n = 182)	36.8		42.9	15.9	1.6	22.2	
その他の業種	(n = 132)	37.1		26.5	25.8	3.0	25.3	
正社員数別	(n = 176)	21.0		29.5	29.5	5.1	80.6	
100人未満	(n = 357)	38.4		27.2	25.8	1.4	42.2	
100～500人未満	(n = 124)	48.4		33.9	11.3	2.4	40.7	
500～1,000人未満	(n = 146)	47.3		40.4	8.9	1.4	40.7	

※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12101_02



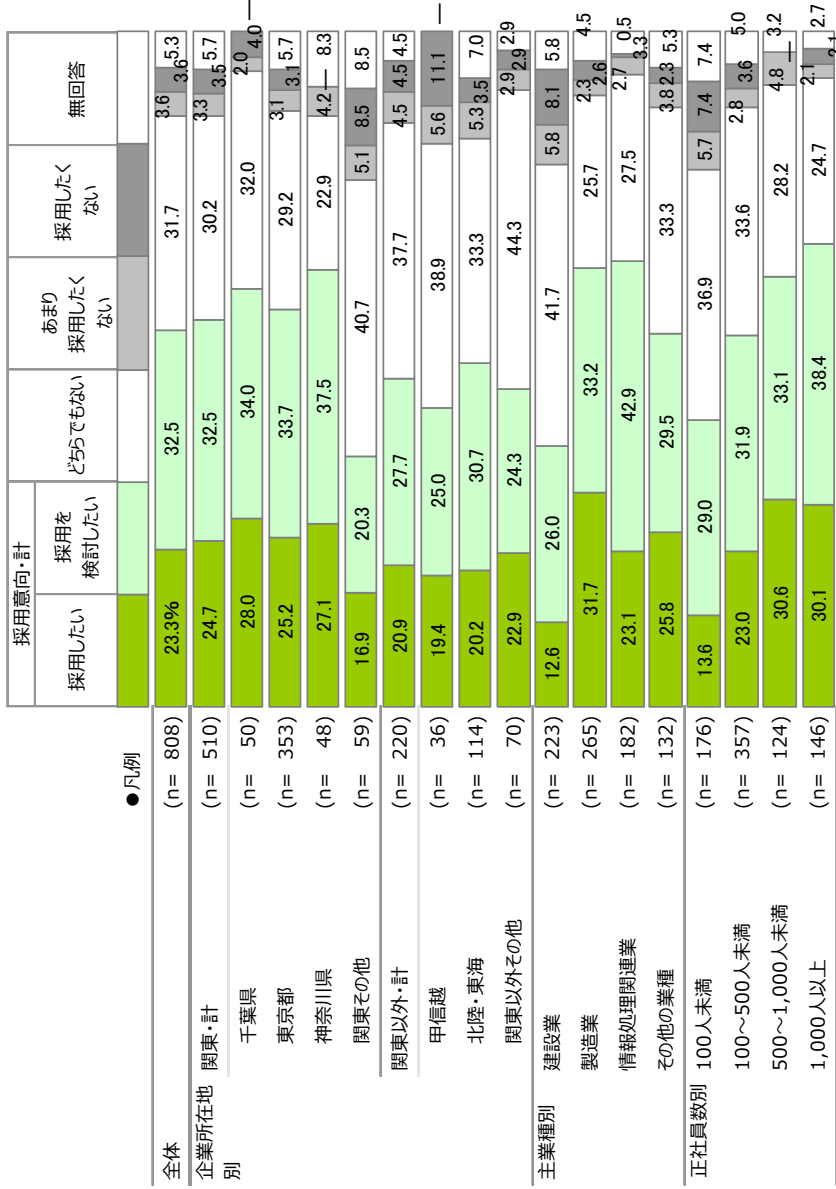
4－3. 先端材料工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向： 56%

- 主要3業種でみると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が65%前後。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」での採用意向は7割弱。
- 企業所在地別にみると、「千葉県」「神奈川県」での採用意向がやや高い。

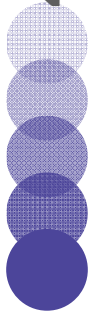
■「工学部－先端材料工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12101_03



4－4. 電気電子工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：77%（全12学科中最も高い）

- － 主要3業種でみると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が全体よりもやや高く、いずれも8割台。
- － 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が約9割。
- － 企業所在地別にみると、「神奈川県」での採用意向が高く（90%）、「甲信越」もやや高い（86%）。

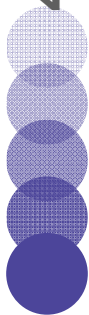
■「工学部－電気電子工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・計	採用意向・計	
	採用したい	採用を検討したい							採用したい(社数)	採用意向・計(社数)
● 凡例										
全体	(n = 808)	48.0%			28.8	15.1	20.3	76.9	388社	621社
企業所在地	(n = 510)	50.8			28.2	13.1	20.2	79.0	259社	403社
別	(n = 50)	36.0			36.0	20.0	4.0	72.0	18社	36社
千葉県	(n = 353)	55.8			25.5	12.2	1.1	81.3	197社	287社
東京都	(n = 48)	52.1			37.5	6.3	1.4	89.6	25社	43社
神奈川県	(n = 59)	32.2			30.5	18.6	6.8	62.7	19社	37社
関東その他	(n = 220)	40.0			29.5	21.8	18.4	69.5	88社	153社
関東以外・計	(n = 36)	47.2			38.9	11.1	2.8	86.1	17社	31社
甲信越	(n = 114)	41.2			26.3	21.9	2.6	67.5	47社	77社
北陸・東海	(n = 70)	34.3			30.0	27.1	1.4	64.3	24社	45社
関東以外その他	(n = 223)	40.8			22.0	23.3	3.1	62.8	91社	140社
主業種別	(n = 265)	58.9			24.9	10.9	1.5	83.8	156社	222社
建設業	(n = 182)	42.9			44.0	11.5	1.6	86.8	78社	158社
製造業	(n = 132)	47.0			27.3	15.2	3.8	74.2	62社	98社
情報処理関連業	(n = 176)	26.1			31.8	25.0	5.1	58.0	46社	102社
その他の業種	(n = 357)	46.2			30.0	17.1	1.4	76.2	165社	272社
正社員数別	(n = 124)	64.5			24.2	8.1	1.6	88.7	80社	110社
100人未満	(n = 146)	65.8			27.4	4.8	0.7	93.2	96社	136社
100～500人未満										
500～1,000人未満										
1,000人以上										

※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以下低い

12101_04



4－5. 情報通信システム工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：66%

- 主要3業種でみると、「情報処理関連業」では、ほぼ全企業（98%）が採用意向を示した。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」では四分の三の企業が採用意向を示した。
- 企業所在地別にみると、「神奈川県」での採用意向が9割台と高い。

■「工学部－情報通信システム工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計				あまり採用したくない	採用したくない	無回答
	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない				
● 凡例							
全体	(n= 808)	38.4%	27.1	21.8	4.1	4.0	4.7
企業所在地 関東・計	(n= 510)	42.4	24.9	20.0	4.1	3.7	4.9
別							
千葉県	(n= 50)	30.0	32.0	26.0	4.0	4.0	4.0
東京都	(n= 353)	47.0	22.9	18.7	3.7	3.4	4.5
神奈川県	(n= 48)	50.0	41.7	8.3			
関東その他	(n= 59)	18.6	16.9	32.2	10.2	10.2	11.9
関東以外・計	(n= 220)	26.8	31.4	27.7	5.0	5.0	4.1
甲信越	(n= 36)	27.8	25.0	33.3	8.3	5.6	
北陸・東海	(n= 114)	26.3	32.5	23.7	6.1	5.3	6.1
関東以外その他	(n= 70)	27.1	32.9	31.4	1.4	4.3	2.9
主業種別							
建設業	(n= 223)	14.8	27.4	38.6	5.8	9.0	4.5
製造業	(n= 265)	24.9	36.6	23.8	5.7	3.0	6.0
情報処理関連業	(n= 182)		85.2	13.2	1.6		
その他の業種	(n= 132)	41.7	28.0	18.2	3.8	3.0	5.3
正社員数別							
100人未満	(n= 176)	36.9	21.0	22.7	5.1	9.1	5.1
100～500人未満	(n= 357)	36.7	26.9	23.8	3.6	3.6	5.3
500～1,000人未満	(n= 124)	41.1	29.0	21.8	4.8	2.4	0.8
1,000人以上	(n= 146)	43.2	33.6	16.4	3.4	2.1	1.4

※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

採用意向・計	採用したい		採用意向・計
	(社数)	(社数)	
65.5	310社	529社	
67.3	216社	343社	
62.0	15社	31社	
70.0	166社	247社	
91.7	24社	44社	
35.6	11社	21社	
58.2	59社	128社	
52.8	10社	19社	
58.8	30社	67社	
60.0	19社	42社	
42.2	33社	94社	
61.5	66社	163社	
98.4	155社	179社	
69.7	55社	92社	
58.0	65社	102社	
63.6	131社	227社	
70.2	51社	87社	
76.7	63社	112社	

12101_05

4-6. 应用化学科 新材料採用意向

▲全体の採用意向: 48%

- 主要3業種で見ると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が高い(64%)。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が5割台。

■「工学部—応用化学科」の新卒採用意向（全体／単一／総合）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計	採用したい		どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
		採用したい	採用を検討したい				
●凡例							
全体	(n = 808)	16.8%	30.7	35.0	6.9	52	5.3
企業所在地	(n = 510)	18.4	31.0	33.9	5.9	51	5.7
別	(n = 50)	10.0	40.0	38.0	4.0	6.0	2.0
千葉県	(n = 353)	21.0	31.4	33.7	4.8	4.2	4.8
東京都	(n = 48)	16.7	31.3	27.1	10.4	6.3	8.3
神奈川県	(n = 59)	11.9	20.3	37.3	10.2	8.5	11.9
関東その他	(n = 220)	12.3	26.8	40.5	9.1	7.3	4.1
関東以外・計	(n = 36)	5.6	25.0	44.4	13.9	11.1	
甲信越	(n = 114)	13.2	26.3	38.6	9.6	6.1	6.1
北陸・東海	(n = 70)	14.3	28.6	41.4	5.7	7.1	2.9
関東以外その他	(n = 223)	9.4	22.4	41.7	9.0	12.1	5.4
主業種別	(n = 265)	18.5	30.9	34.3	7.9	3.4	4.9
建設業	(n = 182)	20.3	43.4	29.1	2.7	3.3	1.1
製造業	(n = 132)	22.0	28.0	34.1	7.6	3.0	5.3
情報処理関連業	(n = 176)	10.2	27.8	36.4	8.5	10.2	6.8
その他の業種	(n = 357)	15.1	29.7	37.8	6.7	5.3	5.3
正社員数別	(n = 124)	25.0	30.6	33.1	7.3	0.8	3.2
100人未満	(n = 146)	22.6	37.0	29.5	5.5	2.7	2.7
100～500人未満							
500～1,000人未満							
1,000人以上							

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

5. 工学部全般に対しての新卒採用意向理由

- ▶ 工学部全学科について「採用したい」企業からは、自社がものづくりの会社であり、学科の内容が採用基準に合致していたり、学科で身に付けた専門知識を仕事で活かしてほしいというOBを輩出している点も挙げられた。

【「工学部 全6学科」の新規卒業生について「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- **技術者採用・ものづくりの会社、学科の内容が採用基準に合致している。**
 - － “システムエンジニアという職種は理系限定であり、複合機の修理対応等の技術を要します”(卸売・小売業／3,000人以上)
 - － “今後の当社が採用するであろう学科の学生が含まれている為”(製造業／100～500人未満)
 - － “弊社では日本のものづくりを支えるエンジニアの採用を行なっています。機械・電気電子・情報系の学生様が活躍頂けるようなケミカル系のフィールドもご用意しております”(製造業／1,000～3,000人未満)
- **学科で身に付けた専門知識を仕事に活かしてほしい／業務に役立ちそう。**
 - － “デジタル文具の開発の強化を推進している為。上記の知識を持つ方にはぜひとも力になってもらいたいから”(製造業／100～500人未満)
 - － “ものづくりのステージにおいて上記挙げて頂いた学科は当社が必要としている知識であり、活躍できる(活躍してほしい)学科である為。もちろん学校では学べない事は当社へ入社してからも深く学ぶ事ができるので、学校で学んだ事+当社へ来て更に学べる事でスキルアップしてほしい”(製造業／100～500人未満)
 - － “建設業の仕事でも電子機械や通信システムが日常的に使われており、機械や情報システムに詳しい人材がいれば業務を円滑に推進できるので、ぜひ採用したい。建設業への入社も視野に入れて頂きたい”(建設業／100人未満)
- **論理的思考力・問題解決力やITへの強さなど学生の能力・学力に期待。**
 - － “ITに強いと思っている為”(卸売・小売業／100人未満)
 - － “いかなる研究分野においても課題をある手段を使って解決していく経験はビジネスにも通ずるものだと思うから”(その他／3,000人以上)
- **OBが優れており積極採用したい。**
 - － “貴学OBの当社における活躍が目覚ましい為、貴学においては特に学部・学科問わず積極採用したい”(建設業／500～1,000人未満)
 - － “技術及び研究部門、システムエンジニアリング部門にて貴校の学生に活躍して頂いており、今後もお願ひしたいです”(製造業／500～1,000人未満)

■ **人物・ポテンシャル重視で様々な学科から採用したい。**

- － “これからのSE職においては学部・学科のこだわりは不要と思う為”(情報処理関連業／100～500人未満)
- － “情報学を学んだ学生ももちろん、欲しい層ではありますが、基本的には文理問わず、人物重視・ポテンシャル重視で採用を行なっている為、全学科に該当させて頂きました”(情報処理関連業／500～1,000人未満)
- － “弊社は方面保護工事等の特殊土木工事から造園工事まで幅広く手がけております。その為、入社してからの教育研修に重きを置き、募集に際しましては幅広い能力の学生の応募を期待して在学時の学部・学科等の専攻は不問としております”(建設業／100人未満)

※自由回答末尾 ○ 凡例 並びは、業種／正社員数

6. 工学部 各学科の新卒採用意向理由(1/2)

▶「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「応用化学学科」の採用意向理由として、「(各学科の)専門技術者として採用したい」「業務に必要な知識だから」を挙げている企業が多い。

【「機械工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 機械系として採用したい／技術職採用／製造工場を保有し必要な人材。
 - － “ゼネコン業務の中で、建設設備業務従事者を確保する為” (建設業／500～1,000人未満)
 - － “機械系の50代が定年をこれから迎える為、人材を補充していきたい” (製造業／500～1,000人未満)
 - － “当社千工工場(製造)で必要な人材の為” (製造業／100～500人未満)
- 業務に必要な知識だから。
 - － “基礎知識として必要”(サービス業／100～500人未満)

【「機械電子創成工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- － “弊社にとって人材不足であり、年齢構成から若手をどんどん採用したい” (建設業／100～500人未満)

【「先端材料工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 材料に知識がある人材を採用したい
 - － “材料に対する知識を当社人材に強く求めている為” (建設業／100～500人未満)
 - － “素材メーカーの為、材料(特に鉄)の知識を有している人は採用したい。他は人物を見て評価となる”(鉄鋼業／500～1,000人未満)

【「電気電子工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 電気系技術者を採用したい／電気設備事業者として必要な人材。
 - － “マンション建設等において電気設備設計職が不足しています。電気の知識を元に設計職を志す学生を採用したいと考えます”(建設業／100～500人未満)
 - － “空調のメンテナンスをしている会社です。第二種電気工事の資格や知識を持っている方を求めている為”(製造業／100～500人未満)
 - － “当社で扱う「看板」の業界においては、環境問題・省エネルギー化が進んでおり、その観点から特に電気電子工学科の学生さんへの採用意向を強く持っています”(製造業／100人未満)
- 電気の知識が必須の為。
 - － “弊社は建設業の内の電気工事業(施工管理)の為、電気の知識を持っている方から優先されます。電気以外の知識を持っていて頂くのはとても良いのですが、弊社に入社して頂いた事でもしアンマッチになってしまえば申し訳ないと思っています”(建設業／100～500人未満)

【「応用化学学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 化学出身学生を採用したい／化学系事業者として必要な人材。
 - － “化学系の専門商社なので”(卸売・小売業／100～500人未満)
 - － “道路用アスファルト製品の開発を行っており、研究開発職の採用を行なっている為、化学出身学生のニーズがある。機械管理職の採用を行なっている為”(建設業／500～1,000人未満)
- 化学系の専門知識が必須の為。
 - － “・技術職＝合成樹脂塗床材分野、無機系セメント系塗床材分野→研究開発、改良に理系の考え方が必要。・営業職＝文系社員より理系営業は知識や考え方として強い”(卸売・小売業／100～500人未満)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数

6. 工学部 各学科の新卒採用意向理由(2/2)

▶「情報通信システム工学科」の採用意向理由として、「情報処理知識や技術は有用で、SEとしての知識・経験に期待」「システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい」「学科の内容が事業に近いから」を挙げている企業が多い。

【「情報通信システム工学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

■ 情報処理知識や技術は有用／SEとしての基礎知識やプログラミング経験に期待。

- － “「情報通信システム工学科」につきましては、プログラマとして採用できる方を特に期待しております”(情報処理関連業／100人未満)
- － “ITの知識がある程度あれば、入社後の研修にも入りやすく即戦力になるまでの期間も短いと考えられる為”(情報処理関連業／100人未満)
- － “在学中から基礎知識・技術を習得されますので、即戦力として(基礎となる社会人としてのマナーは研修が充実しております)活躍して頂けると考えます”(製造業／100人未満)
- － “情報処理に関する知識を有する人は有用な人材である為”(情報処理関連業／500～1,000人未満)

■ システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい。

- － “ICTの知識を有する学生を積極採用したいと考えている為。専門知識を主体的に学ぶ意欲の高い学生が多いと感じる為”(建設業／500～1,000人未満)
- － “システムソリューションを事業としており、基礎技術としてシステム工学の知識が必要となる。しかし、最終的にはシステムの取りまとめ等を行なう為、システム工学に限らず社会をICTで支える人材を求めている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
- － “ハードとソフトの知識を兼ね備えた人材を採用したいから”(情報処理関連業／100人未満)

■ 学科の内容が事業に近いから。

- － “回答1: 自社の事業に直結する内容の為。回答22: 自社の事業に直結はしないが、業務上関連する内容、またはその思考プロセスに期待できる為”(情報処理関連業／100～500人未満)
- － “弊社の業務内容とマッチしている学部から採用させて頂きたいと考えております”(情報処理関連業／100人未満)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数

7.「工学部」に対するご意見・ご要望

- ▶ 専門知識とともに、コミュニケーション能力、実技経験を踏まえた現場力のある、強い人材の育成が期待されている。
- ▶ また、工学部に対する重要性の認識を示したご意見や学生の就業検討活動への協力の申し出も見られた。

【「工学部」に対するご意見・ご要望(自由回答)の抜粋】

■ 専門知識とともに、コミュニケーション能力のある人材育成を期待。

- “専門知識に加え、コミュニケーション力も兼ね備えた人材の育成に期待しております”(その他／3,000人以上／〇〇〇〇〇〇〇)
- “他人との対話力、説得力をUPするようなプログラムを組んで頂けると、企業にとってより魅力的な人材が輩出される事になると思う”(情報処理関連業／100～500人未満／〇〇〇〇〇〇〇)
- “ぜひプレゼンテーションする事に慣れて頂きたい。どちらからといえば、コミュニケーションに慣れてない学生様が多い”(情報処理関連業／100～500人未満／〇〇△×〇〇×)

■ 実践・実技の授業を増やして、現場での判断力を養ってほしい。

- “他大学様でのケースでたまにある事です、”ものづくり”が好きだという学生様で材料や製作、工具等、現物に全く触れてこない方がいる場合があります。“工学”の基本を大切にする育成を期待しております”(製造業／100～500人未満／〇〇〇〇〇△〇)
- “実践、実技の授業を増やしてほしい”(情報処理関連業／100～500人未満／〇〇△〇〇△)
- “物事の因果関係について、シミュレーション(コンピュータによる)に終わらず、実際に実験を通して結果を判断できる人材を育成してもらいたい”(製造業／100～500人未満／△△△△△△)

■ 社会に出て通用する強い人材を育ててほしい。

- “現在の教育のように体系立てて物事を考え、またそれを発表する機会を学生に与えて頂ければ社会人になつた際、光る人材になると存じます”(卸売・小売業／100～500人未満／-----〇)
- “技術面はもとより、「人間力」の育成にも期待しております。ものづくりやビジネスの本質的な部分を捉えられる基礎力を持った学生との出会いを希望しています”(製造業／100人未満／〇〇〇〇〇△)
- “学だけではなく、個人・チームで課題解決できる人材を育成して頂きたい。また、学生時代に壁にぶつかると経験がされると、より成長されると思います。大学にとって学生はお客様ではありますが、人間教育の場でもありますので、ぜひ強い人材を育てて頂きたいです”(その他／100～500人未満／〇〇△〇〇△)

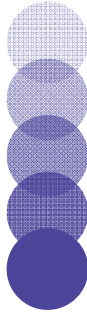
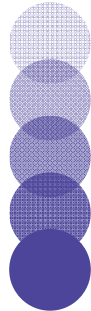
■ ものづくり技術の根幹として工学部が重要な学部。

- “理系一特に工学部一は全国的に学校・学部が少ないが、インフラ整備等国にとっては重要な分野であり、工学部を充実させてほしい”(建設業／100人未満／△×〇×××)
- “日本のものづくりの技術の根幹を担う重要な学部であると思います。活躍する分野が幅広いので、今後様々な分野で業界を支える人材を育成される事を期待します”(建設業／100～500人未満／〇×〇××)

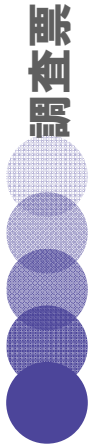
■ 「出張授業」やインターンの形で、学生の就業検討活動に協力したい。

- “学生の方々や次世代の技術者を育成する為に、ICT施工等の技術紹介や試乗体験といった「出張授業」の実施を進めていきたいと考えております。少しでもお力になれる事がありましたら、柔軟に対応させて頂きます。また、インターンシップ受入もさせて頂きますので、ご検討のほどよろしくお願致します”(その他／1,000～3,000人未満／〇〇△〇△△)
- “今後学生様に対し当社の事業を理解して頂く機会(説明会、インターン等)を頂けたら幸いです。貴校との産官学連携を強化していきたいと考えておりますので、ご協力できる事がございましたらOBが多数いる開発部門を中心に全面的に協力させて頂きます”(製造業／100～500人未満／〇〇〇△△△)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数／各学科 (機械、機械電子創成、先端材料、電気電子、情報通信システム、応用化学) の採用意向
採用意向：○採用したい／△採用を検討したい／×どちらでもない／＊あまり採用したくない／－無回答



資料：調査票



調査票

はじめに、貴社についてお聞きます。

F1. 貴社の主業種をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|------------------|--------------|----------------------|
| 1. 農業・林業・漁業・鉱業 | 2. 建設業 | 3. 製造業 |
| 4. 鉄鋼業 | 5. 出版・印刷関連産業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 運輸・運送業 | 8. 航空関連業 | 9. 旅行業 |
| 10. 電気通信業 | 11. 情報処理関連業 | 12. 卸売・小売業 |
| 13. 総合商社 | 14. 飲食店 | 15. 金融業(銀行・信託・証券・貸金) |
| 16. 保険業 | 17. 不動産業 | 18. サービス業 |
| 19. 医療機関(病院) | 20. 福祉関連業 | 21. 学校・教育産業 |
| 22. 官公庁・自治体・公共団体 | 23. その他 () | |

F2. 貴社の正社員数をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|--------------------|----------------|------------------|
| 1. 100 人未満 | 2. 100～500 人未満 | 3. 500～1,000 人未満 |
| 4. 1,000～3,000 人未満 | 5. 3,000 人以上 | |

F3. 貴社で過去 3 年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。(いくつでも○)

- | | | | |
|-----------------------------|------------|--------|---------|
| 1. 高校卒 | 2. 短大卒 | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒 | 6. その他 () | | |
| 7. 新卒の採用はなかった → F5 へお進みください | | | |

F4. 貴社の 2014 年 4 月入社の新卒採用状況についてお聞きます。

大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

- | | | | |
|------------|----------------------------------|------------|--------------|
| 1. 1～9 人 | 2. 10～49 人 | 3. 50～99 人 | 4. 100～499 人 |
| 5. 500 人以上 | 6. 新卒は採用しなかった(0 人) → F5 へお進みください | | |

SF1. 2014 年 4 月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

- | | | |
|---------|------------|--------------|
| 1. 採用した | 2. 採用はなかった | 3. 未詳(わからない) |
|---------|------------|--------------|

F5. 2015 年 4 月入社の新卒採用数について、現時点でどのようなようにお考えですか。

貴社の方針に近いものをお選び下さい。(ひとつに○)

- | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 2014 年よりも増えると思う | 2. 2014 年と同程度だと思う | 3. 2014 年よりも減ると思う |
| 4. 新卒の採用は行わない予定 | 5. 未定(わからない) | |

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。

貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。(いくつでも○)

- | | | | |
|-----------------|------------|--------|---------|
| 1. 高校卒 | 2. 短大卒 | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒 | 6. その他 () | | |
| 7. 新卒の採用は行わない予定 | | | |

※調査票1ページ目のあいさつ文(アンケート協力のお願い)は割愛。

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。

あてはまる能力を以下からすべてお選びください。(いくつでも○)

- | | | |
|----------------|-------------|----------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 主体性 | 3. 協調性 |
| 4. チャレンジ精神 | 5. 誠実性 | 6. 責任感 |
| 7. 論理性 | 8. 専門性 | 9. 職業観 |
| 10. 創造性 | 11. 柔軟性 | 12. 信頼性 |
| 13. リーダーシップ | 14. 一般常識 | 15. 外国語力 |
| 16. 日本語力 | 17. 数的処理力 | 18. 倫理観 |
| 19. 感受性 | 20. その他 () | |

ここからは、千葉工業大学の新しい学部/学科に関する設問です

！別添の「新しい学部学科紹介」をよく読んでいただき、お答えください。

※新しい3つの学部(工学部、創造工学部、先進工学部)それぞれについて伺います。

設置計画案①:工学部

Q1. 「工学部」の「設置の理念」について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 設置の理念	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。
----------------	---

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 必要になる | 2. ある程度必要になる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり必要にならない | 5. 必要にならない | |

Q2. 「工学部」の「養成する人物像」について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 養成する人物像	現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。
------------------	---

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 必要になる | 2. ある程度必要になる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり必要にならない | 5. 必要にならない | |

※Q3は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ4へお進みください)

Q3.「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますが。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	工学部	機械工学科	1	2	3	4	5
		機械電子創成工学科	1	2	3	4	5
		先端材料工学科	1	2	3	4	5
		電気電子工学科	1	2	3	4	5
		情報通信システム工学科	1	2	3	4	5
		応用化学科	1	2	3	4	5

SQ1. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q4.「工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案②：創造工学部

Q5.「創造工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」設置の理念

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q6.「創造工学部」の「養成する人物像」について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」	創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関する調査・企画・計画・設計、維持管理、マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。
----------------	--

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q7は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ8へお進みください)

Q7.「創造工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	創造工学部	建築学科	1	2	3	4	5
		都市環境工学科	1	2	3	4	5
		デザイン学科	1	2	3	4	5

SQL2. 上記ご回答についての理由をお書き沿え下さい。

Q8.「創造工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案③:先進工学部

Q9.「工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要かと考えますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 設置の理念	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。		
------------------	---	--	--

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q10.「先進工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。
貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 養成する人物像	工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。		
--------------------	---	--	--

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q11は、新卒採用をお考えの方にお聞きします。(F6で「7. 新卒の採用は行わない予定」を選択した方はQ12へお進みください)

Q11.「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお待ちになりますか。
貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	先進工学部	未来ロボティクス学科	1	2	3	4	5
		生命科学科	1	2	3	4	5
		知能メディア工学科	1	2	3	4	5

SQ3. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q12.「先進工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

最後に、千葉工業大学全体に関する設問です

Q13.「千葉工業大学」全体に対するご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。

質問はこれで終了です。

長時間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

機械工学、電気電子工学両方の基礎知識を身に付けつつ、機械工学に軸足を置き、実践的な設計・製作技法を身に付けた技術者

機械電子創成工学科 履修モデル

科目		履修年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		単位計	卒業要件					
		1 S(前期)	単位	2 S(後期)	単位	3 S(前期)	単位	4 S(後期)	単位	5 S(前期)	単位			6 S(後期)	単位	7 S(前期)	単位	8 S(後期)
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ1	1	センテンス・ストラクチャ2	1	7トランス・コリアクションB1	1											
		英語コミュニケーションB1	1	英語コミュニケーションB2	1	7トランス・コリアクションB1	1											
		日本語表現法	1															
		情報処理	2															
		スポーツ科学	2	キャリアデザイン2	1													
		キャリアデザイン1	1															
		初年次教育	1															
		異文化理解	2	言語と文化2	2													
		言語と文化1	2															
教養発展科目	人間・社会・自然の理解			倫理学	2	文学と芸術 歴史と人間	2 2											
						課題探究セミナー	2											
専門基礎科目	教養特別科目																	
		数学基礎	2	微分積分	2	微分方程式	2	応用数学	2	イングリッシュライティング1	1							
		線形代数基礎	2	線形代数応用	2	基礎統計学	2											
		物理学基礎	2		物理学実験	2												
						化学基礎	2											
専門基礎科目	機械電子創成概論	2	機構学	2	機械電子創成基礎実験・実習	2	機械電子創成基礎実験・実習	2	機械電子創成応用実験・実習	2	機械電子創成発展実験・実習	2	ゼミナール1	2	ゼミナール2	2		
	デジタルものづくり	2	力学	2	材料力学	2	機械設計図学	2	機械力学	2	シミュレーション工学	2	卒業研究	2				
			電気磁気学	2	電気回路	2	機械加工法	2	トライボロジー	2	熱・流体工学	2						
							材料とその性質	2	半導体電力変換工学	2	精密加工	2	機械電子創成発展講義1	2	機械電子創成発展講義2	2		
							アナログ回路	2	システム制御理論	2	システム制御工学	2	技術者倫理	2				
							プログラミング言語	2	センサ工学	2	計測工学	2						
専門展開科目	専門展開科目																	
単位計		23	40	17		22		16		16		14		10		7		

必修科目	選択科目
------	------

-1-

■社会的・職業的自立に関する指導及び体制の概要

【教育課程内の取組における組織体制】

- 社会的・職業的自立の指導等を検討する
学部教育に関する横断的ワーキンググループ

【教育課程外の取組における組織体制】

- 就職委員会
○就職・進路支援部就職課



【教育課程内の取組】

- 教養科目全体を通じた取組み
- ・知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能及び態度・志向性の習得
 - ・国際理解及び人間・社会・自然の理解と課題解決能力の習得
 - ・職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図る
 - ・職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付ける

【教育課程外の取組】

- キャリア支援年間計画に基づく取組
- ・職務適性検査／自己分析講座
 - ・インターンシップ
 - ・公務員対策講座
 - ・キャリア支援講座
 - ・個別カウンセリング
 - ・Uターンガイダンス
 - ・企業等採用説明会
 - ・TOEIC 対策講座
 - ・知的財産管理技能検定対策講座
 - ・秘書技能検定対策講座
 - ・国語（文章）力トレーニング講座
 - ・特別英会話トレーニング
 - ・筆記試験対策（一般常識・SPI・CAB/GAB・クレペリン）
 - ・OB・OG 懇談会
 - ・就職講演会
 - ・業界研究セミナー
 - ・進路ガイダンス・就職準備ガイダンス
 - ・履歴書・エントリーシート対策講座
 - ・就職マナー講座
 - ・女子学生支援
 - ・集団面接・個別面接
 - ・グループディスカッション対策
 - ・合宿セミナー

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

機械電子創成工学科の基礎となる機械サイエンス学科は、過去5年間の全試験種での平均志願者数が入学定員315人に対し5,138人となっており、平均定員倍率は16.3倍となっていた。また、入学者も定員を確保しており、機械電子創成工学科においても定員を充足することは十分可能であると考えている。(資料1)

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

機械電子創成工学科の設置計画に伴い、学生確保の見込みについて計量的なデータから検証することを目的として、関東エリアを中心とした全国の高等学校に在籍している高校生2年生を対象とした進学意向に関するアンケート調査を実施した結果、機械電子創成工学科への進学意向については、入学定員110人の約3.9倍にあたる432人が進学意向を示しているとともに、約1.4倍にあたる156人が積極的な進学意向を示しており、このような関東エリアを中心とした限られた調査の結果においても、ある程度の進学意向が認められる数値となっていることから、学生確保については十分に見込めるものと考えられる。(資料2)

ウ. 学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金については、入学金、授業料からなり、本学学則第50条、第51条及び千葉工業大学学生納付金納入細則に定めている。

本学では、学生納付金はその収入の約8割を占めており、重要な財源となっている。このことから、学生納付金の設定については、理事長、常務理事、事務局長、財務部長によって協議し、理事会において決定している。

学生納付金の設定の考え方は、学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、設置圏周辺地域における類似学科を設置している私立大学（東京電機大学、東京理科大学、工学院大学等）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率及び経常経費依存率を見極めつつ、学部運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定としている。(資料3)

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

まず受験生への広報として年間3回で約1万人を集めるオープンキャンパスへのさらなる集客や新学部説明コンテンツの充実を図るほか、対面訴求として効果的な学外進学相談会や高校での説明会参加を年間で300件以上行っていく。年々増加傾向にある個別の大学見学も積極的に受け入れる。

また、大学ホームページにて新学部特設サイトの開設や更新頻度の高い情報発信を行うほか、教育産業の進学情報誌や進学情報サイトへの露出を行っていく。一度接触のあった資料請求者には継続してニュースを盛り込んだダイレクトメールをタイムリーに発送し、関心を逸らせないような施策を行っていく。

高校教員に対しては新学部・新学科説明会を実施するほか、年間を通して約400校の高校訪問にて訴求をしていく。

一般の方に対する告知は上記のホームページのほかに新聞広告、電車内広告タウン誌などを利用するほか、学内外で行うイベントでも告知を進めていく。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

機械電子創成工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「機械工学分野」及び「電子工学分野」として、「機械工学と電子工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、電子機械技術や電子機械システムの諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、人間生活の利便性と生活の質の向上を図る機械創成のための創造的な能力と実践的な態度を育てることにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、機械電子創成工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解のもとに、機械及び機械要素の設計や製作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、電子技術や計測制御に関する知識と技術を習得させ、新たな電子機械を創り出すための応用的な能力を身に付けて、次世代の機械システムを創成する人材を養成する」こととしている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

機械電子創成工学科の卒業後の進路としては、生活関連産業用機械製造業、業務用機械器具製造業、産業用電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業などをはじめとする機械器具製造関連産業を中心として、幅広く活躍することが期待される。

機械電子創成工学科の基礎となる既設の工学部の機械サイエンス学科と電気電

子情報工学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人件数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料4)

今般の機械電子創成工学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の生命環境科学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

機械電子創成工学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、機械電子創成工学科において養成する人材や設置の必要性、機械電子創成工学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 71%にあたる 578 社が必要性を認めており、工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 81%にあたる 656 社がその必要性を認めており、また、機械電子創成工学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 37%にあたる 304 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、機械電子創成工学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料5)

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

資料 1. 志願者数（全試験種） 5 ヶ年推移（2011～2015）

資料 2. 新学部・新学科に関するアンケート〈高校生対象〉

資料 3. 近隣競合大学の初年度納入金（平成 27 年度）

資料 4. 過去 5 年間の求職者（求職者数、求人件数、就職者数）実績

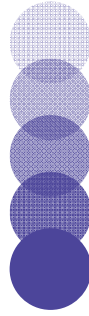
資料 5. 新学部・新学科に関するアンケート〈企業対象〉

志願者(全試験種)5カ年推移(2011～2015)

学科名	平成23年度 (2011年)			平成24年度 (2012年)			平成25年度 (2013年)			平成26年度 (2014年)			平成27年度 (2015年)		
	志願者	合格者	入学者	倍率	志願者	合格者	入学者	倍率	志願者	合格者	入学者	倍率	志願者	合格者	入学者
機械サイエンス学科	3,342	1,402	354	2.4	4,288	1,670	365	2.6	5,045	1,699	370	3.0	6,978	1,616	354
電気電子情報工学科	3,577	1,240	335	2.9	4,743	1,365	344	3.5	5,135	1,508	345	3.4	6,848	1,614	349
生命環境科学科	2,193	809	269	2.7	2,796	1,022	268	2.7	3,090	995	278	3.1	4,488	1,171	262
建築都市環境学科	2,206	1,393	355	1.6	3,174	1,328	347	2.4	3,543	1,182	345	3.0	5,821	1,197	359
デザイン科学科	1,793	999	218	1.8	2,427	1,108	203	2.2	2,712	992	211	2.7	4,704	842	208
未来ロボティクス学科	2,356	461	118	5.1	3,243	465	124	7.0	3,832	481	125	8.0	5,438	507	133

千葉工業大学

御中



千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート＜高校生対象＞

調査結果報告書

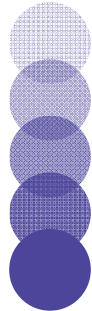
2015年2月

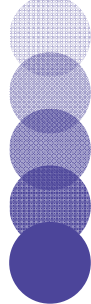
資料2

KOKOKUSHA
■ 廣 告 社 株 式 会 社

大学専門のマーケティング&リサーチ、コンサルティング会社
廣告タグループ

株式会 社 大 学 ソ リ ュ ー シ ョ ン パ ー ト ナ ー ス





目次

▶ 調査概要	03
▶ 回答者プロフィール	04
【調査結果】	
▶ 新学科に対する評価	10
▶ 入学意向者の特徴	21
【資料】	
▶ 調査票	28
▶ 高校別有効回答数	32

▶ 調査目的

- 千葉工業大学で設置を計画している新学部・新学科について、高校2年生にその興味関心度や入学意向等を調査し、受容性を確認する。

▶ 調査対象

- 関東地方を中心とした全国の高校(主として理系コース)の高校2年生。

▶ 調査方法

1. 調査対象校に調査票を送付し、実査協力を依頼。各高校のホームルームなどの時間に教室にて配布し、回答・回収。
2. オープンキャンパス、大学見学、大学祭の個別進学相談で来校した生徒に調査票を配布し、回答・回収。
※高校における調査未実施を条件に実施。

▶ 回収数

- 合計:27,278サンプル(有効回答数)
- 回答高校数:328校 (※高校別有効回答数は32ページ参照。)

▶ 調査期間

- 2014年10月8日(水)配布開始 ~ 2015年2月12日(木)回収分まで

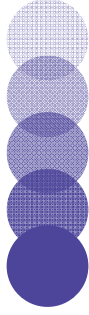
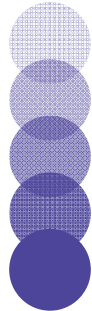
■ 高校所在地 (全体／単一回答)

	調査数	北海道	青森県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	京都府	香川県	不明	関東・計
全体	27278	0.0 (2)	0.4 (99)	1.4 (388)	11.4 (3099)	3.3 (893)	0.8 (205)	11.7 (3191)	45.2 (12323)	16.8 (4587)	3.7 (998)	0.8 (219)	1.6 (427)	1.3 (343)	1.2 (334)	0.0 (1)	0.6 (168)	関東・計
																		92.7 (25296)

※下段 () 内の数字はn数

※表示のない府県の高校からの有効回答はゼロ。

20001



回答者プロフィール

性別

▲今回の回答者の男女比は、男子62%、女子38%。

- 大学進学意向者は、男子が63%、短期大学意向者は、約8割が女子。
- 「工学」「情報学」の進学希望者は、9割弱が男子。

■性別 (全体/単一回答)

	男	女	無回答
●凡例			
全体	(n=27278)	61.1%	38.4
希望進路別	(n=24034)	59.9	39.7
進学希望・計	(n=19784)	63.4	36.1
大学	(n=594)	16.8	82.8
短期大学	(n=3656)	47.7	51.8
専門学校	(n=3205)	70.4	29.2
進学希望なし・計	(n=4536)	88.4	11.2
工学	(n=1849)	79.7	19.8
理学	(n=1609)	88.9	10.4
情報学	(n=622)	52.3	47.3
文学	(n=824)	35.8	63.6
外国語学	(n=617)	45.7	54.3
心理学	(n=411)	67.6	31.9
法学・政治学	(n=1338)	72.5	27.0
経済学・経営学	(n=253)	61.7	37.9
社会学	(n=206)	41.7	58.3
福祉学	(n=687)	64.2	35.1
農学	(n=781)	48.4	50.8
医学・歯学・獣医学	(n=921)	50.9	48.8
薬学	(n=1544)	13.1	86.4
看護学	(n=1091)	45.4	54.1
その他の医療技術・保健学	(n=896)	15.3	84.2
家政学・食物栄養学	(n=1807)	39.1	60.6
教育学・保育学	(n=939)	78.4	20.8
体育学・スポーツ学	(n=862)	34.3	65.1
芸術学	(n=246)	31.7	67.9
教養学・国際関係学	(n=1352)	53.2	46.1
その他	(n=25296)	60.4	39.1
高校所在地	(n=12323)	57.4	42.4
別	(n=3099)	58.3	41.0
千葉県	(n=893)	62.4	35.8
茨城県	(n=205)	52.7	45.9
栃木県	(n=3191)	71.5	28.3
群馬県	(n=4587)	62.4	36.9
埼玉県	(n=998)	59.6	38.2
東京都	(n=1814)	68.9	30.1
神奈川県			
関東以外・計			



回答者プロフィール：高校卒業後の希望進路

＜高校卒業後の希望進路＞

▶回答者の88%が、高校卒業後の進学を考え
ており、うち、75%が「大学進学」を希望。

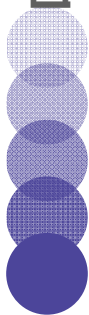
- 性別にみると、男性の方が女性より、「大学進学」を希望する割合が3ポイント高い。

■高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）

F2. あなたは高校卒業後、どのような進路に進みたいと思いますか。最も進みたい進路をひとつお選びください。

	●凡例	進学希望・計			進学希望なし・計			進学希望・計	進学希望なし・計	
		大学進学希望・計		専門学校	就職	その他	無回答			
		大学 (4年制・6年制)	短期大学							
全体	(n=27278)							88.1	74.7	11.7
性別										
男性	(n=16657)		72.5%		2.2	13.4	10.0	86.4	75.9	13.5
女性	(n=10473)		75.3		0.6	10.5	11.8	91.0	72.9	8.9
進学希望分野別			68.2		4.7	18.1	7.3	100.0	90.7	—
工学	(n=4536)		90.2		—	0.5	9.3	100.0	98.2	—
理学	(n=1849)		97.7			0.4	—	100.0	84.2	—
情報学	(n=1609)		83.4		0.7	15.8	—	100.0	96.1	—
文学	(n=622)		93.4		2.7	3.9	—	100.0	90.7	—
外国語学	(n=824)		88.3		2.3	9.3	—	100.0	91.1	—
心理学	(n=617)		87.8		3.2	8.9	—	100.0	96.1	—
法学・政治学	(n=411)		95.9		0.2	3.9	—	100.0	95.9	—
経済学・経営学	(n=1338)		94.4		1.5	4.1	—	100.0	95.7	—
社会学	(n=253)		93.7		2.0	4.3	—	100.0	71.4	—
福祉学	(n=206)		67.5		3.9	28.6	—	100.0	93.9	—
農学	(n=687)		92.7		1.2	6.1	—	100.0	82.2	—
医学・歯学・獣医学	(n=781)		79.8		2.4	17.8	—	100.0	99.2	—
薬学	(n=921)		98.7		0.5	0.8	—	100.0	69.8	—
看護学	(n=1544)		68.6		1.2	30.2	—	100.0	84.9	—
その他の医療技術・保健*	(n=1091)		83.7		1.2	15.1	—	100.0	73.7	—
家政学・食物栄養学	(n=896)		68.4		5.2	26.3	—	100.0	89.9	—
教育学・保育学	(n=1807)		74.4		15.5	10.1	—	100.0	88.8	—
体育学・スポーツ学	(n=939)		87.5		1.3	11.2	—	100.0	61.9	—
芸術学	(n=862)		59.7		2.2	38.1	—	100.0	91.9	—
教養学・国際関係学	(n=246)		90.2		1.6	8.1	—	100.0	38.5	—
その他	(n=1352)		36.8		1.8	61.5	—	100.0	75.5	11.1
高校所在地別										
関東・計	(n=25296)		73.4		2.2	13.2	9.4	88.7	69.5	14.7
千葉県	(n=12323)		66.7		2.8	15.6	12.8	85.1	75.8	9.3
茨城県	(n=3099)		72.7		3.1	14.8	7.3	90.6	82.9	4.7
栃木県	(n=893)		81.7		1.1	12.2	4.0	95.1	96.1	1.5
群馬県	(n=205)		95.6		0.2	4.0	2.4	93.5	84.5	6.5
埼玉県	(n=3191)		83.7		0.8	8.9	5.0	91.5	82.6	8.3
東京都	(n=4587)		81.7		0.9	8.9	6.7	91.3	76.9	8.6
神奈川県	(n=998)		75.2		1.7	14.4	6.7	78.6	61.2	21.2
関東以外・計	(n=1814)		58.5		2.7	17.4	19.7			

21011



回答者プロフィール：進学先で学びたい興味のある分野／最も興味のある分野

＜進学希望分野：興味のある分野／最も興味のある分野＞

▶興味のある分野(複数回答)では、「工学」が最も高い(43%)。

－「理学」が24%で続き、「心理学」「教育学・保育学」「情報学」が15%以上。

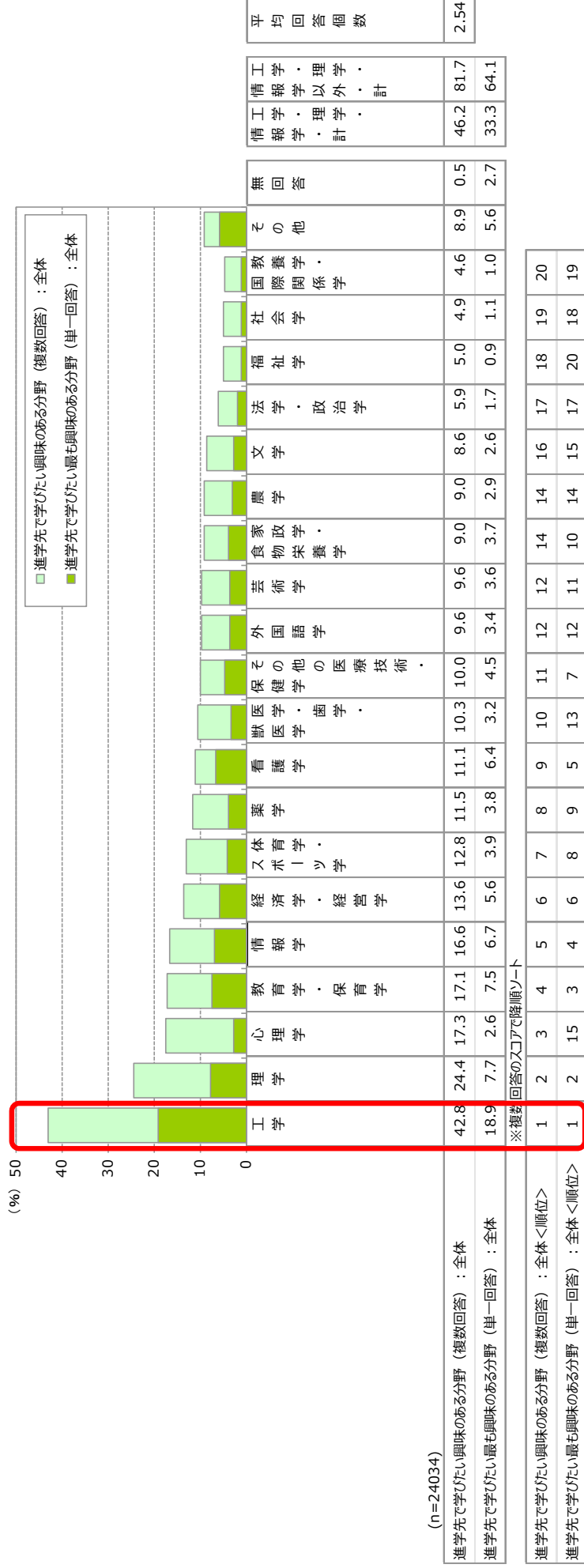
▶最も興味のある分野(単一回答)も、「工学」が最も高い(19%)。

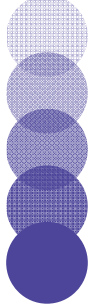
－「理学」「教育学・保育学」「情報学」「経済学・経営学」が5%以上。

■進学先で学びたい興味のある分野 (進学希望者／複数回答)・進学先で学びたい最も興味のある分野 (進学希望者／単一回答)

F3. 進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。

F3SQ1. F3で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号を右下の回答欄にお書きください。





回答者プロフィール：進学先で学びたい興味のある分野(複数回答):属性別

▶性別による興味のある分野が異なる。男性は「工学」(59%)、女性は「教育学・保育学」「心理学」「看護学」が2割台。

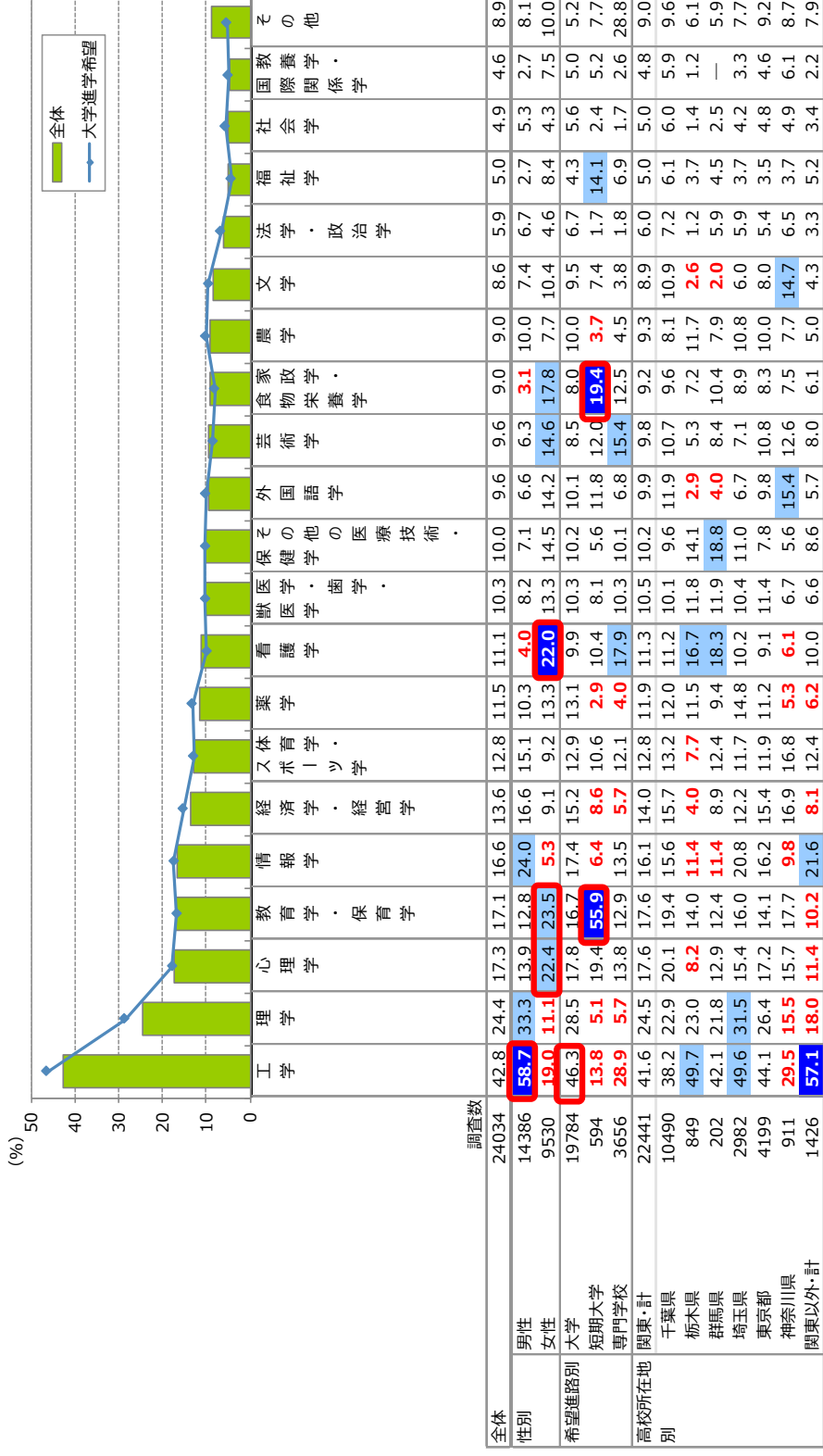
- 男性は、「理学」(33%)、「情報学」(24%)が続いている。
- 男性の「工学」と女性の「看護学」は、それぞれ、全体より10ポイント以上高い。

▶進路希望別にみると、大学への進学意向者では、「工学」が最も高い(46%)。

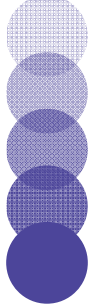
- 短期大学の進学意向者は、「教育学・保育学」が56%と最も高く、全体より39ポイント高い。「家政学・食物栄養学」が2番目に高く(19%)、全体より10ポイント高い。

■進学先で学びたい興味のある分野：属性別（進学希望者／複数回答）

F3. 進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべて選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体で降順ソート



回答者プロフィール：進学先で学びたい最も興味のある分野(単一回答):属性別

▶性別による興味のある分野が異なる。男性は「工学」(28%)、女性は「看護学」(14%)。

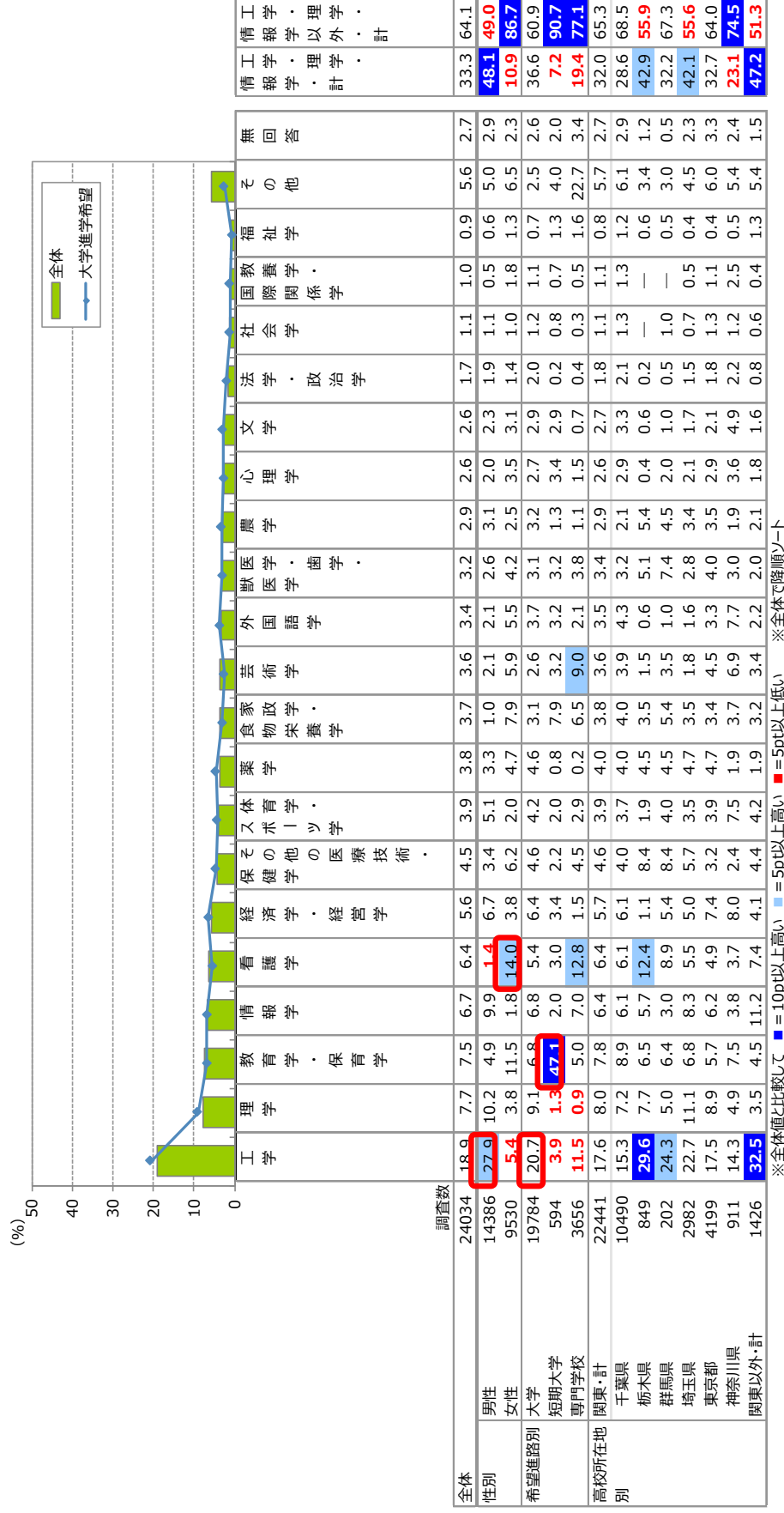
- 男性は「理学」(10%)、女性は「教育学・保育学」(12%)が続いている。

▶進路希望別にみると、大学への進学意向者では、「工学」が最も高い(21%)。

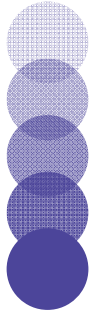
- 短期大学の進学意向者は、「教育学・保育学」が47%と最も高く、全体より39ポイント高い。

■進学先で学びたい最も興味のある分野：属性（進学希望者／単一回答）

F3SQ1. F3で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号を右下の回答欄にお書きください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体で降順ソート



【調査結果】新学科に対する評価

▶「創造工学部・デザイン科学科」への興味・関心が最も高く(16%)、次いで、「工学部・機械工学科」(14%)。

- 性別にみると、男性は「工学部・機械工学科」(21%)への興味・関心が最も高く、女性も高く、女性は「創造工学部・デザイン科学科」(22%)が最も高い。

・特に男性では、工学部の「機械工学科」「機械電子創成工学科」「電気電子工学科」「情報通信システム工学科」で、女性より10ポイント以上高い。

- 希望進路別にみると、各層とも「創造工学部・デザイン科学科」への興味・関心が高い。

- 進学希望分野別にみると、分野ごとに興味・関心のある学部・学科が異なる。

・工学：「工学部・機械工学科」が最も高く(42%)、「創造工学部・建築学科」が3割台、「工学部・電気電子工学科」「工学部・機械電子創成工学科」が2割台。

・理学：「工学部・応用化学科」が最も高く(26%)、「先進工学部・生命科学科」も2割台。

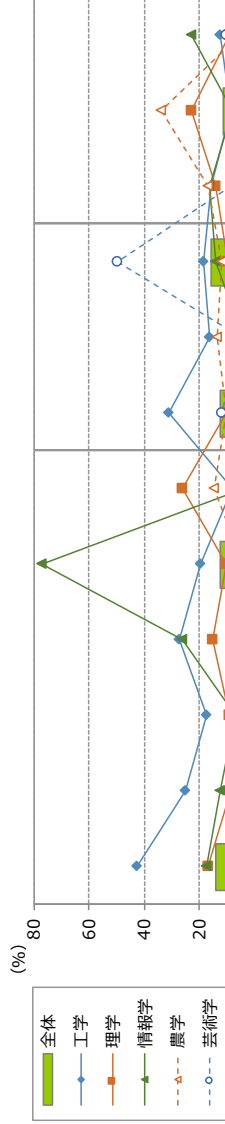
・情報学：「工学部・情報通信システム工学科」が77%と最も高く、「工学部・電気電子工学科」「先進工学部・知能メディア工学科」が2割台。

・農学：「先進工学部・生命科学科」が最も高い(34%)。

・芸術学：「創造工学部・デザイン科学科」が最も高い(50%)。

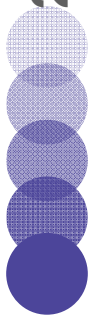
■新学部・学科への興味・関心(全体/複数回答)

Q1. 千葉工業大学の新しいV12の学科について、あなたが興味や関心のある学科をすべてお選びください。※すべての学科に興味・関心がない方は、「X. すべての学科に興味・関心がない」をお選びいただき、Q3へお進みください。



興味や関心のある学科あり・計																											
工学部・計										創造工学部・計				先進工学部・計													
機械工学科		機械工学科		先端材料工学科		電気電子工学科		情報通信システム		応用化学科		建築学科		都市環境工学科		デザイン科学科		未来ロボティクス		生命科学科		知能メディア		興味を有する学科がない		無回答	
調査数	27278	14.1	8.5	6.8	10.1	12.7	6.6	12.4	7.4	15.5	10.3	11.3	8.1	40.3	7.0	32.9	25.5	23.1	52.6								
性別	男性	16657	20.8	12.0	9.0	14.9	17.7	7.3	14.6	8.5	11.5	12.5	10.6	9.5	31.6	7.7	44.8	25.0	25.1	60.7							
	女性	10473	3.3	2.7	3.3	2.4	4.6	5.5	8.9	5.7	21.7	6.7	12.5	5.8	54.2	6.0	13.8	26.4	20.1	39.9							
	進学希望・計	24034	14.7	8.8	7.0	10.6	13.6	7.2	13.0	7.8	16.1	10.8	12.0	8.5	41.1	3.3	34.6	26.7	24.5	55.6							
	大学	19784	15.6	9.4	7.7	11.6	14.3	8.2	13.9	8.6	15.9	11.4	13.0	9.0	38.6	2.8	37.2	27.4	26.4	58.5							
	短期大学 専門学校	594 3656	5.9 10.9	4.9 6.3	3.7 4.2	4.5 6.5	5.4 11.1	3.2 2.3	7.2 8.8	4.2 4.0	20.5 17.0	7.4 8.0	7.6 7.2	6.1 6.3	59.4 51.6	5.9 5.5	13.3 24.3	24.4 23.2	14.5 16.2	34.7 42.9							
進学希望なし・計	3205	9.6	5.8	5.1	6.0	6.1	2.5	8.3	4.6	10.4	6.6	6.0	4.9	34.2	34.7	19.8	17.2	12.7	31.1								
進学希望分野別	工学	4536	42.3	25.1	17.6	27.3	19.6	8.3	31.2	16.2	18.3	15.6	8.5	12.2	5.1	72.4	42.9	28.4	93.9								
	理学	1849	17.0	8.7	8.9	15.1	10.3	25.9	10.4	7.9	9.6	14.2	22.9	9.3	28.6	50.4	21.5	36.9	69.5								
	情報学	1609	17.3	12.7	6.9	26.0	77.1	3.8	5.2	4.3	14.0	16.2	8.2	22.9	0.8	83.3	19.1	35.9	89.7								
	農学	687	8.2	3.6	3.9	4.2	4.2	14.7	10.5	13.7	11.9	17.0	33.8	5.5	34.6	27.2	27.7	48.8	63.5								
	芸術学	862	4.9	3.9	3.6	3.1	6.5	2.1	11.9	4.9	49.9	8.7	7.9	10.2	36.9	15.1	53.0	20.4	59.9								

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



2. 新学部・学科への興味・関心の理由

▶興味や関心のある学科にその理由を尋ねたところ、全学科とも、「『学科』の内容が魅力的」が最も高い(40～56%)。

－ 2 番目以降の項目は学部によって異なる。

【工学部】

- ・ 全般的に、全学科とも、「学部として魅力的」が2番目に高い(23～27%)。
- ・ また、「機械工学科」「電気電子工学科」での「『卒業後の主な進路』が魅力的」「『学びのポイント』が魅力的」(24%)、「機械電子創成工学科」での「『学びのポイント』が魅力的」「『卒業後の主な進路』が魅力的」(どちらも21%)、「先端材料工学科」の「『学びのポイント』が魅力的」(23%)も、「学部として魅力的」と同水準。

【創造工学部】

- ・ 全学科とも、「学部として魅力的」が2番目に高く(26～33%)、「建築学科」では「『卒業後の主な進路』が魅力的」も高い(29%)。

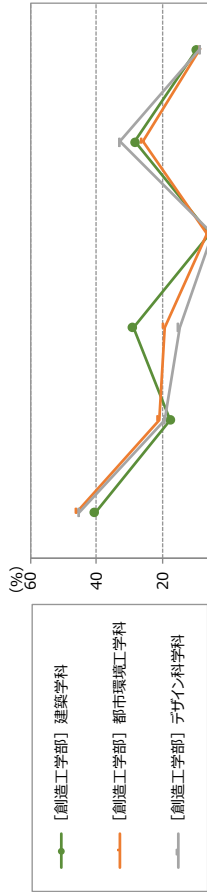
【先進工学部】

- ・ 全学科とも、「学部として魅力的」が2番目に高い(26～30%)。

■「創造工学部」新学科に興味や関心があると思う理由 (各学科に興味や関心があり／各複数回答)

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きします。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてののみお答えください。



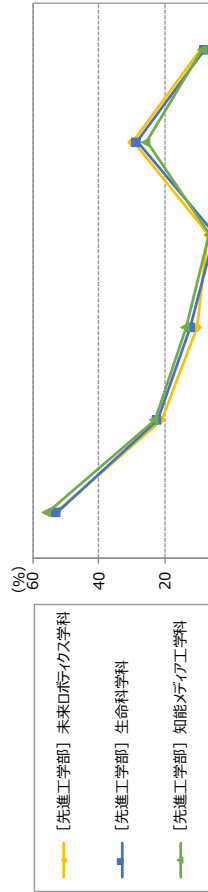
調査数	「学科の内容が魅力的」	「学びのポイントが魅力的」	「卒業後の主な進路が魅力的」	学部として魅力的	その他	無回答	平均回答個数
3383	40.4	17.7	28.9	5.7	28.4	9.7	4.0
2029	45.9	21.2	19.4	6.6	26.1	8.5	4.6
4217	45.2	19.3	14.9	5.2	32.9	8.7	4.1

23201.02

■「先進工学部」新学科に興味や関心があると思う理由 (各学科に興味や関心があり／各複数回答)

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きします。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてののみお答えください。



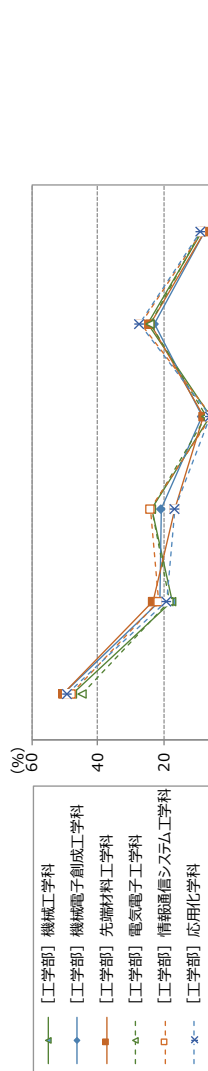
調査数	「学科の内容が魅力的」	「学びのポイントが魅力的」	「卒業後の主な進路が魅力的」	学部として魅力的	その他	無回答	平均回答個数
2810	53.1	21.2	10.3	7.0	29.8	9.1	3.9
3082	52.7	22.4	12.2	5.2	28.5	7.9	3.5
2204	55.6	23.2	13.8	6.6	25.7	8.6	3.7

23201.03

■「工学部」新学科に興味や関心があると思う理由 (各学科に興味や関心があり／各複数回答)

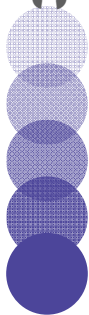
Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きします。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてののみお答えください。



調査数	「学科の内容が魅力的」	「学びのポイントが魅力的」	「卒業後の主な進路が魅力的」	学部として魅力的	その他	無回答	平均回答個数
3834	47.4	17.7	23.9	6.1	24.9	8.5	2.8
2312	50.3	21.2	20.7	8.6	22.8	7.5	4.2
1859	50.4	23.2	16.7	8.1	24.0	7.7	4.0
2754	44.7	18.4	23.6	7.3	24.3	8.9	3.8
3463	48.0	21.6	24.3	5.8	27.1	8.5	3.2
1804	49.3	19.3	16.9	6.0	27.2	8.8	3.4

23201.01



3－1. 新学部学科の中で受験したいと思う学科(「第一希望の学科」と回答した割合)

- ▶最も希望の多かった学科は、「工学部・機械工学科」(5.5%)、次いで「工学部・情報通信システム工学科」(5.2%)

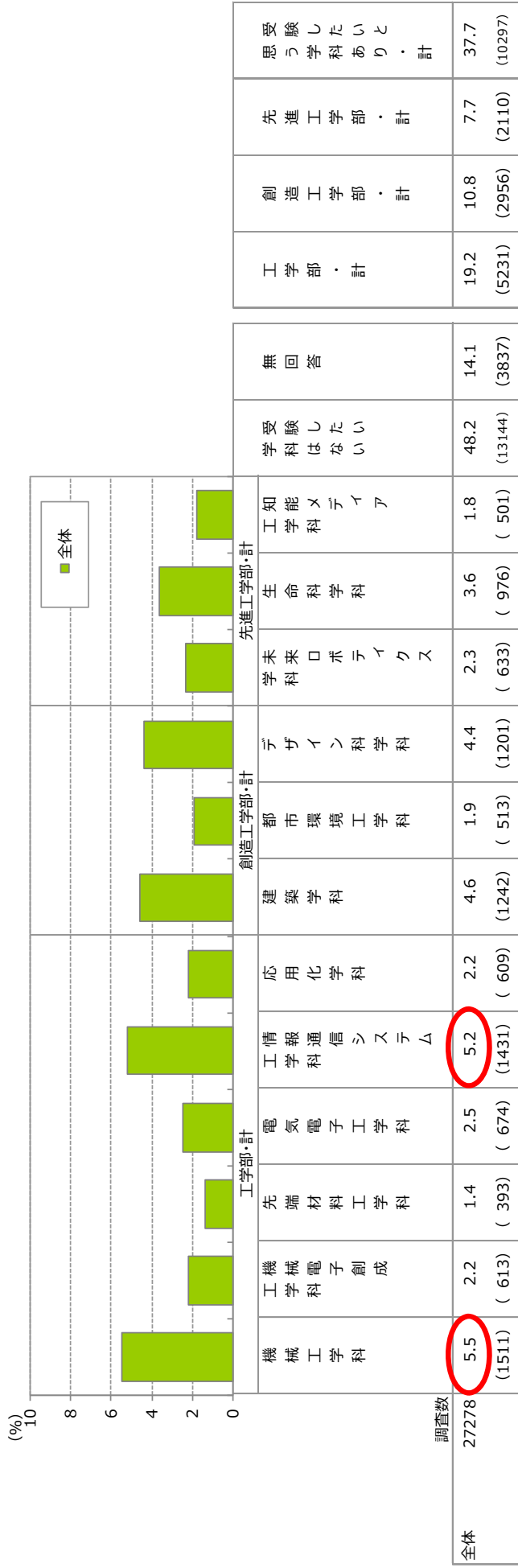
－「創造工学部・建築学科」と「創造工学部・デザイン科学科」が4%台。

- ▶学部別まとめると、「工学部・計」への希望が最も高い。

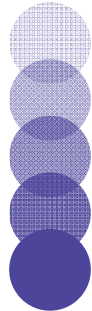
「工学部・計」 **19%**／「創造工学部・計」 **11%**／「先進工学部・計」 **8%**

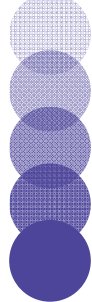
■新学部の中で受験したいと思う学科：第一希望（全体／単一回答）

Q3. 千葉工業大学の新しい12の学科の中で、あなたが受験したい（AO入試・推薦含む）と思う学科を第一希望から第三希望まで、右下の回答欄にアルファベットを記入してください。※受験したい学科はない方は、「X. 受験したい学科はない」に○をつけてください



※下段（ ）内の数字は人数





3-2. 新学部学科の中で受験したいと思う学科(「第一希望の学科」と回答した割合):属性別

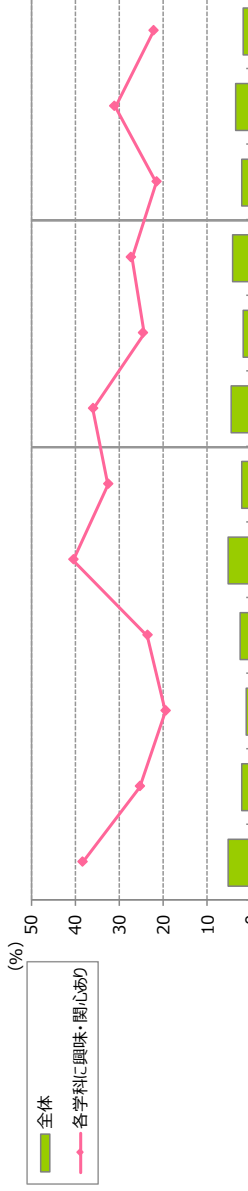
▶ 学科ごとの興味・関心層(「各学科に興味・関心あり」)の受験意向は、全学科とも20%以上。

中でも、「工学部・情報通信システム工学科」では4割、「工学部・機械工学科」「工学部・応用化学科」「創造工学部・建築学科」「先進工学部・生命科学科」では3割以上。

- 性別にみると、男性は「工学部・機械工学科」「工学部・情報通信システム工学科」で女性を5ポイント以上上回り、女性には「創造工学部・デザイン科学科」で男性を4ポイント上回っている。
- 大学進学意向者の学科別受験意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- 進学希望分野別にみると、分野ごとに受験意向の高い学科が異なる。
 - ・工学:「工学部・機械工学科」(22%) / 理学:「工学部・応用化学科」(13%) / 情報学:「工学部・情報通信システム工学科」(51%) / 農学:「先進工学部・生命科学科」(15%) / 芸術学:「創造工学部・デザイン科学科」(26%)
- 高校所在地別にみると、「栃木県」「関東以外・計」で「機械電子創成工学科」への受験意向がやや高い。

■新学部の中で受験したいと思う学科：第一希望（属性別）（全体／単一回答）

Q3. 千葉工業大学の新しい12の学科の中で、あなたが受験したい（AO入試・推薦含む）と思う学科を第一希望から第三希望まで、右下の回答欄にアルファベットを記入して下さい。※受験したい学科がない方は、「X. 受験したい学科はない」に○をつけて下さい。



		工学部・計				創造工学部・計				先進工学部・計				学受 はし ない	無 回 答	工 学 部 ・ 計	先 進 工 学 部 ・ 計	思 受 う 学 科 あ い と ・ 計
		機 械 工 学 科	機 械 電 子 創 成	先 端 材 料 工 学 科	電 気 電 子 工 学 科	工 学 情 報 通 信 シ ス テ ム	応 用 化 学 科	建 築 学 科	都 市 環 境 工 学 科	デ ザ イ ン 工 学 科	学 科 未 来 ロ ボ テ ィ ク ス	生 命 科 学 科	工 学 メ テ ア					
全体	調査数	5.5	2.2	1.4	2.5	5.2	2.2	4.6	1.9	4.4	2.3	3.6	1.8	48.2	14.1	19.2	10.8	37.7
性別	男性	16657	8.6	3.4	2.0	3.8	2.6	5.8	2.3	2.8	2.7	3.3	2.4	38.1	14.5	28.0	11.0	47.4
	女性	10473	0.8	0.4	0.6	1.3	1.7	2.5	1.2	6.9	1.6	4.0	1.0	64.3	13.4	5.1	10.6	22.3
希望進路別	進学希望・計	24034	5.9	2.3	1.5	2.6	2.5	4.9	2.0	4.6	2.5	3.9	2.0	49.2	10.5	20.4	11.5	40.3
	大学	19784	6.2	2.5	1.6	2.9	2.9	5.4	2.3	4.3	2.7	4.3	2.1	46.6	10.3	22.1	11.9	43.1
	短期大学	594	2.7	1.0	0.7	1.7	1.2	1.3	0.5	6.1	1.0	1.7	1.9	66.7	13.5	7.4	7.9	19.9
	専門学校	3656	4.5	1.7	0.8	1.5	0.2	2.9	1.0	6.0	1.5	1.8	1.4	60.5	11.5	13.4	9.9	28.0
進学希望なし・計	3205	3.0	1.8	1.1	1.4	1.9	0.5	2.0	0.9	3.2	1.2	1.3	0.7	40.5	40.4	9.8	6.1	19.1
進学希望分	工学	4536	21.8	8.7	4.1	8.2	2.9	15.7	4.6	4.0	3.4	1.8	2.9	10.8	5.7	51.1	24.4	83.5
	理学	1849	5.6	1.6	2.1	4.9	3.0	3.1	2.2	1.6	3.6	9.6	2.4	37.9	9.6	30.0	6.9	52.5
	情報学	1609	1.9	1.7	0.8	3.5	50.9	0.6	0.4	2.9	1.1	2.4	8.2	18.1	7.1	59.2	3.9	74.8
	農学	687	2.8	0.4	0.6	0.9	1.2	4.4	5.2	3.3	8.3	15.4	1.2	45.4	8.0	10.2	11.5	46.6
	芸術学	862	0.8	0.6	0.7	1.4	0.1	2.0	0.6	26.2	0.9	1.3	2.3	56.0	6.8	3.8	28.8	37.1
高校所在地	関東・計	25296	5.5	1.9	1.2	2.4	5.1	4.6	1.7	4.4	2.2	3.6	1.6	49.2	14.6	18.3	10.6	36.3
	千葉県	12323	5.4	1.3	0.9	2.2	4.5	3.9	1.5	4.5	1.7	3.3	1.3	50.0	17.7	16.0	10.0	32.3
	茨城県	3099	6.1	1.8	1.5	2.4	6.2	5.1	1.9	5.1	2.1	3.7	1.8	49.4	10.8	20.1	12.0	39.8
	栃木県	893	2.4	10.3	3.0	2.0	5.6	6.3	1.5	3.2	5.0	2.6	1.9	49.2	3.6	26.8	11.0	47.3
	群馬県	205	2.9	5.9	2.4	3.4	2.9	5.9	2.4	7.3	5.4	3.4	2.4	52.2	1.5	19.5	15.6	46.3
	埼玉県	3191	8.1	1.4	1.1	3.4	7.1	2.8	2.1	3.4	1.8	5.3	1.9	43.6	12.7	23.8	11.0	43.7
	東京都	4587	4.8	1.9	1.2	2.4	5.4	2.8	1.5	4.6	3.0	3.7	1.7	48.2	13.4	18.5	11.5	38.4
	神奈川県	998	4.0	3.0	1.8	1.6	1.5	3.0	1.4	4.2	2.5	1.8	1.7	59.6	11.1	14.6	8.6	29.3
関東以外・計	1814	3.3	7.3	5.2	3.5	6.7	1.6	4.3	4.9	4.7	3.6	3.7	4.4	38.6	8.2	27.6	13.9	53.2
各学科に興味・関心あり		3834	25.3	19.5	23.6	40.4	32.5	36.0	24.4	27.2	21.5	31.0	22.2					
		(3834)	(2312)	(1859)	(2754)	(3463)	(1804)	(3383)	(2029)	(4217)	(2810)	(3082)	(2204)					

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※「各学科に興味・関心あり」の下段（ ）内の数字はn数



4. 学科別の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合)

▶全学科とも受験意向者の1割以上が「入学したいと思う」と回答。
実人数でみると、全学科とも100人以上の入学意向者があり。

- 実人数の上位3学科は、
「工学部・機械工学科」 317人
「工学部・情報通信システム工学科」 293人
「創造工学部・建築学科」 289人

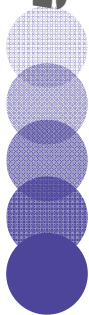
■ 入学意向（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思いますか。お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。

	意向・計			入学をあまり検討しないと思う	入学することはないと思う	無回答
	入学したいと思う	入学を検討したいと思う	入学をあまり検討しないと思う			
● 凡例						
【工学部】	機械工学科 (n=1511)	21.0%	43.6	21.4	10.3	3.7
	機械電子創成工学科 (n= 613)	25.4	45.0	17.1	9.3	3.1
	先端材料工学科 (n= 393)	32.1	34.6	18.8	11.7	2.8
	電気電子工学科 (n= 674)	23.0	45.3	19.6	10.1	2.1
	情報通信システム工学科 (n=1431)	20.5	47.9	21.2	8.0	2.4
	応用化学科 (n= 609)	19.4	36.0	28.7	13.3	2.6
【創造工学部】	建築学科 (n=1242)	23.3	40.3	22.2	11.6	2.7
	都市環境工学科 (n= 513)	26.1	38.0	22.2	10.1	3.5
	デザイン科学科 (n=1201)	11.6	33.2	31.6	21.2	2.3
	未来ロボティクス学科 (n= 645)	19.7	39.2	25.0	14.6	1.6
【先進工学部】	生命科学科 (n= 976)	12.5	39.7	30.7	15.6	1.5
	知能メデイア工学科 (n= 501)	34.1	36.7	19.0	8.4	1.8

意向・計	意向・計 (人数)		(参考) 受験意向者全体(*)ベース
	入学したいと思う (人数)	意向・計 (人数)	
64.6	317人	976人	3.1
70.5	156人	432人	1.5
66.7	126人	262人	1.2
68.2	155人	460人	1.5
68.3	293人	978人	2.8
55.3	118人	337人	1.1
63.5	289人	789人	2.8
64.1	134人	329人	1.3
44.8	139人	538人	1.3
58.9	127人	380人	1.2
52.2	122人	509人	1.2
70.9	171人	355人	1.7

※n= 10309 22401

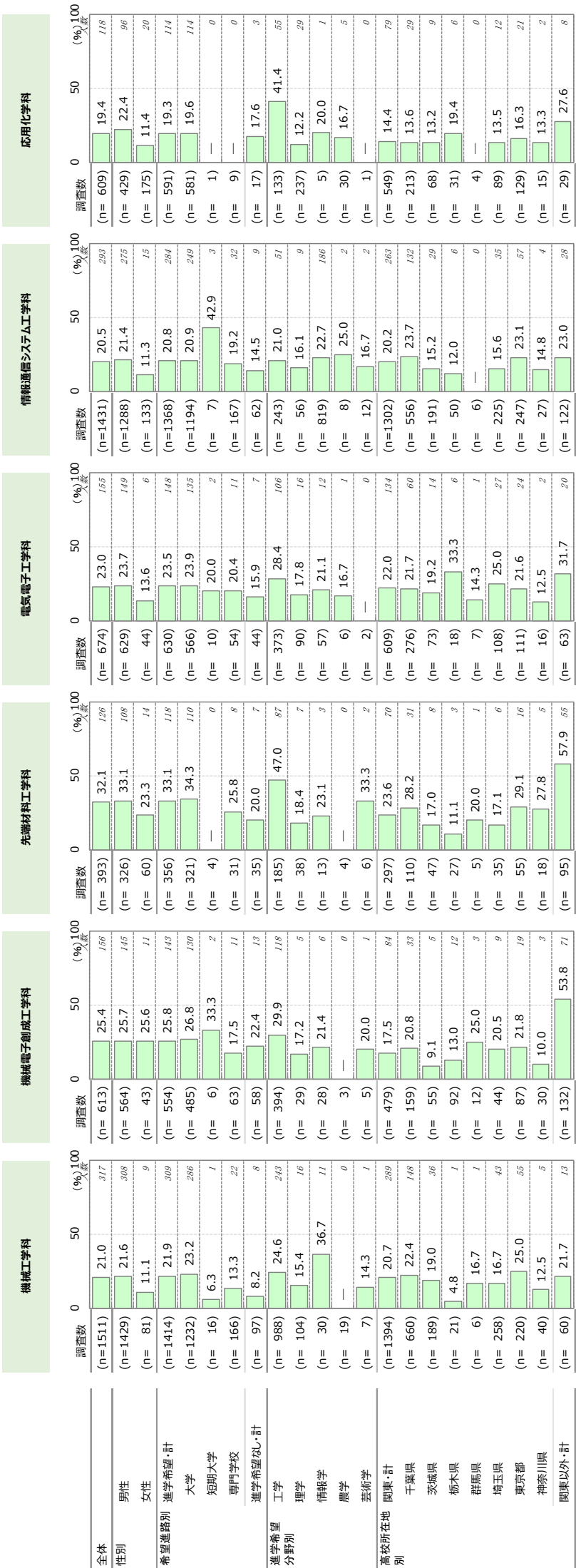


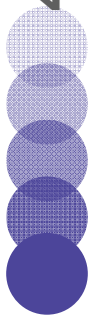
5－1．工学部 各学科の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合)：属性別

- ▶性別にみると、「機械電子創成工学科」のみ男女差がなく、その他の5学科では、男性が女性より10ポイント前後高い。
- ▶大学進学意向者の入学意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- ▶進路希望分野による学科別入学意向の特徴。
 - － 工学進路希望者では、「応用化学科」への入学意向が全体より22ポイント高く、「先端材料工学科」への入学意向も全体より15ポイント高い。

■「工学部」学科別の入学意向：「入学したい」一覧（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思いますか。お気持ちに「最も近い番号を1つお選びください」。





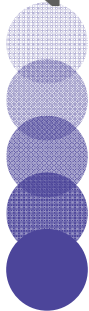
4-2. 創造工学部 各学科の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合):属性別

- ▶性別にみると、全学科とも、男性が女性より8～14ポイント高い。
- ▶大学進学意向者の入学意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- ▶進路希望分野による学科別入学意向の特徴。
 - 工学進学希望者では、「都市環境工学科」への入学意向が全体より20ポイント高く、「デザイン工学科」への入学意向も全体より14ポイント高い。

■「創造工学部」学科別の入学意向：「入学したい」一覧（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思えますか、お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。

建築学科			都市環境工学科			デザイン工学科		
	調査数	(%)	調査数	(%)	調査数	(%)	調査数	(%)
全体	(n=1242)	23.3	289	26.1	134	11.6	139	18.2
性別								
男性	(n= 973)	26.2	255	28.2	109	18.2	85	7.5
女性	(n= 258)	12.0	31	20.0	25	7.5	54	11.7
希望進路別								
進学希望・計	(n=1175)	24.1	283	26.4	128	11.7	128	12.4
大学	(n=1060)	24.8	263	27.4	122	12.4	104	5.6
短期大学	(n= 8)	37.5	3	—	0	—	2	10.0
専門学校	(n= 107)	15.9	17	17.1	6	10.0	22	10.9
進学希望なし・計	(n= 65)	9.2	6	20.7	6	10.9	11	25.7
工学	(n= 714)	31.7	226	45.7	96	25.7	47	17.2
進学希望分野別								
理学	(n= 58)	20.7	12	7.3	3	17.2	5	14.9
情報学	(n= 9)	22.2	2	42.9	3	14.9	7	—
農学	(n= 20)	30.0	6	11.1	4	—	0	13.3
芸術学	(n= 17)	17.6	3	20.0	1	13.3	30	10.9
高校所在地別								
関東・計	(n=1162)	22.7	264	17.9	75	10.9	121	11.6
千葉県	(n= 485)	23.7	115	19.4	37	11.6	64	5.7
茨城県	(n= 157)	15.3	24	8.6	5	5.7	9	10.3
栃木県	(n= 56)	16.1	9	46.2	6	10.3	3	6.7
群馬県	(n= 12)	33.3	4	20.0	1	6.7	1	16.7
埼玉県	(n= 176)	27.3	48	15.2	10	16.7	18	11.4
東京都	(n= 246)	24.0	59	21.1	15	11.4	24	4.8
神奈川県	(n= 30)	16.7	5	7.1	1	4.8	2	20.9
関東以外・計	(n= 78)	30.8	24	64.8	57	20.9	18	—

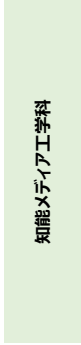
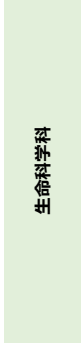
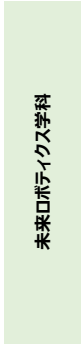


4－3．先進工学部 各学科の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合)：属性別

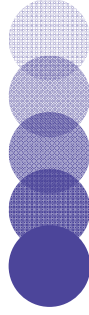
- ▶性別にみると、「未来ロボティクス学科」と「生命科学科」では、男性が女性より10ポイント程度高い。
- ▶大学進学意向者の入学意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- ▶進路希望分野による学科別入学意向の特徴。
 - －工学進学希望者では、各学科への入学意向が全体より10ポイント以上高い。
 - －情報学進学希望者では、「生命科学科」への入学意向が全体より27ポイント高く、「知能メディア工学科」への入学意向も全体より12ポイント高い。

■「先進工学部」学科別の入学意向：「入学したい」一覧（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思えますか。お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。



全体	(n= 633)	18.2	115
性別			
男性	(n= 454)	21.4	97
女性	(n= 171)	10.5	18
希望進路別			
進学希望・計	(n= 596)	18.6	111
大学	(n= 535)	18.9	101
短期大学	(n= 6)	—	0
専門学校	(n= 55)	18.2	10
進学希望なし・計	(n= 37)	10.8	4
進学希望分野別			
工学	(n= 152)	32.9	50
理学	(n= 66)	19.7	13
情報学	(n= 18)	16.7	3
農学	(n= 57)	17.5	10
芸術学	(n= 8)	—	0
高校所在地別			
関東・計	(n= 550)	15.1	83
千葉県	(n= 210)	19.5	41
茨城県	(n= 65)	12.3	8
栃木県	(n= 45)	6.7	3
群馬県	(n= 11)	—	0
埼玉県	(n= 56)	17.9	10
東京都	(n= 138)	12.3	17
神奈川県	(n= 25)	16.0	4
関東以外・計	(n= 65)	24.6	16



【調査結果】入学意向者の特徴

入学意向者プロフィール：性別／高校所在地

性別

▲入学意向者の全体の男女比は、男子87%、女子12%。

- 「工学部・機械工学科」「工学部・電気電子工学科」の入学意向者は、男子が95%以上、「創造工学部・デザイン科学科」の入学意向者は、4割弱が女子、「先進工学部・生命科学科学科」の入学意向者でも、2割が女子。

△所在地▽

▲入学意向者全体では、関東が81%、うち、千葉県の高校がが8%。

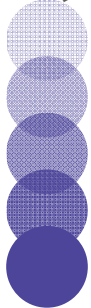
- 「工学部・機械工学科」の入学意向者は、千葉県が約5割、
- 「工学部・情報通信システム工学科」「創造高学部・デザイン科学科」
- 「先進工学部・未来ロボティクス学科」の入学意向者は、千葉県が4割台。

■性別 (全体/単一回答)

●凡例		男	女	無回答
全体	(n=27278)	61.1%		38.4
入学意向者全体	(n=2135)	87.4	11.9	0.5
工学部の 機械工学科	(n=317)	97.2	2.8	0.7
学科別入学意向： 「入学したい」	(n=156)	92.9	7.1	—
機械電子創成工学科	(n=126)	85.7	11.1	3.2
先端材料工学科	(n=155)	96.1	3.9	—
電気電子工学科	(n=293)	93.9	5.1	1.0
情報通信システム工学科	(n=118)	81.4	16.9	1.7
応用化学科	(n=289)	88.2	10.7	1.0
創造工学部の 建築学科	(n=134)	81.3	18.7	—
学科別入学意向： 「入学したい」	(n=139)	61.2	38.8	—
都市環境工学科	(n=115)	84.3	15.7	—
デザイン工学科	(n=122)	77.9	20.5	1.6
先進工学部の 未来ロボティクス学科	(n=171)	84.8	14.6	0.6
学科別入学意向： 「入学したい」				24001

■ 高校所在地 (全体/単一回答)

	●凡例	関東・計						関東以外・ 計	
		千葉県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	東京都		神奈川県
全体	(n=27110)								93.3
入学意向者全体	(n= 2038)								80.5
工学部の	(n= 302)								
学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 155)								95.7
機械電子創成工学科	(n= 125)								54.2
先端材料工学科	(n= 154)								56.0
電気電子工学科	(n= 291)								87.0
情報通信システム工学科	(n= 87)								87.0
応用化学科	(n= 288)								90.4
創造工学部の	(n= 132)								91.7
建築学科	(n= 139)								56.8
学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 99)								87.1
都市環境工学科	(n= 122)								83.8
デザイン科学科	(n= 144)								78.7
未来ロボティクス学科									56.9
生命科学科									
知能メディア工学科									



入学意向者プロフィール：高校卒業後の希望進路

＜高校卒業後の進路＞

▶ 入学意向者全体では、進学希望者が95%に達し、うち、88%が「大学進学」を希望。

■ 高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）

F2. あなたは高校卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか。最も進みたい進路をひとつお選びください。

	● 凡例	進学希望・計			進学希望なし・計			進学希望・計	進学希望なし・計
		大学進学希望・計		専門学校 (4年制・6年制)	就職	その他	無回答		
		大学	短期大学						
全体	(n= 27278)	72.5%	2.2	13.4	10.0	17.1	88.1	11.7	
入学意向者全体	(n= 2135)	87.3	0.7	7.3	4.0	5.1	88.1	4.5	
工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 317)	90.2	0.6	9.2	0.3	—	90.5	2.5	
機械工学科	(n= 156)	83.3	1.3	7.1	1.3	—	91.7	8.3	
機械電子創成工学科	(n= 126)	87.3	—	6.3	4.8	0.8	87.3	5.6	
先端材料工学科	(n= 155)	87.1	1.3	7.1	2.3	—	88.4	4.5	
電気電子工学科	(n= 293)	85.0	1.0	10.9	2.0	2.7	88.4	4.5	
情報通信システム工学科	(n= 118)	96.6	—	—	—	0.8	86.0	3.1	
応用化学科	(n= 289)	91.0	—	—	—	—	92.0	2.1	
建築学科	(n= 134)	91.0	—	—	—	—	91.0	4.5	
学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 139)	74.8	1.4	15.8	7.9	—	92.1	7.9	
デザイン科学科	(n= 115)	87.8	—	—	—	—	87.8	3.5	
創造工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 122)	84.4	0.8	5.7	7.4	0.8	91.0	8.2	
未来ロボティクス学科	(n= 171)	86.0	—	—	—	—	87.1	7.0	
生命科学科									
知能メディア工学科									

24011

＜進学先で学びたい最も興味のある分野＞

▶入学意向者全体では、「工学」が最も高く(57%)、「情報学」(15%)、「理学」(7%)が続く。

【学科別の入学意向者の特徴】

- 「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「建築学科」「都市環境工学科」(以上、工学部)、「創造工学科」では、「工学」が7割以上。
- 「工学部・情報通信システム工学科」では「情報学」(66%)が最も高い。
- 「工学部・応用化学科」では、「工学」(48%)が最も高く、「理学」(25%)も高い。
- 「創造工学部・デザイン科学科」では、「工学」(37%)が最も高く、「芸術学」(23%)も高い。
- 「先進工学部・未来ロボティクス学科」では、「工学」(45%)が最も高い。
- 「先進工学部・生命科学科」では、「工学」「理学」「農学」「情報学」が14～17%と高い。
- 「先進工学部・知能メディア工学科」では、「工学」「情報学」が4割前後と高い。

■進学先で学ぶ最も興味がある分野（進学希望者／単一回答）

F3SQ1. F3で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号を右下の回答欄にお書きください。

(%)

		調査数		工学	理学	教育学・保育学	情報学	看護学	経済学・経営学	保健学の医療技術	スポーツ学	薬学	食物栄養学	家政学	芸術学	外国語学	獣医学・歯学	医学	心理学	文学	法学・政治学	社会学	国際関係学	教育学・福祉学	その他	無回答	
全体		24034	18.9	7.7	7.5	6.7	6.4	5.6	4.5	3.9	3.8	3.7	3.6	3.4	3.2	2.9	2.6	2.6	2.6	1.7	1.1	1.0	1.0	0.9	0.9	5.6	2.7
入学意向者全体		2036	57.1	6.8	1.3	15.2	0.6	1.6	1.2	1.4	1.3	0.8	2.2	0.9	0.9	2.3	0.9	2.3	0.9	1.0	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	1.9	1.9
工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」		309	78.6	5.2	1.0	3.6	—	—	1.4	1.0	0.6	0.3	0.3	1.0	1.3	—	0.3	1.3	—	0.3	0.6	—	0.3	—	1.0	1.3	1.3
機械電子創成工学科		143	82.5	3.5	0.7	4.2	—	—	1.4	2.8	—	0.7	—	0.7	—	0.7	—	0.7	—	—	—	—	—	—	0.7	2.1	0.8
先端材料工学科		118	73.7	5.9	—	2.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.7	2.5	—	—	—	—	—	6.8	—	—	—	1.7	—	—	—
電気電子工学科		148	71.6	10.8	0.7	8.1	0.7	—	0.7	0.7	2.7	—	—	—	—	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	—	1.4	1.4	—
情報通信システム工学科		284	18.0	3.2	1.1	65.5	—	—	3.2	0.7	0.7	0.7	0.7	—	—	0.7	—	—	—	—	0.4	0.4	—	—	0.4	3.5	—
応用化学科		114	48.2	25.4	2.6	0.7	—	—	—	1.8	5.3	3.5	—	—	0.9	4.4	0.9	0.9	0.9	0.9	—	—	0.9	—	—	—	3.5
建築学科		283	79.9	4.2	0.7	0.7	0.7	0.7	2.1	0.7	1.1	—	1.1	0.7	—	2.1	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	2.1	1.8	—
学科別入学意向： 「入学したい」		128	75.0	2.3	1.6	2.3	0.8	2.3	1.6	0.8	0.8	—	0.8	—	—	—	—	—	—	0.8	—	2.3	0.8	—	3.1	0.8	—
デザイン科		128	36.7	3.9	3.9	5.5	2.3	—	0.8	4.7	—	3.1	23.4	1.6	0.8	—	—	—	3.1	—	—	—	—	—	8.6	1.6	—
先進工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」		111	45.0	11.7	0.9	2.7	2.7	3.6	5.4	2.7	1.8	—	—	0.9	4.5	9.0	1.8	—	—	—	0.9	0.9	—	—	3.6	1.8	—
未来ロボティクス学科		111	17.1	15.3	0.9	13.5	—	0.9	3.6	1.8	6.3	1.8	0.9	1.8	6.3	15.3	3.6	—	—	—	—	—	—	—	3.6	4.5	—
生命科学科		159	40.3	3.8	2.5	38.4	—	1.3	0.6	3.1	—	1.3	2.5	1.9	—	0.6	1.3	0.6	—	—	—	—	—	—	—	1.3	—
知能メディア工学科		159	40.3	3.8	2.5	38.4	—	1.3	0.6	3.1	—	1.3	2.5	1.9	—	0.6	1.3	0.6	—	—	—	—	—	—	—	1.3	—

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体で降順ソート

入学意向者プロフィール：新学部・学科への興味・関心

<新学部・学科への興味・関心>

▶入学意向者全体では、「工学部・機械工学科」が最も高く(33%)、「工学部・情報通信システム工学科」「創造工学部・建築学科」「創造工学部・電気電子工学科」「工学部・機械電子創成工学科」が2割台。

- 学科別の入学意向者を見ると、全般的に、同じ学科や学部への興味・関心が高い傾向。

- ・また、先進工学部の入学意向者は、工学部への興味・関心も高い傾向。
未来ロボティクス学科・入学意向者：「機械工学科」への興味・関心が3割、「電気電子工学科」「機械電子創成工学科」への興味・関心が2割台。
生命科学学科・入学意向者：「情報通信システム工学科」「応用化学科」への興味・関心が2割前後。
知能メディア工学科・入学意向者：「情報通信システム工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」への興味・関心が2割台。

■新学部で興味や関心のある学科（全体／複数回答）

Q1. 千葉工業大学の新しい12の学科について、あなたが興味や関心のある学科をすべてお選びください。※すべての学科に興味・関心のない方は、「X. すべての学科に興味・関心がない」をお選びいただき、Q3へお進みください。

(%)

調査数		興味や関心のある学科あり・計																興味や関心のない				興味や関心のない				平均回答数
		工学部・計				創造工学部・計				先進工学部・計																
		機械工学科	工学部・計	先端材料工学科	電気電子工学科	情報通信システム	応用化学科	建築学科	都市環境工学科	デザイン科学科	学未来ロボティクス	生命科学科	生命科学科	工学部・計	創造工学部・計	先進工学部・計										
全体	27278	14.1	8.5	6.8	10.1	12.7	6.6	7.4	15.5	10.3	11.3	8.1	40.3	7.0	32.9	25.5	23.1	52.6	2.35							
入学意向者全体	工学部の学科別入学意向：「入学したい」	317	98.7	27.4	15.1	34.1	20.2	5.4	19.2	6.3	8.2	21.1	6.9	0.9	73.1	43.1	40.0	99.4	2.59							
	機械工学科	156	25.0	98.7	31.4	21.8	19.2	3.2	8.3	10.3	12.2	7.1	21.8	—	98.7	28.4	27.1	99.1	2.69							
	先端材料工学科	126	42.1	34.1	97.6	16.7	14.3	15.1	15.9	11.9	12.7	13.5	19.8	0.8	98.4	23.8	31.7	98.4	3.15							
	電気電子工学科	155	30.3	29.0	14.2	97.4	36.1	8.4	11.6	8.4	9.7	17.4	7.1	6.5	98.1	24.5	21.9	98.7	2.80							
	情報通信システム工学科	293	23.9	15.0	8.5	34.1	99.3	5.8	6.1	4.8	9.6	16.0	8.2	11.9	99.3	16.4	28.0	99.7	2.44							
	応用化学科	118	22.0	12.7	11.0	15.3	5.1	97.5	13.6	11.0	14.4	17.8	16.9	7.6	97.5	27.1	36.4	100.0	2.45							
	建築学科	289	18.7	7.3	6.9	8.0	5.2	2.8	99.3	28.7	37.7	8.7	4.8	4.8	—	28.4	99.3	14.2	99.3	2.34						
創造工学部の学科別入学意向：「入学したい」	都市環境工学科	134	11.2	9.7	11.9	6.7	7.5	6.0	42.5	99.3	29.9	9.0	9.7	11.2	32.1	99.3	23.9	100.0	2.54							
	デザイン科学科	139	16.5	5.0	3.6	7.2	13.7	1.4	35.3	13.7	98.6	15.1	12.9	10.8	33.8	98.6	29.5	99.3	2.36							
	未来ロボティクス工学科	115	30.4	20.9	11.3	23.5	13.9	13.0	15.7	13.9	8.7	98.3	14.8	15.7	63.5	29.6	98.3	100.0	2.80							
先進工学部の学科別入学意向：「入学したい」	生命科学科	122	9.8	8.2	9.0	13.1	25.4	19.7	9.0	11.5	9.0	12.3	100.0	18.0	46.7	18.9	100.0	100.0	2.45							
	知能メディア工学科	171	10.5	25.7	20.5	18.1	27.5	5.8	7.0	4.7	14.6	17.0	16.4	97.7	63.2	21.6	99.4	100.0	2.65							

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



入学意向者プロフィール：新学部・学科への興味・関心の理由

<【工学部】新学科への興味・関心の理由：入学意向者における特徴>

- 機械工学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が19ポイント高くなる。
- 機械電子創成工学科・入学意向者：『大学として魅力的』が23ポイント高くなる。
- 先端材料工学科・入学意向者：『学科の内容』が魅力的」が、さらに22ポイント高くなる。
- 電気電子工学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が20ポイント高くなる。
- 情報通信システム工学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が16ポイント高くなる。
- 応用化学科・入学意向者：『学部として魅力的』が16ポイント高くなる。

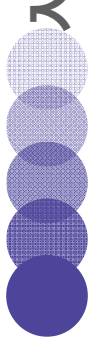
■「工学部」新学科の 学部に興味や関心があると思う理由 （各学科に興味や関心があり／各複数回答）

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞かせします。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてのみお答えください。

（%）						
	「学科の内容」が魅力的	「学びのポイント」が魅力的	「卒業後の主な進路」が魅力的	大学として魅力的	学部として魅力的	その他
【工学部】機械工学科						
全体 (n=3834)	47.4	17.7	23.9	6.1	24.9	8.5
入学したい (n=313)	50.2	22.0	42.5	8.3	26.2	4.8
入学したいー全体	2.8	4.3	18.6	2.2	1.3	- 3.7
【工学部】機械電子創成工学科						
全体 (n=2312)	50.3	21.2	20.7	8.6	22.8	7.5
入学したい (n=154)	66.9	14.3	31.2	31.8	18.2	1.9
入学したいー全体	16.6	- 6.9	10.5	23.2	- 4.6	- 5.6
【工学部】先端材料工学科						
全体 (n=1859)	50.4	23.2	16.7	8.1	24.0	7.7
入学したい (n=123)	72.4	23.6	17.9	17.1	17.9	4.1
入学したいー全体	22.0	0.4	1.2	9.0	- 6.1	- 3.6
【工学部】電気電子工学科						
全体 (n=2754)	44.7	18.4	23.6	7.3	24.3	8.9
入学したい (n=151)	58.9	21.2	43.7	13.9	22.5	5.3
入学したいー全体	14.2	2.8	20.1	6.6	- 1.8	- 3.6
【工学部】情報通信システム工学科						
全体 (n=3463)	48.0	21.6	24.3	5.8	27.1	8.5
入学したい (n=291)	55.7	29.6	40.5	10.3	36.8	7.2
入学したいー全体	7.7	8.0	16.2	4.5	9.7	- 1.3
【工学部】応用化学科						
全体 (n=1804)	49.3	19.3	16.9	6.0	27.2	8.8
入学したい (n=115)	57.4	32.2	22.6	11.3	43.5	3.5
入学したいー全体	8.1	12.9	5.7	5.3	16.3	- 5.3

※各学科ごと全体に比べ傾向者、計のスコアが ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



入学意向者プロフィール：新学部・学科への興味・関心の理由

<【創造工学部】新学科への興味・関心の理由：入学意向者における特徴>

- 建築学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が22ポイント高くなる。
- 都市環境工学科・入学意向者：『学科の内容』が魅力的」が、さらに18ポイント高くなる。
- デザイン科学科・入学意向者：『学科の内容』が魅力的」が、さらに21ポイント、『卒業後の主な進路』が魅力的」が19ポイント高くなる。

<【先進工学部】新学科への興味・関心の理由：入学意向者における特徴>

- 未来ロボティクス学科・入学意向者：『『学科の内容』が魅力的」が、さらに18ポイント高くなる。
- 生命科学科・入学意向者：『『卒業後の主な進路』が魅力的」が13ポイント高くなる。
- 知能メディア工学科・入学意向者：『『学科の内容』が魅力的」が、さらに22ポイント高くなる。

■「創造工学部」新学科の学部に興味や関心があると思う理由（各学科に興味や関心があり／各複数回答）

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きます。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由として^①下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてのみお答えください。

【創造工学部】建築学科								(%)	
「学科の内容」が 魅力的	「学びの ポイント」が 魅力的	「卒業後の 主な進路」が 魅力的	大学として 魅力的	学部として 魅力的	その他	無回答	平均回答個数		
全体 (n=3383)	40.4	17.7	28.9	5.7	28.4	9.7	4.0		1.36
入学したい (n=287)	49.1	24.4	50.5	11.8	31.7	6.6	1.4		1.77
入学したいー全体	8.7	6.7	21.6	6.1	3.3	- 3.1	- 2.6		0.41
【創造工学部】都市環境工学科								(%)	
全体 (n=2029)	45.9	21.2	19.4	6.6	26.1	8.5	4.6		1.34
入学したい (n=133)	63.9	24.1	30.8	12.0	29.3	5.3	2.3		1.69
入学したいー全体	18.0	2.9	11.4	5.4	3.2	- 3.2	- 2.3		0.35
【創造工学部】デザイン科学科									(%)
全体 (n=4217)	45.2	19.3	14.9	5.2	32.9	8.7	4.1	1.32	
入学したい (n=137)	65.7	28.5	34.3	10.9	38.7	7.3	1.5	1.88	
入学したいー全体	20.5	9.2	19.4	5.7	5.8	- 1.4	- 2.6	0.56	
※各学科で全体に比べ、質問者・計の2コアが ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い									

※各学科にて全体に比べ意向者・計のスコアが ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上低い ■ = 5pt以上低い

■「先進工学部」新学科の学部に興味や関心があると思う理由（各学科に興味や関心があり／各複数回答）

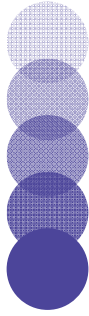
Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きます。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由として^①下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてのみお答えください。

【先進工学部】未来ロボティクス学科								(%)	
「学科の 内容」が 魅力的	「学びの ポイント」が 魅力的	「卒業後の 主な進路」が 魅力的	大学として 魅力的	学部として 魅力的	その他	無回答	平均回答個数		
全体 (n=2810)	53.1	21.2	10.3	7.0	29.8	9.1	3.9		1.36
入学したい (n=113)	70.8	35.4	22.1	15.9	36.3	5.3	—		1.86
入学したいー全体	17.7	14.2	11.8	8.9	6.5	- 3.8	- 3.9		0.50
【先進工学部】生命科学科									
全体 (n=3082)	52.7	22.4	12.2	5.2	28.5	7.9	3.5	1.3	
入学したい (n=122)	59.8	29.5	25.4	10.7	32.0	9.0	2.5	1.7	
入学したいー全体	7.1	7.1	13.2	5.5	3.5	1.1	- 1.0	0.37	
【先進工学部】知能メディア工学科									
全体 (n=2204)	55.6	23.2	13.8	6.6	25.7	8.6	3.7	1.39	
入学したい (n=167)	77.2	25.7	17.4	13.8	28.1	2.4	1.2	1.67	
入学したいー全体	21.6	2.5	3.6	7.2	2.4	- 6.2	- 2.5	0.28	

※各学科ごと全体に比べ、質問書・計のスコアが
■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

※各学科にて全体に比べ意向者・計のスコアが ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上低い ■ = 5pt以上低い



資料：調査票

【参考】千葉工業大学の新学部/学科と関連する他大学の既存学科（続き）

学科名	学部名	大学名	エリア
<工学部 電気電子工学科 関連学科>			
電気電子工学科	工学部	東京電機大学	東京都
		東京都市大学	東京都
		日本工業大学	埼玉県
	生産工学部	千葉県	
	理工学部	日本大学	東京都
<工学部 情報通信システム工学科 関連学科>			
情報通信工学科	工学部	工学院大学	東京都
		東京電機大学	東京都
	知識工学部	東京都市大学	東京都
	工学部	芝浦工業大学	東京都
通信工学科			
<工学部 応用化学学科 関連学科>			
応用化学学科	工学部	工学院大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
	理工学部	東洋大学	埼玉県
	生産工学部	日本大学	千葉県
工業化学科	理工学部	東京理科大学	千葉県
<創造工学部 建築学科 関連学科>			
建築学科	工学部	工学院大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
		東京理科大学	東京都
		東京都市大学	東京都
		日本工業大学	埼玉県
		日本大学	東京都
建築工学科	理工学部	日本大学	千葉県
<創造工学部 都市環境工学科 関連学科>			
都市環境学科	理工学部	中央大学	東京都
		東洋大学	埼玉県
都市環境デザイン学科	理工学部		
都市環境デザイン工学科	デザイン工学部	法政大学	東京都
都市工学科	工学部	東京都市大学	東京都
まちづくり工学科	理工学部	日本大学	東京都
土木工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都
<創造工学部 デザイン科学科 関連学科>			
デザイン学科	工学部	拓殖大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
デザイン工学科	デザイン工学部	日本大学	千葉県
創生デザイン学科	生産工学部		
<先進工学部 未来ロボティクス学科 関連学科>			
ロボット・メカトロニクス学科	未来科学部	東京電機大学	東京都
	創造工学部	神奈川工科大学	神奈川県
機械制御システム学科	理工学部	芝浦工業大学	東京都
<先進工学部 生命科学科 関連学科>			
生命科学科	理工学部	中央大学	東京都
		芝浦工業大学	埼玉県
	システム理工学部	学習院大学	東京都
	農学部	明治大学	神奈川県
応用生物工学科	理工学部	東京理科大学	千葉県
<先進工学部 知能メデア工学科 関連学科>			
システムデザイン工学科	理工学部	慶應義塾大学	神奈川県
	デザイン工学部	法政大学	東京都
システムデザイン学科	デザイン工学部		
表現工学科	基礎理工学部	早稲田大学	東京都
光・画像工学科	工学部	東海大学	神奈川県

千葉工業大学の新学部/学科に関する進学意向調査

調査ご協力をお願い

平成 15 年度に実施した工学部改組以来、科学技術の進歩はめざましく、外部環境は大きく変化しており、同時に大学に求められるものも多様化しています。これらの時代のニーズに合わせてこれまでも学内で様々な改革を進めてきました。創立百周年に向けてさらなる充実を図ることを目的に工学部の改組を検討することとしました。

そこで、このたびの検討をより充実させるために、大学進学を考えている皆さんにご協力をお願いしてアンケート調査を実施し、新しい構想を練り上げる基礎資料とすることに致しました。

ご回答内容については回答結果のみをコンピュータ処理し、個人情報情報が使用されることはございません。

本調査の主旨をご理解いただき、ご協力よろしくお願いいたします。

平成 26 年 10 月
千葉工業大学

★こちらは、質問が書かれた用紙です。回答はすべて、別紙の「マークシート」にご記入ください★
(マークシート内の、あてはまる番号・記号の欄を塗りつぶしてください)

まず、あなたご自身のことについてお聞きます

F1. 性別(単一回答)

1. 男性 2. 女性

F2. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか、最も進みたい進路をひとつお選びください。

(単一回答)

1. 大学(4 年制・6 年制) 2. 短期大学 3. 専門学校
4. 就職 5. その他

※以下の質問は、F2 で選択肢 1 (大学)・2 (短大)・3 (専門学校)のいずれかを選択した方にお聞きします。

F3. 進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか、あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 文学 2. 外国語学 3. 心理学
4. 法学・政治学 5. 経済学・経営学 6. 社会学
7. 福祉学 8. 理学 9. 工学
10. 情報学 11. 農学 12. 医学・歯学・獣医学
13. 薬学 14. 看護学 15. その他の医療技術・保健学
16. 家政学・食物栄養学 17. 教育学・保育学 18. 体育学・スポーツ学
19. 芸術学 20. 教養学・国際関係学 21. その他

SQ. F3 で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号をひとつだけお選びください。

ここからの質問は、平成 28 年 4 月に開設を検討している千葉工業大学の新しい学科に関するご意見をお聞きます

！別添の「新しい学部学科紹介」をよく読んでいただき、お答えください。

Q1. 千葉工業大学の新しい 12 学科について、あなたが興味や関心のある学科をすべてお選びください。(複数回答)
※すべての学科に興味・関心がない方は、「X. すべての学科に興味・関心がない」をお選びいただき、Q3 へお進みください。

- 【工学部】

A. 機械工学科
B. 機械電子創成工学科
C. 先端材料工学科
D. 電気電子工学科
E. 情報通信システム工学科
F. 応用化学科
- 【創造工学部】

G. 建築学科
H. 都市環境工学科
I. デザイン科学科
J. 未来ロボティクス学科
K. 生命科学科
L. 知能メディア工学科
- 【その他】

X. すべての学科に興味・関心がない

→Q3 へお進みください

※Q2は、Q1で選択肢 A～L のいずれかを選択した方にお聞きます。
Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きます。
選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。
(複数回答)
※マークシートの回答欄は 12 学科分ありますが、あなたがQ1 で選んだ学科についてお答えください。

1. 「学科の内容」が魅力的
2. 「学びのポイント」が魅力的
3. 「卒業後の主な進路」が魅力的
4. 大学として魅力的
5. 学部として魅力的
6. その他

Q3. 千葉工業大学の新しい 12 学科について、あなたが受験したい(AO・推薦含む)と願う学科を第一希望から第三希望までお選びください。(1～3つまで回答)
※受験したい学科がない方は、「X. 受験したい学科はない」をお選びください。

- 【工学部】

A. 機械工学科
B. 機械電子創成工学科
C. 先端材料工学科
D. 電気電子工学科
E. 情報通信システム工学科
F. 応用化学科
- 【創造工学部】

G. 建築学科
H. 都市環境工学科
I. デザイン科学科
J. 未来ロボティクス学科
K. 生命科学科
L. 知能メディア工学科
- 【その他】

X. 受験したい学科はない

第一希望	第二希望	第三希望

※Q4は、Q3で選択肢 A～L のいずれかを選択した方にお聞きます。
Q4. Q3で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。
あなたは合格したら入学したいと思えますか。お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。(単一回答)

1. 入学したいと思う
2. 入学を検討したいと思う
3. 入学をあまり検討しないと思う
4. 入学することはないと思う

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございます。

【参考】千葉工業大学の新学部 / 学科と関連する他大学の既存学科

学科名	学部名	大学名	エリア
<工学部 機械工学科 関連学科>			
機械工学科	工学部	工学院大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
		東京電機大学	東京都
		東京理科大学	東京都
		東京都市大学	東京都
		埼玉工業大学	埼玉県
		日本工業大学	埼玉県
		東洋大学	埼玉県
<工学部 機械電子創成工学科 関連学科>			
機械システム工学科	工学部	工学院大学	東京都
		拓殖大学	東京都
		東京都市大学	東京都
機械情報システム学科	工学部	玉川大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
<工学部 先端材料工学科 関連学科>			
機械機能工学科	工学部		
材料工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都
物質応用化学科	理工学部	日本大学	東京都
材料科学科	工学部	東海大学	神奈川県

新学部/学科に関する進学意向調査 回答紙

記入上の注意

1. 記入は必ずH18の黒鉛筆で正確に塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。
4. 正しく記入（塗りつぶし）されていない場合は読みとれません。

記入例

良い例
悪い例

F1. 性別 (単一)

① 男性

② 女性

F2. 希望進路 (単一)

① 大学(4年制・6年制)

② 短期大学

③ 専門学校

④ 就職

⑤ その他

F3. 興味ある分野 (複数)

SQ. 最も興味ある分野 (単一)

文学	外国語学	心理学	法学・政治学	経済学・経営学	社会学	福祉学	理学	工学	情報学	農学	医学	歯学・獣医学	薬学	体育学・スポーツ学	芸術学	教育学・国際関係学	その他
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

Q1. 興味・関心のある学科 (複数)		Q2. その理由 (複数)		Q3. 受験希望学科			
「学ぶ際の目的」		「学ぶ際の目的」		「学ぶ際の目的」		「学ぶ際の目的」	
A. 機械工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
B. 機械電子創成工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
C. 先端材料工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
D. 電気電子工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
E. 情報通信システム工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
F. 応用化学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
G. 建築学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
H. 都市環境工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
I. デザイン科学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
J. 未来ロボティクス学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
K. 生命科学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
L. 知能メディア工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
X. すべての学科に興味・関心がない	①	② 受験したい学科はない					

Q4. 第一希望学科への入学について (単一)

① 入学したいと思う

② 入学を検討したいと思う

③ 入学をあまり検討しないと思う

④ 入学することはないと思う

近隣競合大学の初年度納入金(平成27年度)

出典: 廣告社『逆引き大学辞典』

学科名	学部名	大学名	エリア	初年度納付金
<工学部 機械工学科 関連学科>				
機械工学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		芝浦工業大学	東京都	1,696,230
		東京電機大学	東京都	1,590,800
		東京理科大学	東京都	1,602,280
		東京都市大学	東京都	1,670,000
		埼玉工業大学	埼玉県	1,654,000
		日本工業大学	埼玉県	1,617,700
	理工学部	東洋大学	埼玉県	1,565,000
平均				1,626,896
<工学部 機械電子創成工学科 関連学科>				
機械システム工学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		拓殖大学	東京都	1,540,900
		東京都市大学	東京都	1,670,000
機械情報システム学科	工学部	玉川大学	東京都	1,923,200
機械機能工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
平均				1,689,898
<工学部 先端材料工学科 関連学科>				
材料工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
物質応用化学科	理工学部	日本大学	東京都	1,680,000
材料科学科	工学部	東海大学	神奈川県	1,659,200
平均				1,678,477
<工学部 電気電子工学科 関連学科>				
電気電子工学科	工学部	東京電機大学	東京都	1,590,800
		東京都市大学	東京都	1,670,000
		日本工業大学	埼玉県	1,617,700
		千葉大学	千葉県	1,560,000
	理工学部	法政大学	東京都	1,690,000
平均				1,625,700
<工学部 情報通信システム工学科 関連学科>				
情報通信工学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		東京電機大学	東京都	1,590,800
	知識工学部	東京都市大学	東京都	1,670,000
通信工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
平均				1,644,048
<工学部 応用化学科 関連学科>				
応用化学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		芝浦工業大学	東京都	1,696,230
	理工学部	東洋大学	埼玉県	1,565,000
応用分子化学科	生産工学部	日本大学	千葉県	1,560,000
工業化学科	理工学部	東京理科大学	千葉県	1,614,280
平均				1,610,934
<創造工学部 建築学科 関連学科>				
建築学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
		東京理科大学	東京都	1,587,280
		東京都市大学	東京都	1,670,000
		日本工業大学	埼玉県	1,617,700
	理工学部	日本大学	東京都	1,680,000
建築工学科	生産工学部	日本大学	千葉県	1,560,000
建築学科	建築学部	工学院大学	東京都	1,619,160
平均				1,632,910
<創造工学部 都市環境工学科 関連学科>				
都市環境学科	理工学部	中央大学	東京都	1,718,800
都市環境デザイン学科	理工学部	東洋大学	埼玉県	1,565,000
都市環境デザイン工学科	デザイン工学部	法政大学	東京都	1,690,000
都市工学科	工学部	東京都市大学	東京都	1,670,000
まちづくり工学科	理工学部	日本大学	東京都	1,680,000
土木工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
平均				1,670,005
<創造工学部 デザイン科学科 関連学科>				
デザイン学科	工学部	拓殖大学	東京都	1,540,900
デザイン工学科	デザイン工学部	芝浦工業大学	東京都	1,694,580
創生デザイン学科	生産工学部	日本大学	千葉県	1,560,000
平均				1,598,493
<先進工学部 未来ロボティクス学科 関連学科>				
ロボット・メカトロニクス学科	未来科学部	東京電機大学	東京都	1,590,800
	創造工学部	神奈川工科大学	神奈川県	1,568,000
機械制御システム学科	システム理工学部	芝浦工業大学	東京都	1,698,580
平均				1,619,127
<先進工学部 生命科学科 関連学科>				
生命科学科	理工学部	中央大学	東京都	1,718,800
	システム理工学部	芝浦工業大学	埼玉県	1,698,580
	理学部	学習院大学	東京都	1,725,800
	農学部	明治大学	神奈川県	1,735,500
応用生物工学科	理工学部	東京理科大学	千葉県	1,619,280
平均				1,699,592
<先進工学部 知能メディア工学科 関連学科>				
システムデザイン工学科	理工学部	慶應義塾大学	神奈川県	1,773,350
システムデザイン学科	デザイン工学部	法政大学	東京都	1,690,000
表現工学科	基幹理工学部	早稲田大学	東京都	1,737,000
光・画像工学科	工学部	東海大学	神奈川県	1,659,200
平均				1,714,888

参考: 工学部実績

1,584,500

過去5カ年の求職者(求職者数、求人件数、就職者数)実績

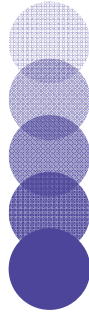
<学部>

学科名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス学科	6,328	262	214	5,730	175	152	6,698	217	195	7,099	249	226	8,092	219	201
電気電子情報工学科	6,437	195	150	5,998	154	139	6,785	194	171	7,254	188	170	8,227	209	196
生命環境科学科	5,727	139	115	5,251	116	101	6,144	155	125	6,471	149	122	7,446	156	138
建築都市環境学科	6,050	217	182	5,518	187	166	6,490	197	182	6,930	213	195	8,041	226	223
デザイン科学科	5,718	112	81	5,256	92	73	6,164	113	85	6,478	105	93	7,476	118	110
未来ロボティクス学科	5,783	43	33	5,311	56	53	6,228	68	67	6,598	67	64	7,594	79	77

<大学院>

専攻名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス専攻	4,212	56	53	3,303	47	43	4,147	35	31	4,745	42	41	5,545	26	23
電気電子情報工学専攻	4,267	38	36	3,381	33	31	4,223	53	52	4,849	44	42	5,662	28	26
生命環境科学専攻	3,859	38	34	3,077	33	33	3,818	37	32	4,383	39	34	5,196	24	22
建築都市環境学専攻	4,043	32	25	3,221	33	26	4,042	28	26	4,627	20	16	5,553	20	18
デザイン科学専攻	3,852	19	16	3,073	22	21	3,830	34	31	4,380	28	26	5,206	20	19
未来ロボティクス専攻				3,126	5	5	3,873	35	35	4,477	24	23	5,301	18	18

千葉工業大学 御中



千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート＜企業対象＞

調査結果報告書

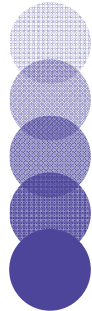
2015年1月

KOKOKUSHA
■ 廣 告 社 株 式 会 社

資料 5

大学専門のマーケティング&リサーチ、コンサルティング会社
廣告タグループ

株式会社 大学ソリューション・パートナーズ



目次

▶ 調査概要	03
▶ 回答企業プロフィール	04
【調査結果】	
▶ サマリ	10
▶ 設置計画案① : 工学部	16
▶ 設置計画案② : 創造工学部	30
▶ 設置計画案③ : 先進工学部	40
▶ 参考 : 千葉工業大学全体に対するご意見・ご要望	51
▶ 資料 : 調査票	53
▶ 資料 : 自由回答集(別紙)	57

▶ 調査目的

- 千葉工業大学で設置を計画している新学部を卒業した学生について、企業に採用意向等を調査し、受容性を確認する。

▶ 調査対象

- 全国の千葉工業大学への求人実績のある企業・団体

▶ 調査方法

- 郵送配布・回収によるアンケート調査

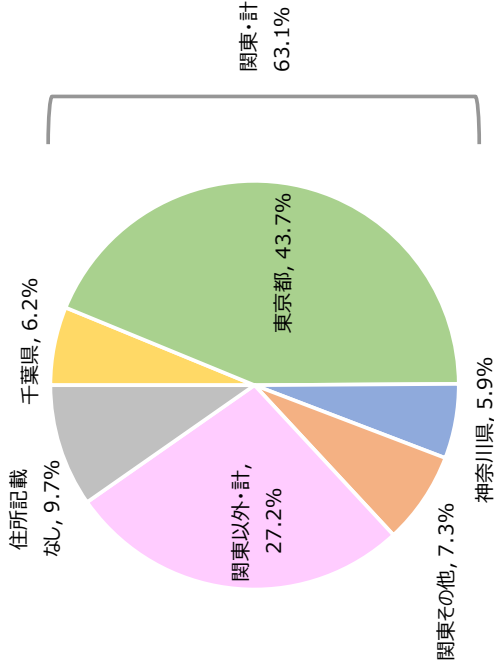
▶ 回収数

- 808サンプル(有効回答数)

▶ 調査期間

- 2014年10月22日(水)配布開始 ～ 2014年11月26日(水)回収分まで

■ 企業所在地 (全体／単一回答)



調査数	関東・計		千葉県		東京都		神奈川県		関東その他		関東以外・計		甲信越	北陸・東海	関東以外その他	住所記載なし
	割合	n	割合	n	割合	n	割合	n	割合	n	割合	n	割合	n	割合	n
全体	63.1%	(510)	6.2%	(50)	43.7%	(353)	5.9%	(48)	7.3%	(59)	27.2%	(220)	4.5%	(36)	8.7%	(70)

※下段 () 内の数字はn数

※地域名に含まれる都道府県

関東その他

甲信越

北陸・東海

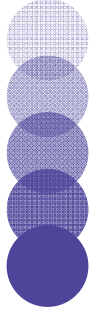
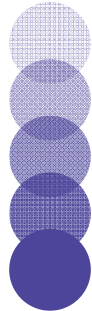
関東以外その他

：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県

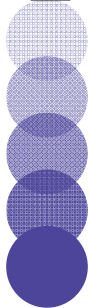
：山梨県、長野県、新潟県

：富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県

：北海道・東北、近畿、中国、四国、九州・沖縄



回答企業プロフィール



回答企業プロフィール：主業種／正社員数

<主業種>

▶全体では、「製造業」が33%で最も多く、「建設業」「情報処理関連業」も20%台(主要3業種で全体の8割強を占める)。

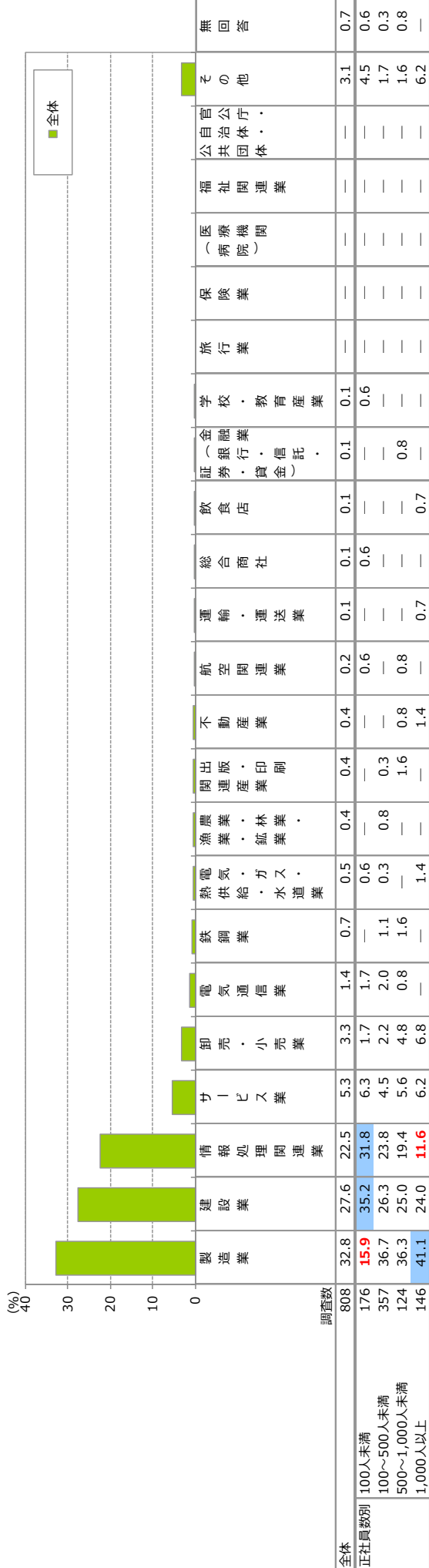
－ 主要3業種以外(以後、主業種別では「その他の業種」と表記)では、「サービス業」「卸売・小売業」が多い。

<正社員数>

▶全体では、「100～500人未満」が44%で最も多く、次に多い「100人未満」(22%)を含めると、「500人未満」の企業が約2/3。

■主業種 (全体／単一回答)

F1. 貴社の主業種をお選びください。



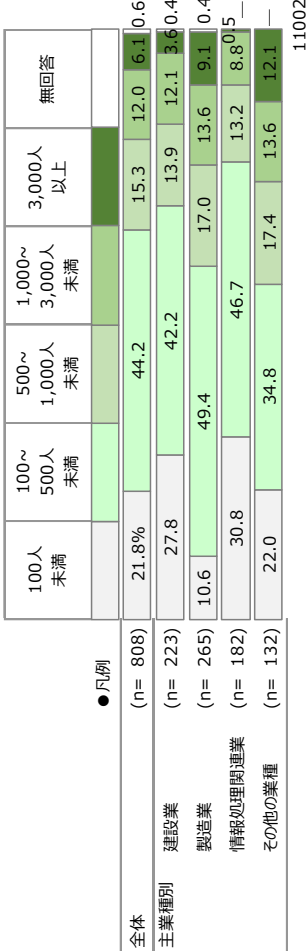
※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ■ = 10pt以上低い

※全体値の降順にソート

11001

■正社員数 (全体／単一回答)

F2. 貴社の正社員数をお選びください。



11002

F3. 貴社で過去3年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。

F3. 貴社で過去3年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。

- [illegible]

3年以内	高	短	大

大卒
校卒

情報処理関係企業	102	4.4	17.0	97
その他の業種	132	31.8	32.6	94

100~500人未満	500~1,000人未満	1,000人以上	計
179	357	124	660
42.6	52.4	22.7	25.0

■十業工業入卒業生の採用実績（2014年）
（2014年4月新卒採用あり／単一回答）

F4SF1. 2014年4月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

2014年 4月 新卒採用 あり・計十	96.4
	95.0
	96.2
	98.9
	95.3
	89.9
	97.8
	99.2
	97.9

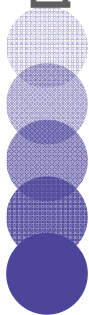
※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

	採用した	採用は なかった	未詳 (わから ない)	無回答
● 凡例				
全体	27.1%	8.3%	64.1	0.5
主業種別				
建設業	28.7	9.6	61.7	—
製造業	22.0	10.2	66.7	1.2
情報処理関連業	28.9	6.7	64.4	—
その他の業種	32.2	5.1	62.8	—
正社員数別				
100人未満	17.8	65.1	1.3	15.8
100～500人未満	23.5	65.9	0.6	10.0
500～1,000人未満	29.3	69.1	—	—
1,000人以上	44.1	53.8	—	—

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11011

11012



回答企業プロフィール：今後の採用意向

<新卒採用数の増減(2015年4月入社)>

▶全体では、38%が「2014年4月よりも増えると思う」、49%が「同程度」、11%が「減る」と回答。

- 主要3業種と比較すると、情報処理関連業の増加志向がやや強く(42%)、製造業の増加志向がやや弱い(32%)。

<今後の新卒採用対象となる最終学歴>

▶全体では、「大学卒」が99%で最も多く、次いで「大学院卒」(78%)。

- 主要3業種と比較すると、製造業と情報処理関連業では、「大学院卒」を新卒採用対象と考えている割合が84～86%と高い。

■新卒採用数の増減(2015年4月入社)(全体/単一回答)

F5. 2015年4月入社の新卒採用数について、現時点でどのようにお考えですか。貴社の方針に近いものをお選び下さい。

	2015年4月新卒採用予定あり・計				新卒の採用は行わない予定	未定 (わからない)	無回答	2015年 4月 新卒採用 予定あり・ 計
	2014年 よりも 増えると思う	2014年と 同程度だと 思う	2014年 よりも 減ると思う					
	●凡例							
全体	(n= 808)	37.5%			48.8		10.5 0.0 2.5	96.8
主業種別	建設業	(n= 223)	35.9			50.7	8.5 0.4 4.0	95.1
	製造業	(n= 265)	32.1			54.7	11.3 0.4 5.0	98.1
	情報処理関連業	(n= 182)	42.3			48.4	8.8 0.5	99.5
	その他の業種	(n= 132)	44.7			35.6	15.2 7.4	95.5
正社員数別	100人未満	(n= 176)	36.9			45.5	11.4 0.6 5.7	93.8
	100～500人未満	(n= 357)	35.9			50.4	12.0 0.6 0.3	98.3
	500～1,000人未満	(n= 124)	38.7			51.6	9.7 3.0	100.0
	1,000人以上	(n= 146)	42.5			47.3	6.8 3.4	96.6

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

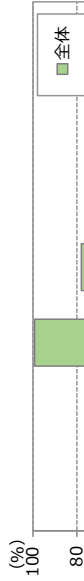
1102

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11021

■今後の新卒者採用対象となる最終学歴(全体/複数回答)

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。

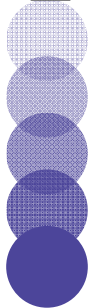


	今後の新卒採用予定あり・計						行なわない予定は	無回答
	高校卒	短大卒	大学卒	大学院卒	専門卒	その他		
調査数	808	223	265	182	132	176		

全体	42.3	33.0	99.4	78.1	53.5	12.7	—	0.5
主業種別	建設業	52.5	31.4	99.6	64.6	59.2	14.3	0.4
	製造業	63.8	26.4	99.6	83.8	35.8	15.5	—
	情報処理関連業	4.9	39.6	100.0	85.7	70.9	11.0	—
正社員数別	その他の業種	35.6	41.7	100.0	81.1	55.3	7.6	—
	100人未満	25.0	35.2	100.0	57.4	60.2	5.1	—
	100～500人未満	44.5	31.4	99.7	76.2	53.2	9.2	—
	500～1,000人未満	51.6	29.0	100.0	92.7	49.2	21.0	—
	1,000人以上	50.7	38.4	100.0	97.3	50.7	24.0	—

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11022

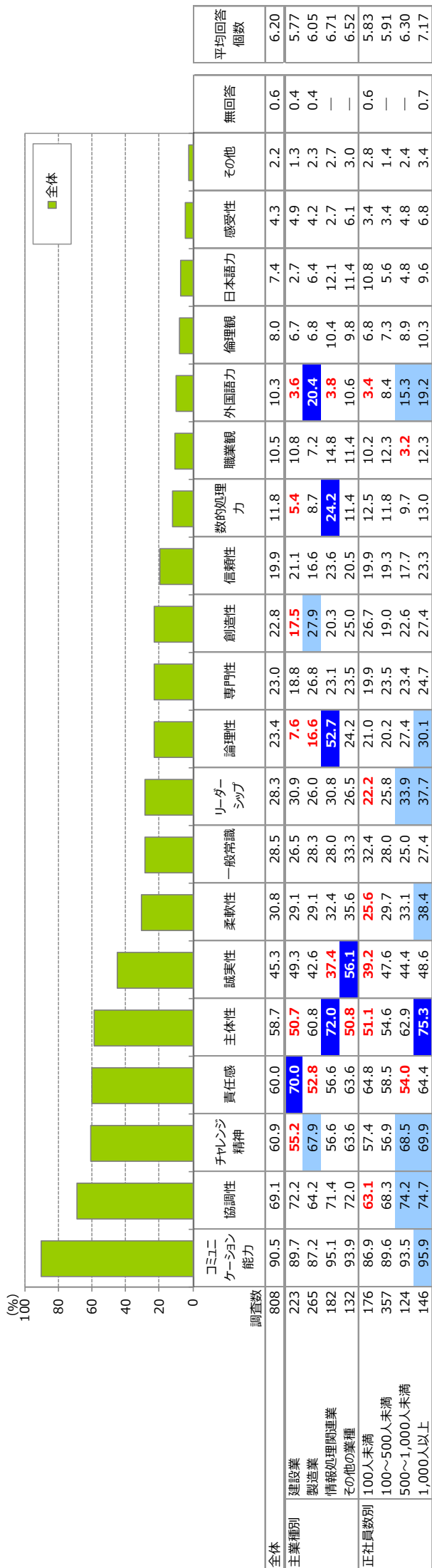


回答企業プロフィール：大学卒採用で期待する能力・素養

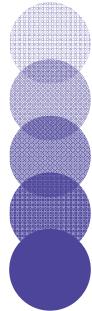
- ▶全体では、「コミュニケーション能力」が**91%**と最も高く、「協調性」「チャレンジ精神」「責任感」「主体性」が**50%以上**。
- 主要3業種で見ると、各業種とも「コミュニケーション能力」を最も期待している(87～95%)。
建設業では、「協調性」「責任感」が70%台と高く、特に「責任感」は全体より10ポイント高い。
製造業では、「外国語力」(20%)が全体よりも10ポイント高く、「チャレンジ精神」「創造性」も5～7ポイント高い。
情報処理関連業では、「協調性」「主体性」が70%台と高く、全体と比べると、「論理性」が29ポイント、「主体性」が13ポイント、「数的処理力」が12ポイント高い。
 - 正社員数で見ると、全般的に人数が多いほど、期待する能力・素養の数が増えている(平均回答個数は、「100人未満」が5.8個、「1,000人以上」が7.2個)。
 - ・特に、「主体性」は、正社員数の規模によるスコア差が大きく、「1,000人以上」の企業が75%と、全体より17ポイントも高い。

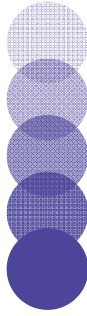
■大学卒採用で期待する能力・素養（全体／複数回答）

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。あてはまる能力を以下からすべてお選びください。

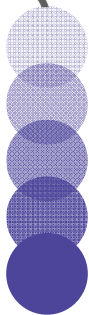


※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体値の降順にソート





【調査結果】 サマリ



1. 各学部の“設置の理念”の社会にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **81%**／「創造工学部」 **61%**／「先進工学部」 **64%**

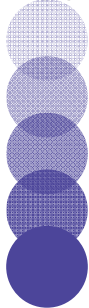
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(97%)、「創造工学部」「先進工学部」は9割前後。

■各学部の“設置の理念”の必要性（社会にとって）（全体／各単一回答）

Q1/Q5/Q9. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“設置の理念”について、社会にとっての程度が必要であると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計			どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計 (社数)		コメント
	必要になる	ある程度 必要になる						必要になる (社数)	必要になる (社数)	
●凡例										
工学部 (n= 808)			81.2%	16.2	0.5	1.2	0.1	656社	787社	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気・電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。
創造工学部 (n= 808)		61.0		28.8	0.5	7.7	1.4	493社	726社	従来の工学部の建築都市環境工学とデザイン科学の教育・研究領域を再構築し、新たな社会ニーズに対応させ、建築学・建設工学・都市工学・デザイン科学等の基礎的な知識・技術を確認に学べる学部を創設します。
先進工学部 (n= 808)		64.4		27.4	0.7	6.1	1.2	520社	741社	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。

12011



2. 各学部の“養成する人材像”の企業にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **72%**／「創造工学部」 **40%**／「先進工学部」 **38%**

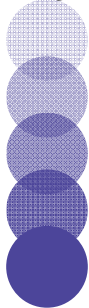
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(92%)、次いで「先進工学部」(75%)。

■各学部の“養成する人材像”の必要性(貴社にとって)(全体／各単一回答)

Q2/Q6/Q10. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計		どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計	
	必要になる	ある程度 必要になる					必要になる (社数)	必要になる・計 (社数)
●凡例								
工学部 (n= 808)			71.5%		20.0	1.9 4.3 1.4	578社	740社
創造工学部 (n= 808)		39.9		26.7	20.9	9.4 2.7	322社	538社
先進工学部 (n= 808)		38.2		36.4	16.8	5.1 2.6	309社	603社

コメント文
現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。
創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関わる調査・企画・計画・設計、維持管理・マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。
工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。



3. 学科別の新卒採用意向(「採用意向・計」の割合)

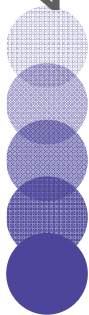
- ▶ **全学科とも三分の一以上の企業から採用意向あり**(「とても採用したい」「または「採用を検討したい」と回答)。
- ▶ 四分の三以上の企業から採用意向あったのは2学科。
「工学部・電気電子工学科」 77%／「工学部・機械工学科」 76%
- ▶ 工学部では、「機械電子創成工学科」「情報通信システム工学科」への採用意向も6割台と高い。
 - その他、「工学部・先端材料工学科」「創造工学部・建築学科」「創造工学部・都市環境工学科」「先進工学部・未来ロボティクス学科」への採用意向が5割台。

■ 学科別の新卒採用意向 (全体／各単一回答)

Q3/Q7/Q11. 「工学部」「創造工学部」「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社の考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

●凡例									
(n=808)									
工学部	採用意向・計		どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・計	採用したい(社数)	採用意向・計(社数)
	採用したい	採用を検討したい							
工学部	49.0%						75.9	396社	613社
	37.6	30.9			21.2	22.3	68.6	304社	554社
	23.3	32.5			31.7	3.63	55.8	188社	451社
	48.0				28.8	15.1	76.9	388社	621社
	38.4				27.1	21.8	65.5	310社	529社
応用化学科	16.8	30.7			35.0	6.9	47.5	136社	384社
創造工学部	30.9	21.0			33.9	5.3	52.0	250社	420社
	30.9	21.0			33.9	5.7	52.0	250社	420社
	20.8	28.3			35.1	6.8	49.1	168社	397社
先進工学部	28.8	29.3			29.8	3.5	58.2	233社	470社
	11.5	25.2			44.2	8.5	36.8	93社	297社
	18.9	28.5			36.6	6.1	47.4	153社	383社

12001



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(1/2)

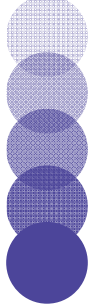
【工学部】

▶「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「応用化学学科」;
「(各学科の)専門技術者として採用したい」「業務に必要な知識だから」

▶「情報通信システム工学科」;
「情報処理知識や技術は有用で、SEとしての知識・経験に期待」「システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい」

学部	学科	新卒採用意向理由
工学部	機械工学科	■ 機械系として採用したい／技術職採用／製造工場を保有し必要な人材。 “ゼネコン業務の中で、建設設備業務従事者を確保する為”(建設業／500～1,000人未満) “機械系の50代が定年をこれから迎える為、人材を補充していきたい”(製造業／500～1,000人未満)
	機械電子創成工学科	■ 人材不足を補充するため。 “弊社にとって人材不足であり、年齢構成から若手をどんどん採用したい”(建設業／100～500人未満)
	先端材料工学科	■ 材料に知識がある人材を採用したい。 “素材メーカーの為、材料(特に鉄)の知識を有している人は採用したい。他は人物を見て評価となる”(鉄鋼業／500～1,000人未満)
	電気電子工学科	■ 電気系技術者を採用したい／電気設備事業者として必要な人材。 “マンション建設等において電気設備設計職が不足しています。電気知識を志す学生を採用したいと考えます”(建設業／100～500人未満) “当社で扱う「看板」の業界においては、環境問題・省エネルギー化が進んでおり、その観点から特に電気電子工学科の学生さんへの採用意向を強く持っています”(製造業／100人未満)
	情報通信システム工学科	■ 情報処理知識や技術は有用／SEとしての基礎知識やプログラミング経験に期待。 “ITの知識がある程度あれば、入社後の研修にも入りやすく即戦力になるまでの期間も短いと考えられる為”(情報処理関連業／100人未満)
	応用化学学科	■ システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい。 “システムソリューションを事業としており、基礎技術としてシステム工学の知識が必要となる。しかし、最終的にはシステムの取りまとめ等を行なう為、システム工学に限らず社会をIGTで支える人材を求めている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
工学部	化学系の専門知識が必須の為。	■ 化学系の専門知識が必須の為。 “・技術職＝合成樹脂塗床材分野、無機系セメント系塗床材分野→研究開発、改良に理系の考え方が必要。・営業職＝文系社員より理系営業は知識や考え方として強い”(卸売・小売業／100～500人未満)

※工学部6学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(2/2)

【創造工学部】

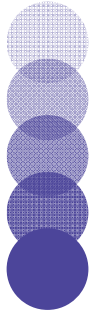
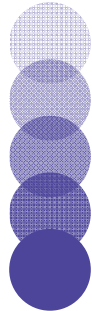
- ▶「建築学科」「都市環境工学科」：「学科の内容が事業に近いから」「(各学科の)学生は事業に必要／専門技術者として採用したい」
- ▶「デザイン科学科」：「パッケージや機械設計において、デザイナーは重要」「デザイナーを採用したい」

【先進工学部】

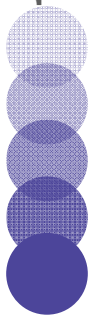
- ▶「未来ロボティクス学科」：「ロボットは今後必要とされる、研究開発領域」
- ▶「生命科学科」：「学科の内容が事業に近いから」
- ▶「知能メディア工学科」：「学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域」

学部	学科	新卒採用意向理由
創造工学部	建築学科	■ 建築系の学生は貴重・事業に必要／現場監理できる人材・施工管理者を採用したい。 － “現場監理のできる人材を採用したいと考えています。また設計の分野で空間デザイン、プレゼンテーション能力等のある人材を求めています” (建設業／100人未満)
	都市環境工学科	■ 学科の内容が事業に近いから／インフラの全てに関係する。 － “都市環境工学科は当社の環境(エネルギー)見える化ソリューションと関連性がある為”(情報処理関連業／100～500人未満)
	デザイン科学科	■ パッケージや機械設計において、デザイナー力は重要。 － “人間工学的な点から、機械を設計する事は重要な分野であり、その為のデザイナーは無視する事ができないと考えます”(製造業／100～500人未満) ■ グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい。 － “グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい”(出版・印刷関連産業／500～1,000人未満)
	未来ロボティクス学科	■ ロボットは今後必要とされる、研究開発領域。 － “今後、新たなニーズが見込まれる(未来ロボティクス)”(製造業／1,000～3,000人未満)
先進工学部	生命科学科	■ 学科の内容が事業に近いから。 － “生命科学科に期待しております(弊社は造園・緑化等にも力を入れており、社員には農学部、林学等の卒業生も多数在籍しております)” (建設業／100人未満)
	知能メディア工学科	■ 学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域。 － “「ユーザエクスペリエンス」というキーワードに興味を持った。ビッグデータ解析は事業として取り組んでいきたいと考えている分野であり、興味を持った為”(情報処理関連業／100～500人未満)

※各学部3学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



【調査結果】設置計画案①：工学部

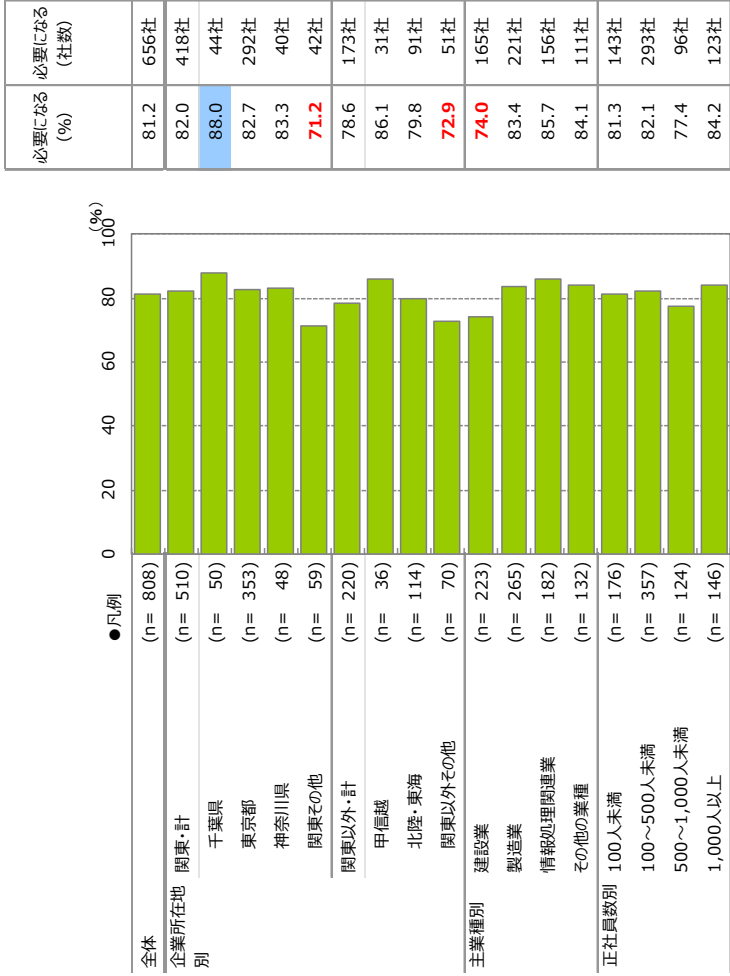


1.「工学部」の“設置の理念”の社会にとつての必要性

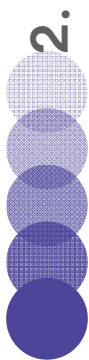
- ▶「工学部」の設置の理念が社会にとつてどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の81%が「必要になる」と回答。
- 企業所在地別にみると、「千葉県」では「必要になる」と回答した割合がやや高い(88%)。

■「工学部」の“設置の理念”の必要性（社会にとつて）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q1.「工学部」の“設置の理念”について、社会にとつてどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。



※全体値と比較して 10pt以上高い 5pt以上高い 5pt以上低い 12111



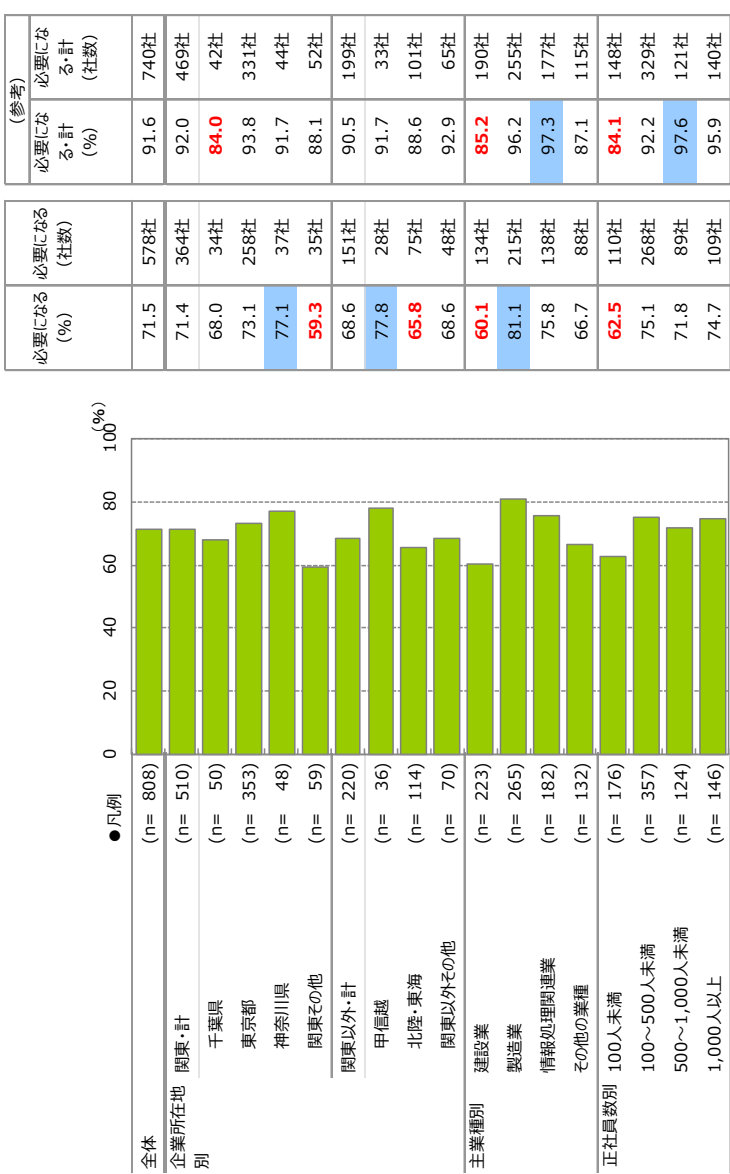
2. 「工学部」の“養成する人材像”の企業にとっての必要性

▶「工学部」の養成する人材像が企業にとってどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の72%が「必要になる」と回答。

- 主要3業種で見ると、「製造業」では「必要になる」と回答した割合が8割超。
- 企業所在地別にみると、「甲信越」「神奈川県」では「必要になる」と回答した割合が8割弱。

■「工学部」の“養成する人材像”の必要性（貴社にとって）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q2. 「工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。（%）



3. 工学部 各学科の新卒採用意向

▲主要3業種の学科別採用意向の特徴(全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い業種)。

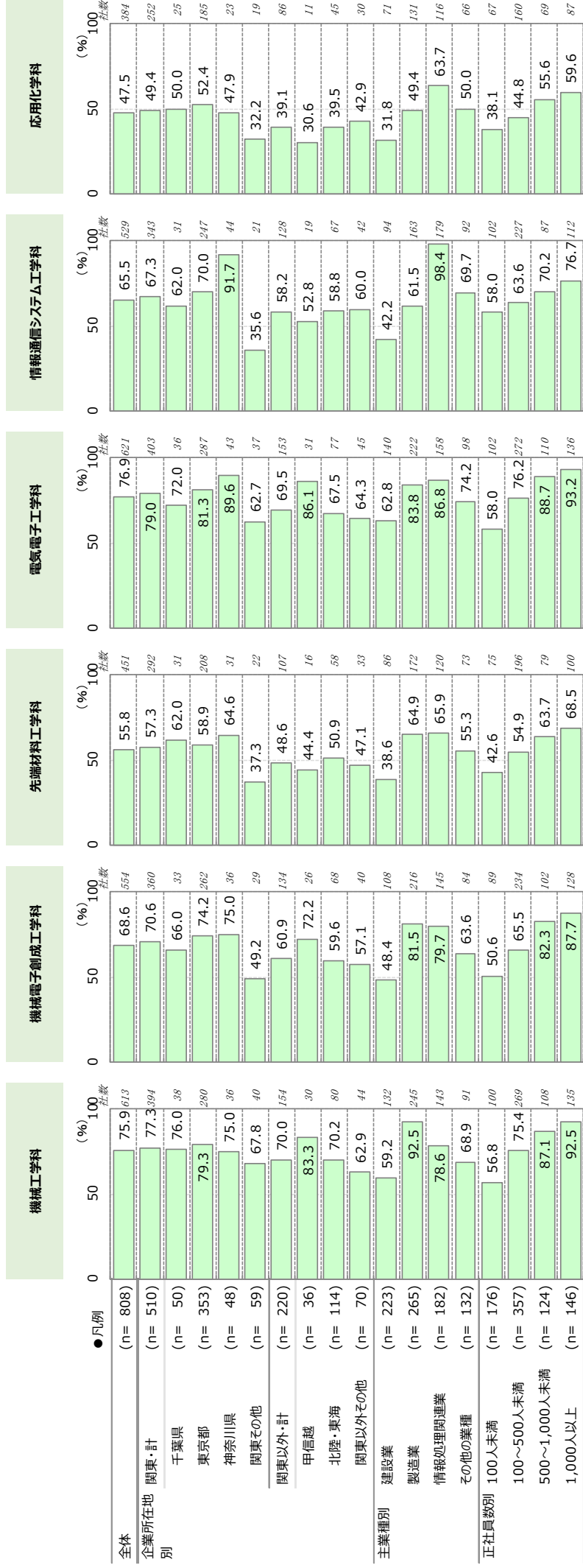
- 「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」への採用意向が、全体より10ポイント以上高い。
- 「情報通信システム工学科」への採用意向が、全体より30ポイント以上高く、「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「応用化学科」でも10ポイント以上高い。

▲正社員数規模による学科別採用意向の特色(徴)全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い企業規模)。

- －全学科とも、人数が多いほど採用意向が高く、「1,000人以上」の企業では、各学科とも全体より10ポイント以上高い。

■「工学部」各学科の新卒採用意向：「採用意向・計一覽（全体／各埠一覽一回答）」

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。



▲全体の採用意向: 76%(全12学科中2番目の値)

- 主要3業種で見ると、「製造業」での採用意向が9割台と高い。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人」の企業で最も高い。
- 企業所在地別にみると、「甲信越」での採用意向がやや高い。

■「工学部—機械工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	●凡例	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・計	採用したい (社数)	採用意向・計 (社数)
		採用したい	採用を検討したい	採用を 検討したい							
全体	(n= 808)		49.0%		26.9	15.8	17.3	3.3	75.9	396社	613社
企業所在地別											
関東・計	(n= 510)		50.6		26.7	14.5	18.3	3.3	77.3	258社	394社
千葉県	(n= 50)		48.0		28.0	20.0	—	4.0	76.0	24社	38社
東京都	(n= 353)		53.5		25.8	13.6	14.2	2.5	79.3	189社	280社
神奈川県	(n= 48)		43.8		31.3	12.5	4.2	21.6	75.0	21社	36社
関東その他	(n= 59)		40.7		27.1	16.9	3.4	6.8	67.8	24社	40社
関東以外・計	(n= 220)		42.3		27.7	20.9	18.4	1.3	70.0	93社	154社
甲信越	(n= 36)		47.2		36.1	11.1	2.8	2.8	83.3	17社	30社
北陸・東海	(n= 114)		45.6		24.6	19.3	1.8	4.4	70.2	52社	80社
関東以外その他	(n= 70)		34.3		28.6	28.6	1.4	2.9	62.9	24社	44社
主業種別											
建設業	(n= 223)		38.1		21.1	25.6	3.1	7.6	59.2	85社	132社
製造業	(n= 265)		71.3		21.1	21.1	4.9	1.5	92.5	189社	245社
情報処理関連業	(n= 182)		34.6		44.0	17.0	1.6	0.5	78.6	63社	143社
その他の業種	(n= 132)		44.7		24.2	20.5	3.0	3.0	68.9	59社	91社
正社員数別											
100人未満	(n= 176)		26.7		30.1	26.7	4.0	7.4	56.8	47社	100社
100～500人未満	(n= 357)		47.9		27.5	17.9	0.8	3.1	75.4	171社	269社
500～1,000人未満	(n= 124)		64.5		22.6	8.9	2.4	1.6	87.1	80社	108社
1,000人以上	(n= 146)		66.4		26.0	4.1	0.7	1.4	92.5	97社	135社

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12101 01

4-2. 機械電子創成工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：69%（全12学科中3番目の高さ）

- 主要3業種でみると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が8割前後と高い。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が8割台。
- 企業所在地別にみると、「東京都」「神奈川県」での採用意向がやや高い。

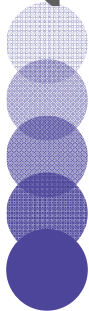
■「工学部－機械電子創成工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計				どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
	採用したい	採用を検討したい						
● 凡例								
全体	(n = 808)	37.6%		30.9	21.2	22.3	4.7	
企業所在地	(n = 510)	40.2		30.4	18.8	20.3	5.3	
別	(n = 50)	34.0		32.0	26.0	20.4	2.0	
千葉県	(n = 353)	43.1		31.2	17.3	14.2	4.5	
東京都	(n = 48)	43.8		31.3	12.5	4.2	16.3	
神奈川県	(n = 59)	25.4		23.7	27.1	3.4	8.5	
関東その他	(n = 220)	31.4		29.5	28.2	3.2	4.1	
関東以外・計	(n = 36)	36.1		36.1	22.2	2.8	2.8	
甲信越	(n = 114)	32.5		27.2	26.3	4.4	4.4	
北陸・東海	(n = 70)	27.1		30.0	34.3	1.4	3.2	
関東以外その他	(n = 223)	23.3		25.1	34.5	3.6	8.1	
建設業	(n = 265)	51.3		30.2	11.7	1.3	8	
製造業	(n = 182)	36.8		42.9	15.9	1.6	2.2	
情報処理関連業	(n = 132)	37.1		26.5	25.8	3.0	2.3	
その他の業種	(n = 176)	21.0		29.5	29.5	5.1	8.0	
正社員数別	(n = 357)	38.4		27.2	25.8	1.4	3.4	
100人未満	(n = 124)	48.4		33.9	11.3	2.4	4.0	
100～500人未満	(n = 146)	47.3		40.4	8.9	0.7	1.4	

※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12101_02



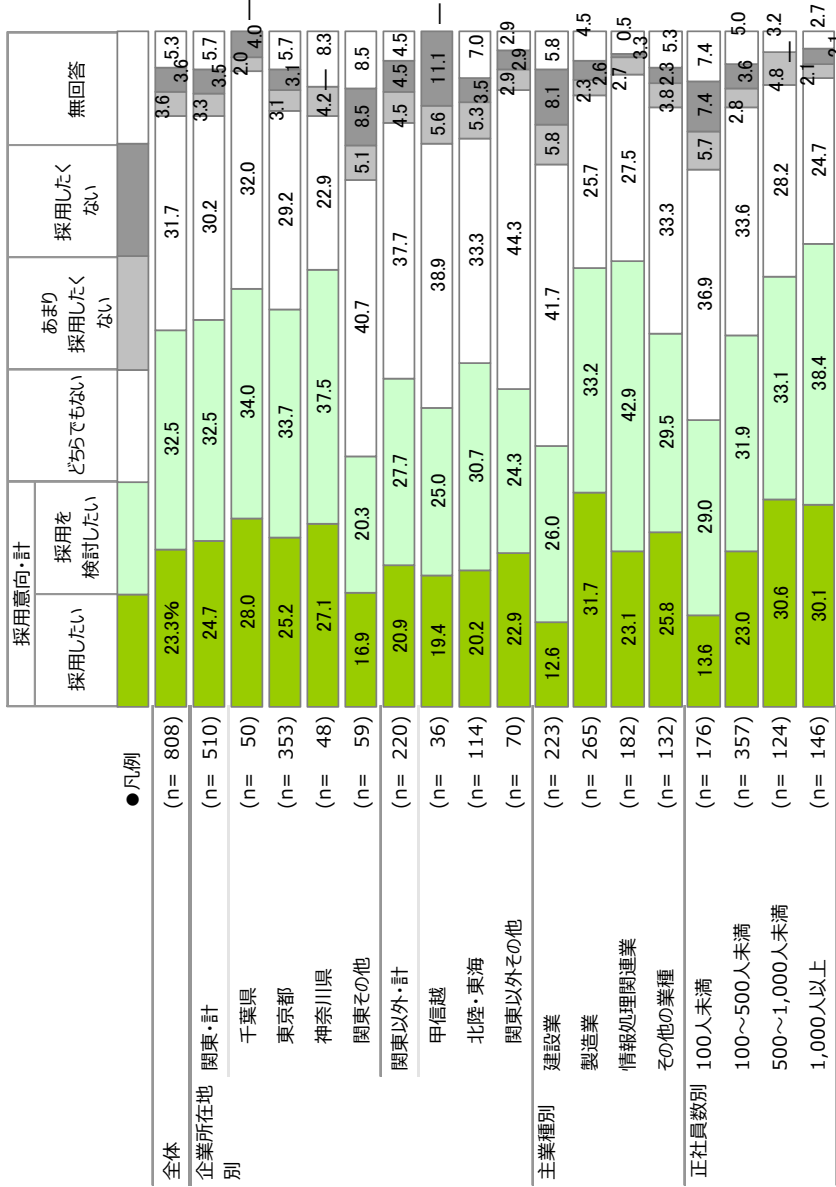
4－3. 先端材料工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向： 56%

- 主要3業種でみると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が65%前後。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」での採用意向は7割弱。
- 企業所在地別にみると、「千葉県」「神奈川県」での採用意向がやや高い。

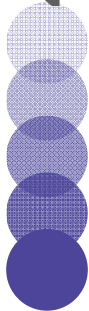
■「工学部－先端材料工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12101_03



4－4. 電気電子工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：77%（全12学科中最も高い）

- － 主要3業種でみると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が全体よりもやや高く、いずれも8割台。
- － 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が約9割。
- － 企業所在地別にみると、「神奈川県」での採用意向が高く（90%）、「甲信越」もやや高い（86%）。

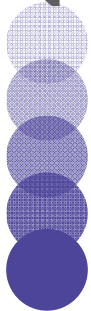
■「工学部－電気電子工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・計	採用意向・計	
	採用したい	採用を検討したい							採用したい（社数）	採用意向・計（社数）
● 凡例										
全体	(n= 808)	48.0%	15.1	28.8	15.1	20.3	3.0	76.9	388社	621社
企業所在地	関東・計	(n= 510)	50.8	28.2	13.1	20.2	2.9	79.0	259社	403社
別	千葉県	(n= 50)	36.0	36.0	20.0	4.0	4.0	72.0	18社	36社
	(n= 353)	55.8	25.5	12.2	1.1	2.5	2.8	81.3	197社	287社
	(n= 48)	52.1	37.5	6.3	1.4	2.5	4.2	89.6	25社	43社
	(n= 59)	32.2	30.5	18.6	6.8	6.8	5.1	62.7	19社	37社
	(n= 220)	40.0	29.5	21.8	18.4	1.2	2.7	69.5	88社	153社
	(n= 36)	47.2	38.9	11.1	2.8	—	—	86.1	17社	31社
	(n= 114)	41.2	26.3	21.9	2.6	4.4	3.5	67.5	47社	77社
	(n= 70)	34.3	30.0	27.1	1.4	4.3	2.9	64.3	24社	45社
主業種別	(n= 223)	40.8	22.0	23.3	3.1	8.1	2.7	62.8	91社	140社
	(n= 265)	58.9	24.9	10.9	1.5	2.3	1.5	83.8	156社	222社
	(n= 182)	42.9	44.0	11.5	1.6	—	—	86.8	78社	158社
	(n= 132)	47.0	27.3	15.2	3.8	2.3	4.5	74.2	62社	98社
正社員数別	(n= 176)	26.1	31.8	25.0	5.1	7.4	4.5	58.0	46社	102社
	(n= 357)	46.2	30.0	17.1	1.4	2.8	2.5	76.2	165社	272社
	(n= 124)	64.5	24.2	8.1	1.6	1.6	1.6	88.7	80社	110社
	(n= 146)	65.8	27.4	4.8	0.7	1.4	—	93.2	96社	136社

※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以下低い

12101_04



4－5. 情報通信システム工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：66%

- 主要3業種でみると、「情報処理関連業」では、ほぼ全企業（98%）が採用意向を示した。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」では四分の三の企業が採用意向を示した。
- 企業所在地別にみると、「神奈川県」での採用意向が9割台と高い。

■「工学部－情報通信システム工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
	採用したい	採用を検討したい					
● 凡例							
全体	(n= 808)	38.4%	27.1	21.8	4.1	4.0	4.7
企業所在地 関東・計	(n= 510)	42.4	24.9	20.0	4.1	3.7	4.9
別 千葉県	(n= 50)	30.0	32.0	26.0	4.0	4.0	4.0
東京都	(n= 353)	47.0	22.9	18.7	3.7	3.4	4.5
神奈川県	(n= 48)	50.0	41.7	8.3			
関東その他	(n= 59)	18.6	16.9	32.2	10.2	10.2	11.9
関東以外・計	(n= 220)	26.8	31.4	27.7	5.0	5.0	4.1
甲信越	(n= 36)	27.8	25.0	33.3	8.3	5.6	
北陸・東海	(n= 114)	26.3	32.5	23.7	6.1	5.3	6.1
関東以外その他	(n= 70)	27.1	32.9	31.4	1.4	4.3	2.9
主業種別 建設業	(n= 223)	14.8	27.4	38.6	5.8	9.0	4.5
製造業	(n= 265)	24.9	36.6	23.8	5.7	3.0	6.0
情報処理関連業	(n= 182)		85.2	13.2	1.6		
その他の業種	(n= 132)	41.7	28.0	18.2	3.8	3.0	5.3
正社員数別 100人未満	(n= 176)	36.9	21.0	22.7	5.1	9.1	5.1
100～500人未満	(n= 357)	36.7	26.9	23.8	3.6	3.6	5.3
500～1,000人未満	(n= 124)	41.1	29.0	21.8	4.8	2.4	2.4
1,000人以上	(n= 146)	43.2	33.6	16.4	3.4	2.1	1.4

※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

採用意向・計	採用意向・計	
	採用したい (社数)	計 (社数)
65.5	310社	529社
67.3	216社	343社
62.0	15社	31社
70.0	166社	247社
91.7	24社	44社
35.6	11社	21社
58.2	59社	128社
52.8	10社	19社
58.8	30社	67社
60.0	19社	42社
42.2	33社	94社
61.5	66社	163社
98.4	155社	179社
69.7	55社	92社
58.0	65社	102社
63.6	131社	227社
70.2	51社	87社
76.7	63社	112社

4-6. 应用化学科 新材料採用意向

▲全体採用意向: 48%

- 主要3業種で見ると、「製造業」「情報処理関連業」での採用意向が高い(64%)。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が5割台。

■「工学部-応用化学科」の新卒採用意向(全体/単一回答)

Q3. 「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	●凡例	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
		採用したい	採用を検討したい					
全体	(n= 808)	16.8%	30.7	35.0	6.9	5.2	5.3	
企業所在地	(n= 510)	18.4	31.0	33.9	5.9	5.1	5.7	
別	(n= 50)	10.0	40.0	38.0	4.0	6.0	2.0	
千葉県	(n= 353)	21.0	31.4	33.7	4.8	4.2	4.8	
東京都	(n= 48)	16.7	31.3	27.1	10.4	6.3	8.3	
神奈川県	(n= 59)	11.9	20.3	37.3	10.2	8.5	11.9	
関東その他	(n= 220)	12.3	26.8	40.5	9.1	7.3	4.1	
関東以外・計	(n= 36)	5.6	25.0	44.4	13.9	11.1		
甲信越	(n= 114)	13.2	26.3	38.6	9.6	6.1	6.1	
北陸・東海	(n= 70)	14.3	28.6	41.4	5.7	7.1	2.9	
関東以外その他	(n= 223)	9.4	22.4	41.7	9.0	12.1	5.4	
建設業	(n= 265)	18.5	30.9	34.3	7.9	3.4	4.9	
製造業	(n= 182)	20.3	43.4	27.3	2.7	3.3	1.1	
情報処理関連業	(n= 132)	22.0	28.0	34.1	7.6	3.0	5.3	
その他の業種	(n= 176)	10.2	27.8	36.4	8.5	10.2	6.8	
正社員数別	(n= 357)	15.1	29.7	37.8	6.7	5.3	5.3	
100人未満	(n= 124)	25.0	30.6	33.1	7.3	0.8	3.2	
100～500人未満	(n= 146)	22.6	37.0	29.5	5.5	2.7	2.7	
500～1,000人未満								
1,000人以上								

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

5. 工学部全般に対しての新卒採用意向理由

- ▶ 工学部全学科について「採用したい」企業からは、自社がものづくりの会社であり、学科の内容が採用基準に合致していたり、学科で身に付けた専門知識を仕事で活かしてほしいというOBを輩出している点も挙げられた。

【「工学部 全6学科」の新規卒業生について「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- **技術者採用・ものづくりの会社、学科の内容が採用基準に合致している。**
 - － “システムエンジニアという職種は理系限定であり、複合機の修理対応等の技術を要します”(卸売・小売業／3,000人以上)
 - － “今後の当社が採用するであろう学科の学生が含まれている為”(製造業／100～500人未満)
 - － “弊社では日本のものづくりを支えるエンジニアの採用を行なっています。機械・電気電子・情報系の学生様が活躍頂けるようなケミカル系のフィールドもご用意しております”(製造業／1,000～3,000人未満)
- **学科で身に付けた専門知識を仕事に活かしてほしい／業務に役立ちそう。**
 - － “デジタル文具の開発の強化を推進している為。上記の知識を持つ方にはぜひとも力になってもらいたいから”(製造業／100～500人未満)
 - － “ものづくりのステージにおいて上記挙げて頂いた学科は当社が必要としている知識であり、活躍できる(活躍してほしい)学科である為。もちろん学校では学べない事は当社へ入社してからも深く学ぶ事ができるので、学校で学んだ事+当社へ来て更に学べる事でスキルアップしてほしい”(製造業／100～500人未満)
 - － “建設業の仕事でも電子機械や通信システムが日常的に使われており、機械や情報システムに詳しい人材がいれば業務を円滑に推進できるので、ぜひ採用したい。建設業への入社も視野に入れて頂きたい”(建設業／100人未満)
- **論理的思考力・問題解決力やITへの強さなど学生の能力・学力に期待。**
 - － “ITに強いと思っている為”(卸売・小売業／100人未満)
 - － “いかなる研究分野においても課題をある手段を使って解決していく経験はビジネスにも通ずるものだと思うから”(その他／3,000人以上)
- **OBが優れており積極採用したい。**
 - － “貴学OBの当社における活躍が目覚ましい為、貴学においては特に学部・学科問わず積極採用したい”(建設業／500～1,000人未満)
 - － “技術及び研究部門、システムエンジニアリング部門にて貴校の学生に活躍して頂いており、今後ともお願いしたいです”(製造業／500～1,000人未満)

■ **人物・ポテンシャル重視で様々な学科から採用したい。**

- － “これからのSE職においては学部・学科のこだわりは不要と思う為”(情報処理関連業／100～500人未満)
- － “情報学を学んだ学生ももちろん、欲しい層ではありますが、基本的には文理問わず、人物重視・ポテンシャル重視で採用を行なっている為、全学科に該当させて頂きました”(情報処理関連業／500～1,000人未満)
- － “弊社は方面保護工事等の特殊土木工事から造園工事まで幅広く手がけております。その為、入社してからの教育研修に重きを置き、募集に際しましては幅広い能力の学生の応募を期待して在学時の学部・学科等の専攻は不問としております”(建設業／100人未満)

※自由回答末尾 ○ 凡例 並びは、業種／正社員数

6. 工学部 各学科の新卒採用意向理由(1/2)

▶「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「応用化学学科」の採用意向理由として、「(各学科の)専門技術者として採用したい」「業務に必要な知識だから」を挙げている企業が多い。

【「機械工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 機械系として採用したい／技術職採用／製造工場を保有し必要な人材。
 - － “ゼネコン業務の中で、建設設備業務従事者を確保する為” (建設業／500～1,000人未満)
 - － “機械系の50代が定年をこれから迎える為、人材を補充していきたい” (製造業／500～1,000人未満)
 - － “当社千工工場(製造)で必要な人材の為” (製造業／100～500人未満)
- 業務に必要な知識だから。
 - － “基礎知識として必要”(サービス業／100～500人未満)

【「機械電子創成工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- － “弊社にとって人材不足であり、年齢構成から若手をどんどん採用したい” (建設業／100～500人未満)

【「先端材料工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 材料に知識がある人材を採用したい
 - － “材料に対する知識を当社人材に強く求めている為” (建設業／100～500人未満)
 - － “素材メーカーの為、材料(特に鉄)の知識を有している人は採用したい。他は人物を見て評価となる”(鉄鋼業／500～1,000人未満)

【「電気電子工学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 電気系技術者を採用したい／電気設備事業者として必要な人材。
 - － “マンション建設等において電気設備設計職が不足しています。電気の知識を元に設計職を志す学生を採用したいと考えます”(建設業／100～500人未満)
 - － “空調のメンテナンスをしている会社です。第二種電気工事の資格や知識を持っている方を求めている為”(製造業／100～500人未満)
 - － “当社で扱う「看板」の業界においては、環境問題・省エネルギー化が進んでおり、その観点から特に電気電子工学科の学生さんへの採用意向を強く持っています”(製造業／100人未満)
- 電気の知識が必須の為。
 - － “弊社は建設業の内の電気工事業(施工管理)の為、電気の知識を持っている方から優先されます。電気以外の知識を持っていて頂くのはとても良いのですが、弊社に入社して頂いた事でもしアンマッチになってしまえば申し訳ないと思っています”(建設業／100～500人未満)

【「応用化学学科」の新規卒業生についてののみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

- 化学出身学生を採用したい／化学系事業者として必要な人材。
 - － “化学系の専門商社なので”(卸売・小売業／100～500人未満)
 - － “道路用アスファルト製品の開発を行っており、研究開発職の採用を行なっている為、化学出身学生のニーズがある。機械管理職の採用を行なっている為”(建設業／500～1,000人未満)
- 化学系の専門知識が必須の為。
 - － “・技術職＝合成樹脂塗床材分野、無機系セメント系塗床材分野→研究開発、改良に理系の考え方が必要。・営業職＝文系社員より理系営業は知識や考え方として強い”(卸売・小売業／100～500人未満)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数

6. 工学部 各学科の新卒採用意向理由(2/2)

▶「情報通信システム工学科」の採用意向理由として、「情報処理知識や技術は有用で、SEとしての知識・経験に期待」「システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい」「学科の内容が事業に近いから」を挙げている企業が多い。

【「情報通信システム工学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

■ 情報処理知識や技術は有用／SEとしての基礎知識やプログラミング経験に期待。

- － “「情報通信システム工学科」につきましては、プログラマとして採用できる方を特に期待しております”(情報処理関連業／100人未満)
- － “ITの知識がある程度あれば、入社後の研修にも入りやすく即戦力になるまでの期間も短いと考えられる為”(情報処理関連業／100人未満)
- － “在学中から基礎知識・技術を習得されますので、即戦力として(基礎となる社会人としてのマナーは研修が充実しております)活躍して頂けると考えます”(製造業／100人未満)
- － “情報処理に関する知識を有する人は有用な人材である為”(情報処理関連業／500～1,000人未満)

■ システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい。

- － “ICTの知識を有する学生を積極採用したいと考えている為。専門知識を主体的に学ぶ意欲の高い学生が多いと感じる為”(建設業／500～1,000人未満)
- － “システムソリューションを事業としており、基礎技術としてシステム工学の知識が必要となる。しかし、最終的にはシステムの取りまとめ等を行なう為、システム工学に限らず社会をICTで支える人材を求めている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
- － “ハードとソフトの知識を兼ね備えた人材を採用したいから”(情報処理関連業／100人未満)

■ 学科の内容が事業に近いから。

- － “回答1: 自社の事業に直結する内容の為。回答22: 自社の事業に直結はしないが、業務上関連する内容、またはその思考プロセスに期待できる為”(情報処理関連業／100～500人未満)
- － “弊社の業務内容とマッチしている学部から採用させて頂きたいと考えております”(情報処理関連業／100人未満)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数

7.「工学部」に対するご意見・ご要望

- ▶ 専門知識とともに、コミュニケーション能力、実技経験を踏まえた現場力のある、強い人材の育成が期待されている。
- ▶ また、工学部に対する重要性の認識を示したご意見や学生の就業検討活動への協力の申し出も見られた。

【「工学部」に対するご意見・ご要望(自由回答)の抜粋】

■ 専門知識とともに、コミュニケーション能力のある人材育成を期待。

- － “専門知識に加え、コミュニケーション力も兼ね備えた人材の育成に期待しております”(その他／3,000人以上／〇〇〇〇〇〇〇)
- － “他人との対話力、説得力をUPするようなプログラムを組んで頂けると、企業にとってより魅力的な人材が輩出される事になると思う”(情報処理関連業／100～500人未満／〇〇〇〇〇〇〇)
- － “ぜひプレゼンテーションする事に慣れて頂きたい。どちらからといえば、コミュニケーションに慣れてない学生様が多い”(情報処理関連業／100～500人未満／〇△×〇〇×)

■ 実践・実技の授業を増やして、現場での判断力を養ってほしい。

- － “他大学様でのケースでたまにある事です、”ものづくり“が好きだという学生様で材料や製作、工具等、現物に全く触れてこない方がいる場合があります。”工学“の基本を大切にする育成を期待しております”(製造業／100～500人未満／〇〇〇〇〇△〇)
- － “実践、実技の授業を増やしてほしい”(情報処理関連業／100～500人未満／〇〇△〇〇△)
- － “物事の因果関係について、シミュレーション(コンピュータによる)に終わらず、実際に実験を通して結果を判断できる人材を育成してもらいたい”(製造業／100～500人未満／△△△△△△)

■ 社会に出て通用する強い人材を育ててほしい。

- － “現在の教育のように体系立てて物事を考え、またそれを発表する機会を学生に与えて頂ければ社会人になった際、光る人材になると存じます”(卸売・小売業／100～500人未満／-----〇)
- － “技術面はもとより、”人間力“の育成にも期待しております。ものづくりやビジネスの本質的な部分を捉えられられる基礎力を持った学生との出合いを希望しています”(製造業／100人未満／〇〇〇〇〇△)
- － “学だけではなく、個人・チームで課題解決できる人材を育成して頂きたい。また、学生時代に壁にぶつかると経験がされると、より成長されると思います。大学にとって学生はお客様ではありますが、人間教育の場でもありますので、ぜひ強い人材を育てて頂きたいです”(その他／100～500人未満／〇〇△〇〇△)

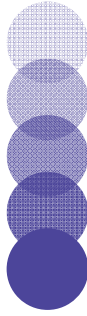
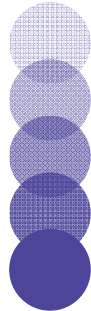
■ ものづくり技術の根幹として工学部が重要な学部。

- － “理系一特に工学部一は全国的に学校・学部が少ないが、インフラ整備等国にとっては重要な分野であり、工学部を充実させてほしい”(建設業／100人未満／△×〇×××)
- － “日本のものづくりの技術の根幹を担う重要な学部であると思います。活躍する分野が幅広いので、今後様々な分野で業界を支える人材を育成される事を期待します”(建設業／100～500人未満／〇×〇××)

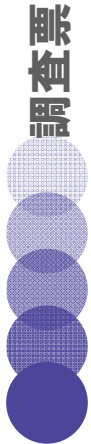
■ 「出張授業」やインターンの形で、学生の就業検討活動に協力したい。

- － “学生の方々や次世代の技術者を育成する為に、ICT施工等の技術紹介や試乗体験といった「出張授業」の実施を進めていきたいと考えております。少しでもお力になれる事がありましたら、柔軟に対応させて頂きます。また、インターンシップ受入もさせて頂きますので、ご検討のほどよろしくお願致します”(その他／1,000～3,000人未満／〇〇△〇△△)
- － “今後も学生様に対し当社の事業を理解して頂く機会(説明会、インターン等)を頂けたら幸いです。貴校との産官学連携を強化していきたいと考えておりますので、ご協力できる事がございましたらOBが多数いる開発部門を中心に全面的に協力させて頂きます”(製造業／100～500人未満／〇〇〇△△△)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数／各学科 (機械、機械電子創成、先端材料、電気電子、情報通信システム、応用化学) の採用意向
採用意向：○採用したい／△採用を検討したい／×どちらでもない／＊あまり採用したくない／－無回答



資料：調査票



調査票

はじめに、貴社についてお聞きます。

F1. 貴社の主業種をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|------------------|--------------|----------------------|
| 1. 農業・林業・漁業・鉱業 | 2. 建設業 | 3. 製造業 |
| 4. 鉄鋼業 | 5. 出版・印刷関連産業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 運輸・運送業 | 8. 航空関連業 | 9. 旅行業 |
| 10. 電気通信業 | 11. 情報処理関連業 | 12. 卸売・小売業 |
| 13. 総合商社 | 14. 飲食店 | 15. 金融業(銀行・信託・証券・貸金) |
| 16. 保険業 | 17. 不動産業 | 18. サービス業 |
| 19. 医療機関(病院) | 20. 福祉関連業 | 21. 学校・教育産業 |
| 22. 官公庁・自治体・公共団体 | 23. その他 () | |

F2. 貴社の正社員数をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|--------------------|----------------|------------------|
| 1. 100 人未満 | 2. 100～500 人未満 | 3. 500～1,000 人未満 |
| 4. 1,000～3,000 人未満 | 5. 3,000 人以上 | |

F3. 貴社で過去 3 年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。(いくつでも○)

- | | | | |
|-----------------------------|------------|--------|---------|
| 1. 高校卒 | 2. 短大卒 | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒 | 6. その他 () | | |
| 7. 新卒の採用はなかった → F5 へお進みください | | | |

F4. 貴社の 2014 年 4 月入社の新卒採用状況についてお聞きます。

大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

- | | | | |
|------------|----------------------------------|------------|--------------|
| 1. 1～9 人 | 2. 10～49 人 | 3. 50～99 人 | 4. 100～499 人 |
| 5. 500 人以上 | 6. 新卒は採用しなかった(0 人) → F5 へお進みください | | |

SF1. 2014 年 4 月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

- | | | |
|---------|------------|--------------|
| 1. 採用した | 2. 採用はなかった | 3. 未詳(わからない) |
|---------|------------|--------------|

F5. 2015 年 4 月入社の新卒採用数について、現時点でどのようなようにお考えですか。

貴社の方針に近いものをお選び下さい。(ひとつに○)

- | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 2014 年よりも増えると思う | 2. 2014 年と同程度だと思う | 3. 2014 年よりも減ると思う |
| 4. 新卒の採用は行わない予定 | 5. 未定(わからない) | |

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。

貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。(いくつでも○)

- | | | | |
|-----------------|------------|--------|---------|
| 1. 高校卒 | 2. 短大卒 | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒 | 6. その他 () | | |
| 7. 新卒の採用は行わない予定 | | | |

※調査票1ページ目のあいさつ文(アンケート協力のお願い)は割愛。

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。

あてはまる能力を以下からすべてお選びください。(いくつでも○)

- | | | |
|----------------|-------------|----------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 主体性 | 3. 協調性 |
| 4. チャレンジ精神 | 5. 誠実性 | 6. 責任感 |
| 7. 論理性 | 8. 専門性 | 9. 職業観 |
| 10. 創造性 | 11. 柔軟性 | 12. 信頼性 |
| 13. リーダーシップ | 14. 一般常識 | 15. 外国語力 |
| 16. 日本語力 | 17. 数的処理力 | 18. 倫理観 |
| 19. 感受性 | 20. その他 () | |

ここからは、千葉工業大学の新しい学部/学科に関する設問です

！別添の「新しい学部学科紹介」をよく読んでいただき、お答えください。

※新しい3つの学部(工学部、創造工学部、先進工学部)それぞれについて伺います。

設置計画案①:工学部

Q1. 「工学部」の「設置の理念」について、社会にとつてどの程度必要があると考えますか。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 設置の理念	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。
----------------	---

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 必要になる | 2. ある程度必要になる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり必要にならない | 5. 必要にならない | |

Q2. 「工学部」の「養成する人物像」について、貴社にとつて今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 養成する人物像	現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。
------------------	---

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 必要になる | 2. ある程度必要になる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり必要にならない | 5. 必要にならない | |

※Q3は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ4へお進みください)

Q3.「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますが。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	工学部	機械工学科	1	2	3	4	5
		機械電子創成工学科	1	2	3	4	5
		先端材料工学科	1	2	3	4	5
		電気電子工学科	1	2	3	4	5
		情報通信システム工学科	1	2	3	4	5
		応用化学科	1	2	3	4	5

SQL1. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q4.「工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案②：創造工学部

Q5.「創造工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」
設置の理念

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q6.「創造工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。
貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」	創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関する調査・企画・計画・設計、維持管理、マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。
---------	---

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q7は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ8へお進みください)

Q7.「創造工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない あまり
千葉工業大学	創造工学部	建築学科	1	2	3	4	5
		都市環境工学科	1	2	3	4	5
		デザイン工学科	1	2	3	4	5

SQL2. 上記ご回答についての理由をお書き沿え下さい。

Q8.「創造工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案③:先進工学部

Q9.「工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要かと考えますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 設置の理念	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。		
------------------	---	--	--

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q10.「先進工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。
貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 養成する人物像	工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。		
--------------------	---	--	--

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q11は、新卒採用をお考えの方にお聞きします。(F6で「7. 新卒の採用は行わない予定」を選択した方はQ12へお進みください)

Q11.「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお待ちになりますか。
貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	先進工学部	未来ロボティクス学科	1	2	3	4	5
		生命科学科	1	2	3	4	5
		知能メディア工学科	1	2	3	4	5

SQ3. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q12.「先進工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

最後に、千葉工業大学全体に関する設問です

Q13.「千葉工業大学」全体に対するご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。

質問はこれで終了です。

長時間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	コミヤ カズヒト 小宮 一仁 ＜平成24年6月＞		博士 (工学)		千葉工業大学 学長 (平成24年6月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(工学部 機械電子創成工学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 適 当 た り 平 均 日 数	
1	専	教授	セキ ヒロカズ 関 弘和 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 電子デバイス アナログ回路 プログラミング言語※ システム制御理論 機械電子創成発展講義2※ 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 2前 2後 2後 3前 4前 2前 3後 3後 4前 4後 4後 4通	0.5 2 2 0.9 2 0.6 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成15年4月)	5日	
2	専	教授	テシマ ヨシノリ 手嶋 吉法 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 力学 機械設計製図学 機械電子創成発展講義1※ 機械電子創成応用実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 1後 2後 4前 3前 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 0.6 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日	
3	専	教授	ナガセ リョウ 長瀬 亮 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 キャリアデザイン3 国内インターン 機械電子創成概論※ 機構学 システム制御工学 技術者倫理 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 1後 3前 1 1前 1後 3後 4前 2前 2後 3後 4前 4後 4通	1 1 1 1 0.6 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成21年10月)	6日	
4	専	教授	ヒラツカ ケンイチ 平塚 健一 ＜平成28年4月＞		工学 博士		機械電子創成概論※ 材料とその性質 トライボロジー 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 2後 3前 2後 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成8年4月)	5日	
5	専	教授	マツイ シンスケ 松井 伸介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 機械加工法 精密加工 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 2後 3後 2後 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成23年4月)	5日	
6	専	教授	サトウ ノブオ 佐藤 宣夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 電気磁気学 半導体電力変換工学 電気機器学 機械電子創成発展講義2※ 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 1後 3前 3後 4前 2後 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 2 0.6 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日	
7	専	准教授	アキタ タクシ 秋田 剛 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 材料力学 機械力学 シミュレーション工学 機械電子創成発展講義1※ 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 2前 3前 3後 4前 2後 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 2 0.6 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成24年4月)	5日	
8	専	准教授	アライ ヒロシ 新井 浩志 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		初年次教育 機械電子創成概論※ デジタル回路 プログラミング言語※ 組込みシステム ネットワークプログラミング 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 1前 2後 2後 3前 3後 2前 3後 4前 4後 4通	1 0.5 2 1 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成5年4月)	5日	
9	専	准教授	オオノ マサヒロ 大野 正弘 ＜平成28年4月＞		工学 博士		機械電子創成概論※ 応用数学 熱・流体工学 機械電子創成発展講義2※ 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 2後 3後 4前 2前 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 0.6 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成12年4月)	5日	
10	専	准教授	トクナガ フヨシ 徳永 剛 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ デジタルものづくり センサ工学 機械電子創成発展講義1※ 機械電子創成基礎実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 1前 3前 4前 2後 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 0.6 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成17年4月)	5日	
11	専	助教	スガ ヒロシ 菅 洋志 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 電気回路 計測工学 機械電子創成応用実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	1前 2前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.5 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 助教 (平成24年4月)	5日	
12	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術 物理学実験	3前・後、4前 1後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)		
13	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2 国際社会論	1前・後、2前 1前・後、2前 3前・後、4前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)		

14	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士	倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成12年4月)	
15	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後、2前 1前・後、2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後、2前 1前・後、2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
16	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション C 1 英語コンプリヘンション C 2 アドバンスト・コミュニケーション B 1 アドバンスト・コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション C 1 アドバンスト・コンプリヘンション C 2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
17	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後、2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
18	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
19	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
20	兼任	教授	タサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
21	兼任	教授	コバヤシ ケンジ 小林 憲司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	化学基礎	2前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成2年4月)	
22	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後、2前 3前・後、4前 3前・後、4前 2後 2後 4前・後 1前	4 4 4 4 2 2 1	2 2 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
						ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンスト・コミュニケーション A 1 アドバンスト・コミュニケーション A 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
24	兼任	教授	ジョー ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成14年9月)	
25	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後、4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
26	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理の世界と先端技術 ポラリティア 物理学実験	3前・後、4前 1・2・3・4 1後	4 1 2	2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成 6 年4月)	
27	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論	1前・後、2前 1前 2後 2後 4前・後	8 4 4 2 2	4 4 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
28	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後、4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
29	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後、2前 1前・後、2前 1前・後、2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
30	兼任	教授	ハンダチ ヒデコ 橋口 秀子 ＜平成28年4月＞		博士 (数理学)	線形代数基礎 線形代数応用	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
31	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーション A 1 英語コミュニケーション A 2 ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション A 1 英語コンプリヘンション A 2	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
32	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	環境科学概論	1前・後、2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
33	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後、4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
34	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後、2前 2後 2後 3前・後、4前・後	14 2 4 2 6	7 1 2 1 3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
35	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後、2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
36	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション C 1 英語コミュニケーション C 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
37	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション B 1 英語コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
38	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
39	兼任	准教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	微分方程式	2前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	

40	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 微分積分	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
41	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
42	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
43	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 4前・後 1前	12 6 2 2 1	6 3 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
44	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解 国際社会論 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前 2後	10 10 2 2 2	5 5 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
45	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
46	兼任	准教授	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
47	兼任	准教授	トドロキ ノリカズ 轟木 義 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
48	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツ科学 スポーツアクティブラーニング	1前・後 3前・後, 4前・後	26 2	13 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
49	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
50	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
51	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	12 2 4 2 2	6 1 2 1 8 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
52	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
53	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学 環境科学概論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	4 6	2 3	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
54	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
55	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
56	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
57	兼任	准教授	リョウ イシオウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
58	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	14 2 4 2 6 2	7 1 2 1 3 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
59	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
60	兼任	助教	ウイリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2 イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング2 イングリッシュアクティブラーニング3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
61	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2 イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング2 イングリッシュアクティブラーニング3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
62	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
63	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	14 2 4 2 8	7 1 2 1 4	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
64	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	

65	兼任	助教	ヤマシタ モトイ 山下 基 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イヅミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
68	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
69	兼任	講師	イナダマ ナオコ 稲玉 直子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学実験	1後	2	1	放射線医学総合研究 所 分子イメージン グ研究センター 主任研究員 (平成18年4月)	
70	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福 祉学)	経済学 現代社会論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
71	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
72	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
73	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
74	兼任	講師	オオガ タカシ 大鷲 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物質科学	3前・後, 4前	4	2	東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教務職員 (昭和59年4月)	
76	兼任	講師	オオスガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
77	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
78	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
79	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
80	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合 研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カトウ ノブユキ 加藤 伸幸 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	基礎統計学	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年9月)	
84	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
85	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
86	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
87	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士	文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
88	兼任	講師	コマツ ナオキ 小松 直樹 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
89	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
90	兼任	講師	シモダ アツコ 雷田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
91	兼任	講師	スガワラ アネラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
92	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
93	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
94	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4	海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
95	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
96	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
97	兼任	講師	タナカ ヒデカズ 田中 秀和 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 微分積分	1前 1後	2 2	1 1	東京工業大学 流動研究員 (平成24年4月)	
98	兼任	講師	ツカダ ヒゲヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
99	兼任	講師	ナカグチ トシヤ 中口 俊哉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学基礎	1前	2	1	千葉工業大学大学院 工学研究科 准教授 (平成15年4月)	

100	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※	科学技術史	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
101	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
102	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学	1前・後	12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
103	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
104	兼任	講師	ニシモト ヤスヲサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 6	2 6	千葉工業大学 兼任勤務講師 (平成23年4月)	
105	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ハンバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
107	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
108	兼任	講師	ハヤシ ヤスオ 林 安男 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数基礎 線形代数応用	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成8年4月)	
109	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
110	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合 研究所シニアリ サーチャー (平成23年4月)	
111	兼任	講師	フクモト キクコ 福本 喜久子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	化学基礎	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
112	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
113	兼任	講師	マナダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
114	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 8 4	2 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
115	兼任	講師	ミヤギシ アキノブ 宮越 昭輔 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4	産業技術総合研究所 主任研究員 (平成16年4月)	
116	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 2	2 2	千葉工業大学 兼任勤務講師 (平成27年4月)	
117	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
118	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
119	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
120	兼任	講師	ヤスダ マサミ 安田 正實 ＜平成29年4月＞		理学 博士	基礎統計学	2前	2	1	千葉大学 名誉教授 (昭和50年5月)	
121	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)	異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
122	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
123	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	憲法と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前	8 12	4 6	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	
124	兼任	講師	ワカイ ケンタロウ 若井 健太郎 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	微分方程式	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

(注)

1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。

3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員の記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(工学部 機械電子創成工学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 適 当 た り 平 均 日 数
1	専	教授	セキ ヒロカズ 関 弘和 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		システム制御理論 機械電子創成発展講義2※ 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 4前 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成15年4月)	5日
2	専	教授	テシマ ヨシノリ 手嶋 吉法 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成発展講義1※ 機械電子創成応用実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	4前 3前 3後 4前 4後 4通	0.6 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
3	専	教授	ナガセ リョウ 長瀬 亮 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン3 国内インターン システム制御工学 技術者倫理 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 1・2・3・4 3後 4前 3後 4前 4後 4通	1 1 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成21年10月)	6日
4	専	教授	ヒラツカ ケンイチ 平塚 健一 ＜平成28年4月＞		工学 博士		トライボロジー 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 5	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成8年4月)	5日
5	専	教授	マツイ シンスケ 松井 伸介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		精密加工 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 5	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成23年4月)	5日
6	専	教授	サトウ ノブオ 佐藤 宣夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		半導体電力変換工学 電気機器学 機械電子創成発展講義2※ 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 3後 4前 3後 4前 4後 4通	2 2 0.6 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
7	専	准教授	アキタ タクシ 秋田 剛 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械力学 シミュレーション工学 機械電子創成発展講義1※ 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 3後 4前 3後 4前 4後 4通	2 2 0.6 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成24年4月)	5日
8	専	准教授	アライ ヒロシ 新井 浩志 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		組込みシステム ネットワークプログラミング 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成5年4月)	5日
9	専	准教授	オオノ マサヒロ 大野 正弘 ＜平成28年4月＞		工学 博士		熱・流体工学 機械電子創成発展講義2※ 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3後 4前 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成12年4月)	5日
10	専	准教授	トクナガ フヨシ 徳永 剛 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		センサ工学 機械電子創成発展講義1※ 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3前 4前 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成17年4月)	5日
11	専	助教	スガ ヒロシ 菅 洋志 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		計測工学 機械電子創成応用実験・実習 機械電子創成発展実験・実習 ゼミナール1 ゼミナール2 卒業研究	3後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 助教 (平成24年4月)	5日
12	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
13	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		国際社会論	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	

津田沼キャンパス

14	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 教授 （平12年4月）	
15	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 （文学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成9年4月）	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 （文学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成9年4月）	
16	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成11年4月）	
17	兼任	教授	カサシマ コシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 （工学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成15年4月）	
18	兼任	教授	カサ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1		千葉工業大学 工学部 教授 （平成2年4月）	
19	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 （文学） ※						千葉工業大学 教育センター 教授 （平21年4月）	
20	兼任	教授	タサノ シンユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成10年4月）	
21	兼任	教授	コバヤシ ケンジ 小林 憲司 ＜平成28年4月＞		博士 （理学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成2年4月）	
22	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 （法学） ※	政治と社会 グローバル時代の法	3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 4	2 2		千葉工業大学 教育センター 教授 （平成14年4月）	
						総合科学特論	4前・後	2	1			
23	兼任	教授	シブヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph. D （英国）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成24年4月）	
24	兼任	教授	ジヨ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 （工学）	国際インターン	1・2・3・4	1	1		千葉工業大学 社会システム科学部 教授 （平成14年9月）	
25	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 （昭和56年4月）	
26	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 （工学）	物理の世界と先端技術 ボランティア	3前・後, 4前 1・2・3・4	4 1	2 1		千葉工業大学 教育センター 教授 （平成6年4月）	
27	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 （人文学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平7年4月）	
						総合科学特論	4前・後	2	1			
28	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 （理学）	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 （平成11年4月）	
29	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 （文学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成8年4月）	
30	兼任	教授	ハシグチ ヒデコ 橋口 秀子 ＜平成28年4月＞		博士 （数理科学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成9年4月）	
31	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成7年4月）	
32	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 （理学）						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成14年4月）	
33	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 （平成8年4月）	
34	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 （体育科学）	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	6	3		千葉工業大学 教育センター 教授 （平成13年4月）	
35	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 （平成元年4月）	
36	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 （文学） ※						千葉工業大学 教育センター 准教授 （平成13年4月）	
37	兼任	准教授	アリイ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 准教授 （昭和59年4月）	
38	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 （知識科学）						千葉工業大学 教育センター 准教授 （平成24年4月）	
39	兼任	准教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 ＜平成29年4月＞		博士 （理学）						千葉工業大学 教育センター 准教授 （平成14年4月）	
40	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 （理学）						千葉工業大学 教育センター 准教授 （平成21年4月）	
41	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 （理学）	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 准教授 （平成18年4月）	
42	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 （教育学）						千葉工業大学 教育センター 准教授 （平成25年4月）	

43	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		総合科学特論		4前・後	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
44	兼任	准教授	ストウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		国際社会論		3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
45	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		物質科学		3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
46	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士							千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士							千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
47	兼任	准教授	トドロキ ノリカズ 轟木 義一 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)							千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
48	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※		スポーツアクティブラーニング		3前・後, 4前・後	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
49	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)							千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
50	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		物理の世界と先端技術		3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
51	兼任	准教授	ヒキハラ ヌウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツアクティブラーニング 総合科学特論		3前・後, 4前・後 4前・後	8 2	4 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
52	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育学) ※							千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
53	兼任	准教授	ミナミサワ マコミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		物質科学		3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
54	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)							千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
55	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)							千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
56	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)							千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
57	兼任	准教授	リョウ イシオウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)							千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
58	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツアクティブラーニング 総合科学特論		3前・後, 4前・後 4前・後	6 2	3 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
59	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理学) ※							千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
60	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.		イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング2 イングリッシュアクティブラーニング3		3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
61	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング2 イングリッシュアクティブラーニング3		3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
62	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※							千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
63	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツアクティブラーニング		3前・後, 4前・後	8	4	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
64	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		物理の世界と先端技術		3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
65	兼任	助教	ヤマンタ モトイ 山下 基 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)							千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)							千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イズミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)							千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
68	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士							千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
69	兼任	講師	イナダマ ナオコ 稲玉 直子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)							放射線医学総合研 究所 分子イメージ ング研究センター 主任研究員 (平成18年4月)	
70	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福 祉学)		経済学		3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	

71	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
72	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
73	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2		千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
74	兼任	講師	オオガ タカシ 大鷗 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学	3前・後, 4前	8	4		千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	オオガキ クミコ 大楠 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物質科学	3前・後, 4前	4	2		東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教務職員 (昭和59年4月)	
76	兼任	講師	オオスガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
77	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
78	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
79	兼任	講師	オダイ カウヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
80	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 真 ＜平成28年4月＞		薬学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4		(独)放射線医学総合 研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カトウ ノブユキ 加藤 伸幸 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成20年9月)	
84	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
85	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
86	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M.A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
87	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
88	兼任	講師	コマツ ナオキ 小松 直樹 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
89	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
90	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
91	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4		千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
92	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M.A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
93	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
94	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4		海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
95	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
96	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 安一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
97	兼任	講師	タナカ ヒデカズ 田中 秀和 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						東京工業大学 流動研究員 (平成24年4月)	
98	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
99	兼任	講師	ナカグチ トシヤ 中口 俊哉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)						千葉大学大学院 工学研究科 准教授 (平成15年4月)	
100	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
101	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
102	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士						順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
103	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
104	兼任	講師	コシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
105	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士						東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
107	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士						千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
108	兼任	講師	ハヤシ ヤスオ 林 安男 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成8年4月)	
109	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士						順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	

110	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合 研究所シニアリー チャーチャー (平成23年4月)	
111	兼任	講師	フタモト キクコ 福本 喜久子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
112	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
113	兼任	講師	マサダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M.A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
114	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)		政治と社会 グローバル時代の法	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 4	4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
115	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学	3前・後, 4前	8	4	産業技術総合研究所 主任研究員 (平成16年4月)	
116	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
117	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
118	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
119	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
120	兼任	講師	ヤスダ マサミ 安田 正實 ＜平成29年4月＞		理学 博士						千葉大学 名誉教授 (昭和50年5月)	
121	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
122	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
123	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※		グローバル時代の法	3前・後, 4前	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	
124	兼任	講師	ワカイ ケンタロウ 若井 健太郎 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(工学部 機械電子創成工学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務 に 従 事 す る 適 当 た り 平 均 日 数
1	専	教授	セキ ヒロカズ 関 弘和 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 電子デバイス アナログ回路 プログラミング言語※ 機械電子創成基礎実験・実習	1前 2前 2後 2後 2前	0.5 2 2 0.9 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成15年4月)	5日
2	専	教授	テシマ ヨシノリ 手嶋 吉法 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 力学 機械設計製図学	1前 1後 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
3	専	教授	ナガセ リョウ 長瀬 亮 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 国内インターン 機械電子創成概論※ 機構学 機械電子創成基礎実験・実習	1前 1後 1・2・3・4 1前 1後 2前	1 1 1 0.6 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成21年10月)	6日
4	専	教授	ヒラツカ ケンイチ 平塚 健一 ＜平成28年4月＞		工学 博士		機械電子創成概論※ 材料とその性質 機械電子創成基礎実験・実習	1前 2後 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成8年4月)	5日
5	専	教授	マツイ シンスケ 松井 伸介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 機械加工法 機械電子創成基礎実験・実習	1前 2後 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成23年4月)	5日
6	専	教授	サトウ ノブオ 佐藤 宣夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 電気磁気学 機械電子創成基礎実験・実習	1前 1後 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
7	専	准教授	アキタ タケン 秋田 剛 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 材料力学 機械電子創成基礎実験・実習	1前 2前 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成24年4月)	5日
8	専	准教授	アライ ヒロシ 新井 浩志 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		初年次教育 機械電子創成概論※ デジタル回路 プログラミング言語※ 機械電子創成基礎実験・実習	1前 1前 2後 2後 2前	1 0.5 2 1	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成5年4月)	5日
9	専	准教授	オオノ マサヒロ 大野 正弘 ＜平成28年4月＞		工学 博士		機械電子創成概論※ 応用数学 機械電子創成基礎実験・実習	1前 2後 2前	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成12年4月)	5日
10	専	准教授	トクナガ フヨシ 徳永 剛 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ デジタルもののづくり 機械電子創成基礎実験・実習	1前 1前 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成17年4月)	5日
11	専	助教	スガ ヒロシ 菅 洋志 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		機械電子創成概論※ 電気回路 機械電子創成基礎実験・実習	1前 2前 2後	0.5 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 助教 (平成24年4月)	5日
12	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
13	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	

14	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士	倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成12年4月)	
15	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後、2前 1前・後、2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後、2前 1前・後、2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
16	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション C 1 英語コンプリヘンション C 2 アドバンスト・コミュニケーション B 1 アドバンスト・コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション C 1 アドバンスト・コンプリヘンション C 2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
17	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後、2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
18	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
19	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
20	兼任	教授	タサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
21	兼任	教授	コバヤシ ケンジ 小林 憲司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	化学基礎	2前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成2年4月)	
22	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	憲法と社会 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後、2前 2後 2後 1前	4 4 2 1	2 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
23	兼任	教授	シブヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph.D (英国)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンスト・コミュニケーション A 1 アドバンスト・コミュニケーション A 2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
24	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成14年9月)	
25	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士					千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
26	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ボランティア 物理学実験	1・2・3・4 1後	1 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成 6 年4月)	
27	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 1前 2後 2後	8 4 4 2	4 4 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
28	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
29	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後、2前 1前・後、2前 1前・後、2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
30	兼任	教授	ハンダチ ヒデコ 橋口 秀子 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科学)	線形代数基礎 線形代数応用	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
31	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーション A 1 英語コミュニケーション A 2 ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション A 1 英語コンプリヘンション A 2	1前 1後 1前 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
32	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	環境科学概論	1前・後、2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
33	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
34	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後、2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
35	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後、2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
36	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション C 1 英語コミュニケーション C 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
37	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション B 1 英語コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
38	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
39	兼任	准教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	微分方程式	2前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	

40	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 微分積分	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
41	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
42	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
43	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	12 6 2 1	6 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
44	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後	10 10 2 2	5 5 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
45	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
46	兼任	准教授	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
47	兼任	准教授	トドロキ ノリカズ 轟木 義 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
48	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツ科学	1前・後	26	13	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
49	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
50	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
51	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	12 2 4 2	6 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
52	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
53	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
54	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
55	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
56	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
57	兼任	准教授	リョウ イシウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
58	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
59	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
60	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
61	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
62	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
63	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
64	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	

65	兼任	助教	ヤマシタ モトイ 山下 基 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イヅミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
68	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
69	兼任	講師	イナダマ ナオコ 稲玉 直子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学実験	1後	2	1	放射線医学総合研究 所 分子イメージン グ研究センター 主任研究員 (平成18年4月)	
70	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福 祉学)	現代社会論	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
71	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
72	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
73	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
74	兼任	講師	オオガ タカシ 大鷲 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士					東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教務職員 (昭和59年4月)	
76	兼任	講師	オオスガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
77	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
78	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
79	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
80	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士					(独)放射線医学総合 研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カトウ ノブユキ 加藤 伸幸 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	基礎統計学	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年9月)	
84	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
85	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
86	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
87	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士	文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
88	兼任	講師	コマツ ナオキ 小松 直樹 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
89	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
90	兼任	講師	シモダ アツコ 雷田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
91	兼任	講師	スガワラ アネラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
92	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
93	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
94	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
95	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
96	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
97	兼任	講師	タナカ ヒデカズ 田中 秀和 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 微分積分	1前 1後	2 2	1 1	東京工業大学 流動研究員 (平成24年4月)	
98	兼任	講師	ツカダ ヒゲヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
99	兼任	講師	ナカグチ トシヤ 中口 俊哉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学基礎	1前	2	1	千葉大学大学院 工学研究科 准教授 (平成15年4月)	

100	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※	科学技術史	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
101	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
102	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学	1前・後	12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
103	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
104	兼任	講師	ニシモト ヤスヲサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 6	2 6	千葉工業大学 兼任勤務講師 (平成23年4月)	
105	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ハンバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
107	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
108	兼任	講師	ハヤシ ヤスオ 林 安男 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数基礎 線形代数応用	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成8年4月)	
109	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
110	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士					(独)放射線医学総合 研究所シニアリ サーチャー (平成23年4月)	
111	兼任	講師	フクモト キクコ 福本 喜久子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	化学基礎	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
112	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
113	兼任	講師	マナダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
114	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
115	兼任	講師	ミヤギシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					産業技術総合研究所 主任研究員 (平成16年4月)	
116	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 楊子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 2	2 2	千葉工業大学 兼任勤務講師 (平成27年4月)	
117	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
118	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
119	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
120	兼任	講師	ヤスダ マサミ 安田 正實 ＜平成29年4月＞		理学 博士	基礎統計学	2前	2	1	千葉大学 名誉教授 (昭和50年5月)	
121	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)	異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
122	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
123	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	憲法と社会	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	
124	兼任	講師	ワカイ ケンタロウ 若井 健太郎 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	微分方程式	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

(注)

1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に就任定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。

3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	3人	1人	2人	人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	2人	1人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	5人	3人	3人	人	人	11人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。